

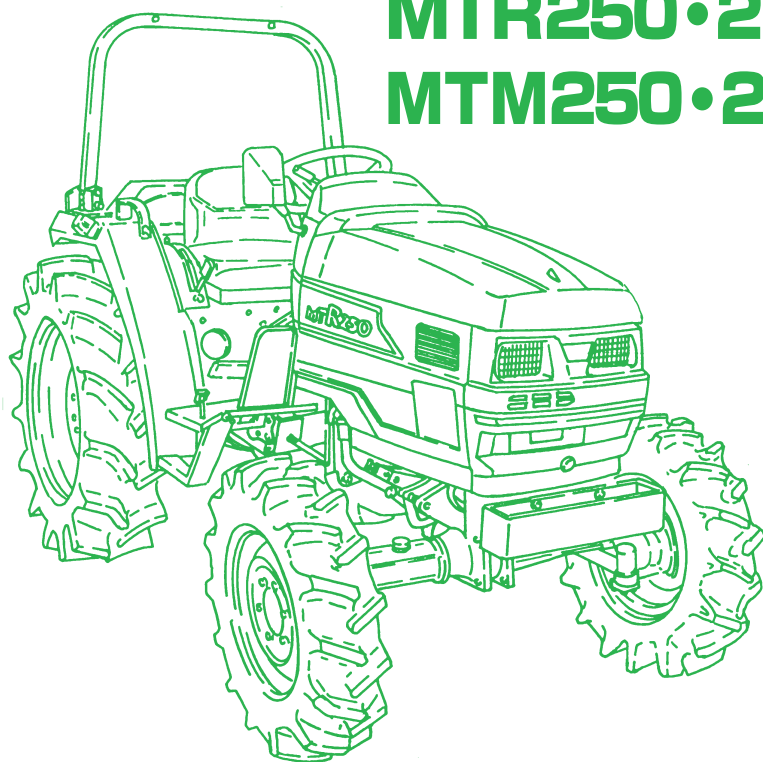
三菱トラクタ

取扱説明書

PALCEED

MTR250・270・300

MTM250・270・300



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください




このたびはトラクタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

- ・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
- ・また、この機械を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
- ・本書では、安全上重要な事項を(⚠)で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

	その警告に従わなかった場合は、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
	その警告に従わなかった場合は、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
	その警告に従わなかった場合は、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- ・なお、この機械の品質・性能向上あるいは安全のために、使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、機械と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●機械の使用目的について

- ・機械は、ほ場でのロータリ耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。
- ・機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりません。(詳細は保証書をご覧ください。)

こんなとき, こんなことが知りたいとき, ここを見てください!

この取扱説明書は, 次の通り構成されています。まず, **安全作業のために** からお読みいただき, 基本事項から操作, 点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● 安全な作業をするための注意事項は?

安全作業のために



安全な作業をしていただくために, 安全に関する基本事項, 表示ラベル (危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル) について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● 使用前に知っておかなければならないことは?

ご使用まえに ①

機械の概要「仕様 (装備)」等について説明しています。

● 各部のはたらきを知るには?

各部のはたらき ④

機械の主な名称について説明し, 各装置の取扱いを説明しています。

● トラクタを動かすには?

運転のしかた ⑭

運転前の点検: 作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた: エンジンの始動・発進・停止・走行のしかた, 自動車への積込み・積降ろしのしかた, 坂道での運転のしかた等を説明しています。

● ほ場作業を行うには?

作業のしかた ⑳

作業に必要な装置の使いかたについて説明しています。

● マイコンを使用して作業するには?

マイコン装備機の取扱い ㉔

マイコンの取扱いについて説明しています。

● 機械を長もちさせるには?

手入れのしかた ㉘

機械をつねに正常な状態に保つために, 手入れのしかたについて説明しています。

● 機械を長期格納するときは?

長期格納のしかた ㉚

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● 故障かなと思ったら?

不調時の処置 ㉜

異常を感じたら, すぐ原因を調べ処置してください。

● 主要諸元, 電気配線図, 主な消耗部品は?

付 表 ㉞

も く じ

安全作業のために ……(安全作業説明編)

ご使用まえに ……1

1. 保証とサービスについて …… 1
2. 仕様(装備)について …… 2
3. 用語について …… 2
4. 小型特殊自動車について …… 3
 1. 小型特殊自動車の届出 …… 3
 2. 公道を走行する時 …… 3

各部のはたらき ……4

1. 各部の名称 …… 4
2. 運転装置の取扱い …… 6
 1. スイッチ・計器関係 …… 6
 2. レバー・ペダル・シート関係 ……10
3. 安全フレームの取扱い ……18
 1. 安全作業について ……18
 2. 安全フレームのたおしかた・おこしかた ……19
4. 電装関係の取扱い ……20
 1. ヒューズおよびヒューズブルリンクの取扱い ……20
5. 油圧装置の取扱い ……22
 1. コントロールレバーの操作 ……22
 2. 作業機降下速度の調節 ……23
 3. パワーステアリングの取扱い ……24
 4. フロントローダの取扱い ……25
6. 3点リンクの取扱い ……26
 1. トップリンク ……26
 2. 作業機を取付けない時は ……26
 3. ドローバ(アタッチメント) ……26
 4. PTOガード, キャップ ……26
 5. ロータリの取付け ……26

運転のしかた ……27

1. 運転まえの点検 ……27
 1. 点検項目 ……27
2. 運転操作のしかた ……28
 1. エンジンの始動 ……28
 2. 発進のしかた ……29
 3. 走行のしかた ……31
 4. 停止のしかた ……32

5. 自動車への積込み・積降ろし ……33
6. 坂道での運転のしかた ……34

作業のしかた ……35

1. ほ場作業のしかた ……35
 1. ほ場への出入りのしかた ……35
 2. 作業に適した速度の選びかた ……36
 3. デフロックの使いかた ……37
 4. ほ場での旋回のしかた ……37
 5. ダイヤクイックターンの使いかた ……38
2. 作業に必要な装置の使いかた ……39
 1. トレッドの調節のしかた ……39
 2. 3点リンクの取付け寸法の設定のしかた ……41
 3. 作業機の取扱い ……43
 4. バンパウェイト(オプション) ……43

マイコン装備機の取扱い ……44

1. 傾斜自動の取扱い ……44
 1. 操作部名称 ……44
 2. 取扱い方法 ……44

手入れのしかた ……46

1. 定期点検整備表 ……46
2. 給油・給脂・給水のしかた ……48
 1. 給油・給脂・給水個所 ……48
 2. 給油・給脂・給水表 ……49
 3. エンジンオイルの点検と交換 ……50
 4. エンジンオイルフィルタの交換 ……51
 5. 燃料の補給 ……51
 6. 燃料フィルタの掃除と交換 ……52
 7. エア抜き要領 ……52
 8. 冷却水の保守管理 ……53
 9. ミッションオイルの点検と交換 [MTR型] ……55
 - 9-1. ミッションオイルの点検と交換 [MTM型] ……56
 10. 油圧オイルフィルタの交換 ……57
 11. HSTオイルフィルタの交換 [MTR型] ……57
 12. フロントアクスルオイルの点検と交換 ……58
 13. 各部の給脂 ……59
3. 各部の掃除のしかた ……60
 1. エアクリーナの掃除 ……60
 2. ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除 ……60

4. 各部の点検と調整のしかた	61	6. トラクタ関連商品	89
1. ファンベルトの点検・調整	61	7. 用語解説	90
2. クラッチペダルの点検・調整	61		
3. トーインの点検・調整	62		
4. ブレーキペダルの点検・調整	63		
5. タイヤの点検	64		
6. ハンドルの点検	64		
7. ホース類の点検	65		
8. 電気配線の点検と掃除	65		
9. バッテリーの点検と充電	66		
長期格納のしかた	70		
1. 機械の掃除・洗浄・格納	70		
2. 格納中の手入れ	71		
3. 再使用にあたって	71		
不調時の処置	72		
1. エンジン部	72		
1. 始動しない, または始動困難	72		
2. エンジン出力不足およびエンジン自然停止	73		
2. 走行・運転操作部	74		
1. 走らない, ブレーキがきかない	74		
2. パワーステアリング	75		
3. 油圧部	76		
1. 油圧関係	76		
4. 電気・自動制御部	77		
1. 電気関係	77		
付表	78		
1. 主要諸元	78		
2. 電気配線図	80		
3. 主な消耗部品	84		
1. エンジン関係	84		
2. エアクリーナ, 油圧ライン関係	84		
3. 電装関係	85		
4. アタッチメント一覧表	86		
5. 潤滑油について	87		
1. エンジンオイルについて	87		
2. ミッション, フロントアクスルオイルについて	87		
3. 三菱農機 純正油 マルチオイル	88		

(安全作業説明編)

安全作業のために

	ページ
1. 安全作業のしかた……………	(安-1)
⚠作業前に次のことを守りましょう！……………	(安-1)
⚠安全作業のポイント……………	(安-2)
⚠作業前の一般的な注意事項……………	(安-4)
⚠作業前の点検，整備，掃除をする時は……………	(安-6)
⚠エンジンを始動する時は……………	(安-11)
⚠作業機の装着および作業をする時は……………	(安-13)
⚠走行運転をする時は……………	(安-17)
⚠狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転する時は……………	(安-19)
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……………	(安-21)
⚠ほ場で作業をする時は……………	(安-22)
⚠1日の作業が終わったら……………	(安-23)
⚠長期格納する時は……………	(安-24)
2. 表示ラベルについて……………	(安-26)

安全作業のために

1. 安全作業のしかた

- ・安全上の重要な事項を **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** の3段階に分類して説明していますので、よく読んで理解し安全作業に努めてください。
- ・なお、この項で説明している安全説明はトラクタ全般についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p>⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none">●酒気をおびた人●妊娠している人●16才未満の人●指導者のいない運転未熟練者●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 <p>◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。</p>	<p>思わぬ事故を起こすことがあります。</p>  <p>今日は運転をやめておこう...</p>
<p>⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。</p>  <p>ヘルメット</p> <p>身体に合ったもの 袖口すっきり</p> <p>スベリ止めのある足に合った靴</p>	<p>このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。</p>  <p>くわえタバコ 巻きタオル 腰タオル ゲタ、ゾウリ</p>
<p>⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。</p>  <p>これもよんで</p>	<p>借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。</p> 



安全作業の

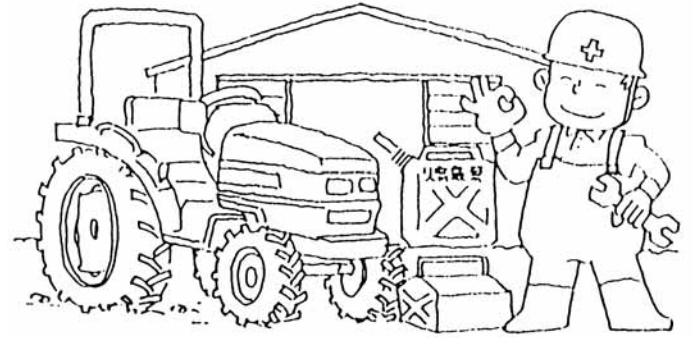
ポイント



- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

始業・点検 準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン，バッテリー，燃料タンクの周辺を掃除する
- バッテリーコードや電気配線，燃料ホースの点検
- 給油，冷却水の点検はエンジンが冷えている時に行う
- 燃料補給時は火気を近づけない
- 各部の締付けを確認する
- ブレーキの作動具合と左右の遊び量の点検
- ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認
- 方向指示器などの保安部品の作動確認
- 作業機を上げて点検するときは作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に固定脚を置く
- トラクタを移動して作業機を着脱する時はトラクタと作業機の間立たない
- 機械は改造しない
- 油脂類の廃却は，廃却設備のあるところで処理する



- 傾き自動スイッチ，深さ自動スイッチの「切」を確認する [マイコン装備機]
- PACレバーを《解除》にする [PAC装備機]
- トラクタや作業機に人や物を乗せない
- 発進時は周囲をたしかめる
- エンジンコントロールレバーを「低」にし，フットアクセルで走行する
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない

エンジン始動

- すべてのカバーを取付け，安全フレームをおこす
- トラクタや作業機の周囲から人を遠ざける
- 運転席に座り駐車ブレーキをかけ，シートベルトをする
- 主変速，副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にし，クラッチペダルを踏む
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする

走行・運転

- 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する
- PTO変速を「《N》（中立）」にし，ダイヤクイックターンを「切」にする



道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る
- 公道走行する時は作業機を装着しない
- 前後左右を確認し，低速車線を走る
- 夜間の移動はライトをつける
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはいしない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

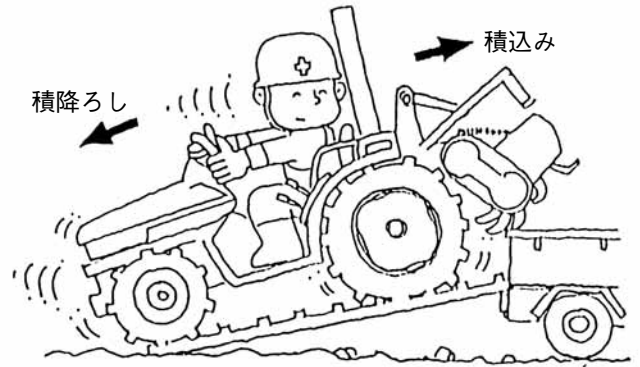
- 狭い農道や凸凹道は低速で走行する
- 対向車を避ける時，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 登り坂では急発進しない
- 下り坂では速度を下げエンジンブレーキを使用する
- 坂道では走行クラッチを切らない，変速レバーを「《N》（中立）」にしない

停車・駐車

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，主変速・副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にし作業機を降ろしてからエンジンを停止する
- 坂道では駐車しない
（やむをえず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れる時はキーを抜取る

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは十分な強度，幅，長さ（荷台高さの4倍以上），すべり止め，フック付きの基準に合ったアユミを使用する
- アユミは自動車の荷台に対し真っ直ぐにかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械のまわりには人を近づけない
- PTO変速を「《N》（中立）」にする
- 積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行う
- ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする
- アユミの上ではクラッチ操作や変速操作をしない
- 片ブレーキ，デフロックは使用しない



ほ場作業 ほ場の出入り

- PTO変速を「《N》（中立）」にする
- 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する
- 低速であぜに対して直角に行く
- 高あぜ，溝越え，急傾斜はアユミを使用する
- 上がるときは後進，降りるときは前進で行う
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う

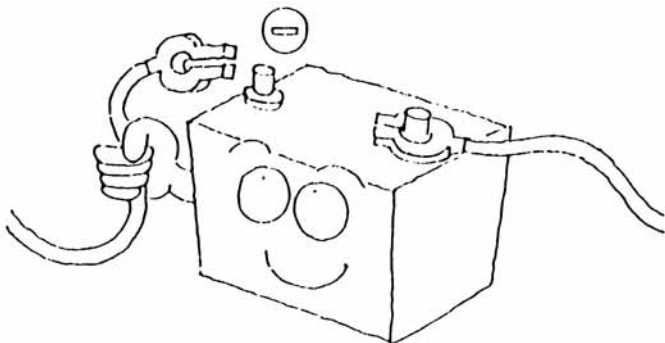


ほ場での作業

- 子供等，人をそばに近づけない。2人乗りはしない
- ウェイトがわりに人や物を乗せない
- 旋回時は周囲を確認する
- わき見運転や手放し運転はしない
- 急傾斜地では作業をしない
- デフロック使用後は解除を確認する
- けん引作業は純正ドローバを使用し，後車軸の高さより上では引っ張らない
- 疲労を感じたら無理に作業を続けず休憩をする

作業中途の点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 作業機の点検をする時は作業機降下速度調節グリップを「固定」にする
- エンジンまわりの点検はエンジンが冷えてから行う



終業・格納 1日の作業が終わったら

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけて作業機を降ろしエンジンを停止してキーを抜取る
- エンジン，バッテリー，燃料タンク周辺を掃除する
- マフラ，ラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- タイヤの交換，輪距の変更はジャッキと固定脚を使用する
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

長期格納

- 作業機は外すか，降ろしておく
- 燃料は満タンにし，燃料コックを閉めておく
- バッテリーのアースコードを外すか，バッテリーを取外す
- クラッチペダルを踏込んでペダルロックをかける
- 後輪の前後に歯止めをし，駐車ブレーキを解除する
- 部品（バッテリー等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

⚠️ 作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください

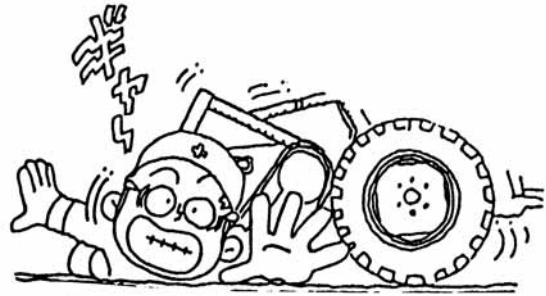
守らないとこんな事故が！



警告

◆機械はほ場でのロータリ耕うん作業，農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。

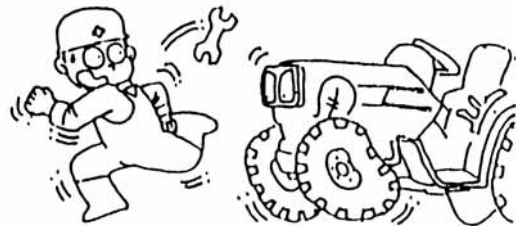
思わぬ事故を起こすことがあります。



警告

◆機械は改造しないでください。

改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。



警告

◆トラクタを使用する前後に点検を行い，異常箇所は直ちに整備してください。

◆1シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。

整備不良が原因で思わぬ事故を起こすことがあります。



警告

◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。

排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。



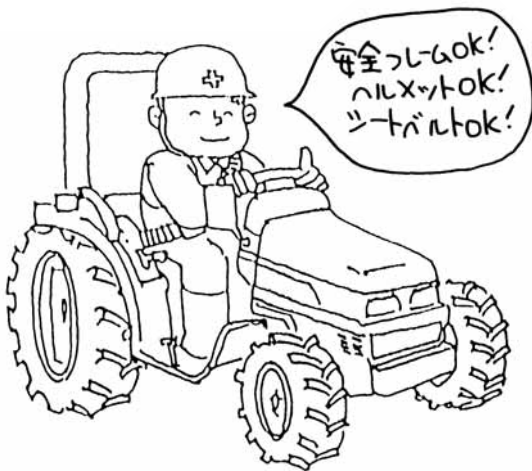
必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆トラクタでの傷害事故の大半は
転落・転倒事故です。安全フレーム
を取外して運転しないでくだ
さい。

◆通常は安全フレームを「おこして」シート
ベルトを着用してください。



転落や転倒した時は死亡または傷害事故になることが
あります。



◆機械に人や物を乗せたり、人を
近づけないでください。

- トラクタや作業機の上に人や物を乗せない。
- 子供等、人を近づけない。

思わぬ事故を引起こす原因となります。



◆トラクタへの飛び乗り、飛び降
りはしないでください。

転落や転倒して、傷害事故を引起こすことがあります。



⚠️ 作業前の点検・整備・掃除をする時は……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

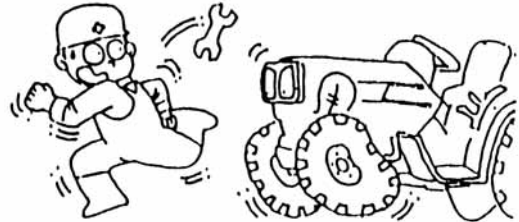


警告

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止させタイヤに歯止めをしてから行なってください。

- 主変速、副変速、PTO変速レバーが「《N》（中立）」になっていることを確認する。

機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。



危険

◆給油、注油時はエンジンを停止しエンジン回転中や、エンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。

- ◆燃料補給時は、くわえタバコなどの火気を近づけないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとる。

燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となることがあります。



危険

◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか点検してください。

- もれている場合は交換する。
- 燃料ホースは2年ごとに交換する。

火災事故を引起こすことがあります。

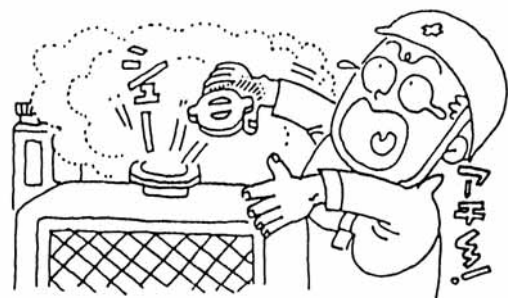


警告

◆ラジエータが熱い時は、ラジエータキャップを外さないでください。

- ラジエータキャップを開ける場合は、エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。
- 冷却水の点検はリザーブタンクで行う。

熱湯が吹きだし、ヤケドをすることがあります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆エンジンオイル等の油脂類や不凍液の廃却は、廃却設備のある所で処理してください。

環境汚染の原因となります。



◆バッテリーの点検時、火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。

バッテリーから水素ガスが出ますので、引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。



◆バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。

バッテリー液（希硫酸）で服が破れたり、失明やヤケドをすることがあります。

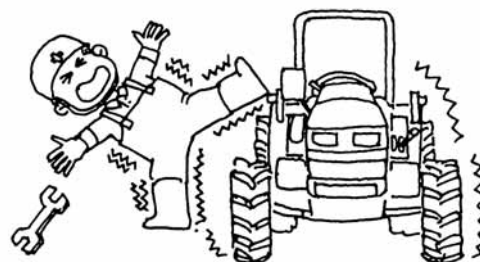
◆バッテリー液が、目、皮膚、衣服、物についた時は、すぐに多量の水で洗い、飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。



◆バッテリー端子から、コードを取外すときは、⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください。

ショートして、ヤケドや火災の原因となります。

- バッテリーは指定されたバッテリーを使用する。
- ⊕⊖を逆に接続しない。



必ず守ってください

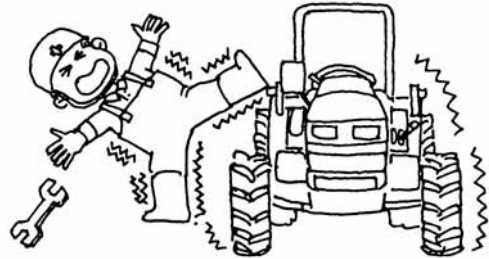
守らないとこんな事故が！



◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか、はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

- 電気部品を取外す前にバッテリー⊖側のコードをバッテリー端子から外す。

ショートして、ヤケドや火災の原因となります。



◆タイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。

- タイヤの空気は入れすぎない。
- ◆タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。
- ◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。(特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。)

タイヤに空気を入れすぎる(空気圧が高すぎる)と、タイヤが破裂し、死傷事故につながる可能性があります。



◆エンジン、マフラ、バッテリー、燃料タンクまわりにワラズやゴミなどが付着していないか、作業前に点検して付着していれば取除いてください。

火災事故を引起こすことがあります。



◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。

交通事故を引起こす原因となります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆ブレーキの点検調整をしてください。

- 左右のブレーキのきき具合は良いか、また左右ブレーキの踏代が同一になっているか確認する。
- ◆ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認してください。
- ◆前後輪（タイヤ）取付ボルトのゆるみがないか確認してください。

正常な走行運転ができず事故を引起こす原因となります。



正常な走行ができなくなり、事故を引起こす原因となります。

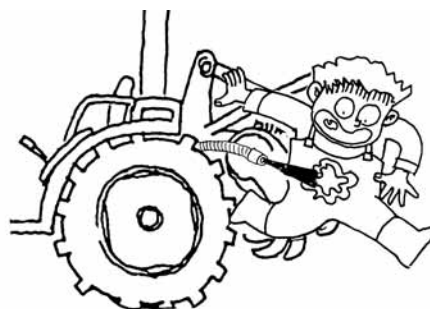


- ◆高圧噴油に触れないでください。
- ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に、エンジンを停止し、油圧リフト部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。

◆もし、高圧噴油に触れたら、直ちに医師の診断を受けてください。

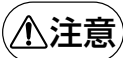
圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。

油が皮ふに浸透した場合、取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

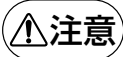


◆点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、正しく使用してください。

◆トラクタには、点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。



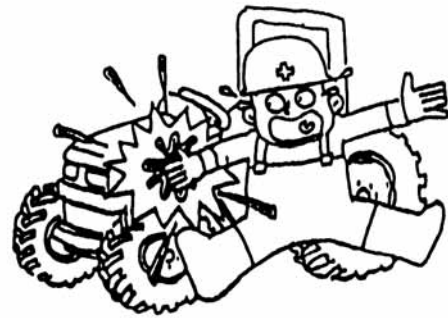
整備不良で事故を起こすおそれがあります。



◆点検・整備などで外したカバーなどは、全て取付けてください。

●カバーは正しく取付ける。

機械に巻込まれたりして、傷害事故を起こすことがあります。



⚠ エンジンを始動する時は……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p>⚠ 警告 ◆始動する前に、周囲を確認し、トラクタや作業機の周囲から子供等、人を遠ざけてください。</p>	<p>子供等、人が近づくと、傷害事故を引起こすことがあります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆始動はシートに座って正しい姿勢で行なってください。</p>	<p>機械が急に動き出し、人身事故や傷害事故の原因となることがあります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆主変速、副変速、PTO変速を「〈N〉（中立）」にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主変速、副変速、PTO変速のレバーが「〈N〉（中立）」になっているかレバーを手で動かして確認する。 ●クラッチペダルを踏んで始動します。 	<p>変速やクラッチが入っていると機械が動きだし事故の原因となることがあります。</p> 

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

- 換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。

排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。



警告

◆暖機運転は、主変速、副変速、PTO変速を「《N》(中立)」にし、平坦な場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。

トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因となることがあります。



⚠ 作業機の装着および作業をする時は……

必ず守ってください

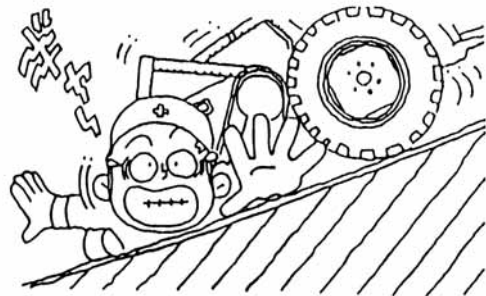
守らないとこんな事故が！



◆作業機を着脱する前に、平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。着脱作業は各部の動きが止まってから行なってください。

- 着脱は平坦な場所で、地盤のしっかりしたところで行う。
- 夜間は適切な照明をする。

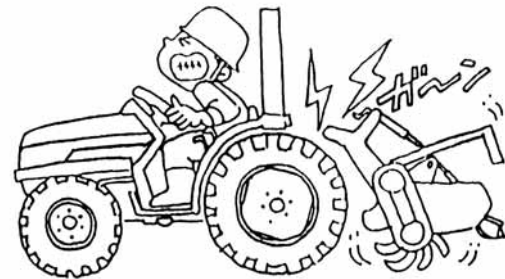
トラクタが動き出したりして、思わぬ傷害事故を起こす原因となります。



◆トラクタに適合した作業機を装着してください。

- 作業機の取扱説明書を読む。
- 吊り穴は作業機に応じて指定された穴位置で使用する。
- 左右のチェックチェーンを調整し、作業機が振れてもタイヤに触れないようにする。

思わぬ事故を起こすことがあります。



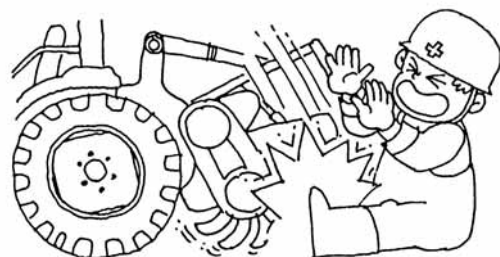
◆作業機の着脱で2人作業の時は合図を確実にし合って行なってください。

- ◆スーパーヒッチで作業機を着脱する時は周囲を確認しトラクタや作業機の周囲から子供等、人を遠ざけてください。
- トラクタを移動して作業機を着脱する時は、トラクタと作業機の間に入らない。
- 装着は手順通り正しく行う。
- 確実に装着して、ピンに抜け止めピンをする。
- 作業員以外の人を近づけない。
- ◆トップリンクの調整は作業機を下げてから行なってください。

機械にはさまれたりして、傷害事故を起こすことがあります。



作業機を上げたままで調整を行うと、トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、傷害事故を起こすことがあります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆ヨーク（ユニバーサルジョイント）の安全カバーは取外さないでください。

- 安全カバーの回り止めをする。
- ◆ヨークを確実にロックピンで固定してください。
- ヨークは作業機に標準装備されているものを使用する。
- ヨークは作業中真っ直ぐになるように装着する。

巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。



作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



◆各部のボルト、ナット、ロータリの爪等がゆるんでないか確認してください。

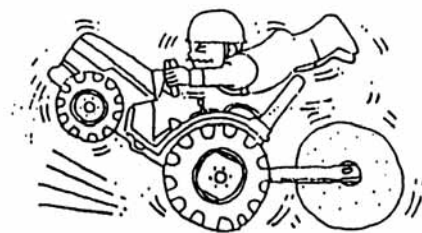
- ボルト、ナット類、耕うん爪等の取付ボルトがゆるんだ状態であれば、直ちに締める。

作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



◆重い作業機を装着した時は、トラクタのフロントに、バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。

トラクタがバランスを崩し傷害事故を引起こすことがあります。



◆フロントローダ作業をする時は、後方にウエイト又は他の作業機を装着するなどして、バランスを保ってください。

- ウエイトがわりに人や物を乗せない。ローダに見合ったバランスウエイトを装着する。

バランスを崩し転倒事故を引起こす原因となります。



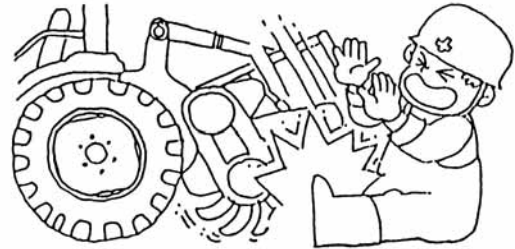
必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆作業機の下へもぐったり、足を踏んだりしないでください。

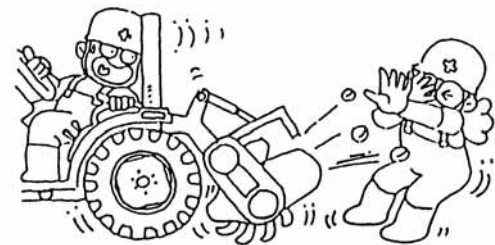
何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。



◆点検、調整時、爪交換時などに外したカバー類は、すべて元の位置に正しく装着してください。

機械に巻込まれたり、泥や石等がはねたりして傷害事故を起こすことがあります。

- ロータリカバーは泥や石等が飛散しないように調節する。



◆作業機ごとに指定されたPTO回転速度で使用してください。

作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



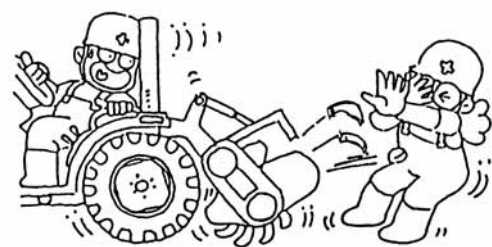
◆作業機を上げて点検する時や、草・ワラの巻付を除去する時は、作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に「固定脚」を入れ、作業機が降りないことを確認してください。

何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。

- 駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO変速を「《N》（中立）」にする。
- ◆ロータリの耕うん爪を交換する場合は、メガネレンチを使用し正しい姿勢で締付けてください。



確実に締付けないと、作業中に爪が抜けてとび、傷害事故を引起すことがあります。



必ず守ってください

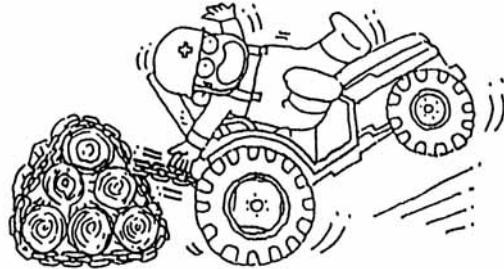
守らないとこんな事故が！



◆けん引作業は純正ドローバを使用し、後車軸の高さより上で引っ張らないでください。

- けん引する時は、トラクタが後方に転倒しないように純正ドローバを使用し、ゆっくりスタートする。

転倒事故を引起こす原因となります。



◆公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。

思わぬ事故を引起こすことがあります。

(作業機をつけて公道を走行すると交通法規違反となります。)



◆けん引や傾斜地での作業をするときは、支障のない範囲で輪距を広くしてください。

転倒事故を引起こす原因となります。



◆PTO軸を使用しない時は、PTOキャップを取付けてください。

巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。



⚠ 走行運転をする時は……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p>⚠ 警告 ◆発進するときは、周囲を確認してから発進してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子供等、人がトラクタ及び作業機に近づかないようにし、周囲にいる人を遠ざけてから発進する。 	<p>傷害事故を起こす原因となります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 左右のブレーキペダルを連結する。 ● デフロックを解除する。 	<p>ブレーキが片ぎきになったり、ハンドル操作しても旋回できなったりして事故を起こす原因となります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆ダイヤクイックターンの「切」、PTO変速の「《N》(中立)」を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発進前に、4駆切替レバーを「4WD」(入)か「2WD」(切)にする。 ● 発進前に、PTO変速を「《N》(中立)」にする。 ● 傾き自動、深さ自動を「切」にする。 ● PACレバーを「解除」にする。 	<p>傷害事故を起こすことがあります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 低速で発進する。 ● クラッチペダルはゆっくり離す。 ● 旋回するときは、エンジン回転を低速にして行う。 ● エンジンコントロールレバーを「低」にし、フットアクセルで走行する。 ● [MTR型] は油圧駆動のため、走行中に急激に主変速レバーを「《N》(中立)」にすると急停止します。 	<p>転倒事故を起こすことがあります。</p> 

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆公道を走行する時は、交通法規を守り、安全フレームを起こし、ヘルメットを着用し、シートベルトをしてください。

- 作業機は装着しない。
- 周囲を確認しながら走行する。
- わき見運転をしない。
- 低速車線を走る。

思わぬ傷害事故の原因となります。
トラクタ運転中は、気のゆるみが重大事故につながることを忘れないようにしてください。



◆夜間の移動はライトをつけてください。

- 夜間、対向車とすれ違う場合は、前照灯を下向きにして走行する。

対向車の運転者が目をくらまし、交通事故を引起こす原因となることがあります。



◆駐車・停車する時は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけてください。

- 作業機（ロータリ等）を降ろす。
- 座席を離れる時はエンジンを停止し、キーを抜取っておく。


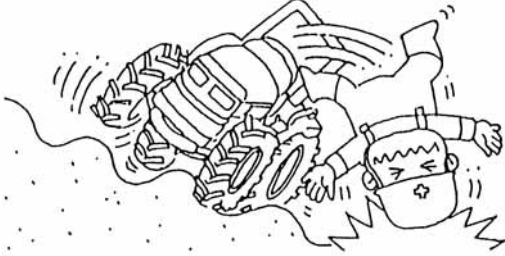
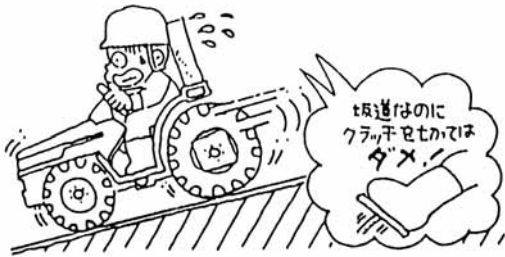
トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因となることがあります。



⚠️ 狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転する時は……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p>⚠️ 警告 ◆道路の端には寄りすぎないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対向車を避ける時、端に寄りすぎない。 ● 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。 ● 雨天や雨あがりのときは、低速で慎重に走行する。 	<p>路肩がくずれ転倒事故を起こすことがあります。</p> 
<p>⚠️ 警告 ◆坂道，傾斜地や凸凹道，カーブの多い道路では，高速運転をしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スピードを落として慎重に走行する。 	<p>転倒事故を起こします。</p> 
<p>⚠️ 警告 ◆坂道，傾斜地では，主変速や副変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして，ニュートラルで走行しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 坂にさしかかったら，坂の手前でいったんトラクタを止めて変速を低速に入れ変えて走行する。 ● 下り坂では，速度を下げエンジンブレーキを使用する。 	<p>エンジンブレーキがきかなくなってスピードが速くなり事故の原因となります。</p> 

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆坂道の途中や傾斜地での駐車はしないでください。やむをえず坂道の途中や傾斜地で駐車するときは、駐車ブレーキをかけて後輪に歯止めをしてください。

- 作業機（ロータリ等）は降ろす。
- ◆副変速を《L》に入れ、主変速レバーを1速に入れ、シャトルレバーを前進又は後進に入れてください。
- ◆[MTR型]は油圧駆動のため、変速を入れていてもエンジンを停止するとエンジンブレーキはききません。駐車ブレーキをかけてください。

トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因となります。



◆急な傾斜地では作業や走行をしないでください。

トラクタが転倒し傷害事故を引起こします。



◆果樹園作業、ハウス内作業では、走行速度を落とし周囲を確認して、慎重に運転してください。

- ◆高さ制限のある場所では安全フレームを後方に倒すことができますが、この位置では身体を保護することはできません。その際はシートベルトはしないでください。
- ヘルメットをかぶる。
- 切り株に乗り上げない。
- 枝にひっかからないようにする。

張り出した木の枝や、頭上の障害物で頭部や胸部を打って死亡または傷害事故になることがあります。切り株等で転倒したり、ひっかいた枝にたたかれ死亡または傷害事故になることがあります。



⚠ 自動車への積込み・積降ろしをする時は……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

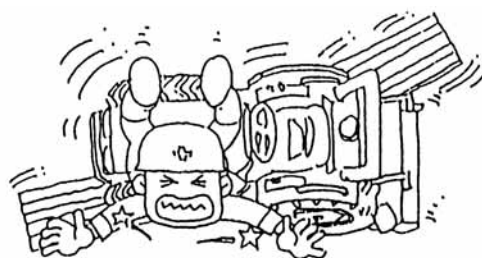


警告

◆アユミは十分な強度、幅、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フック付きの基準に合ったアユミを使用してください。

- 前後輪のタイヤがはみ出さない幅の広いアユミを使用する。
- 自動車は積載重量を超えない車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用する。
- 自動車はエンジンを停止し変速を1速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ、歯止めをする。

アユミが折れたりして、転倒事故を起こすことがあります。

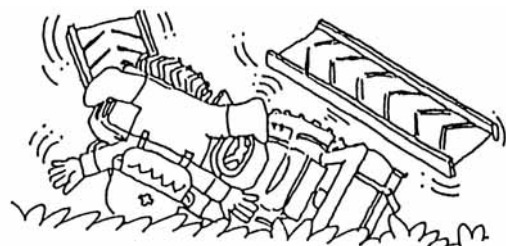


警告

◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。

- 2枚のアユミを左右のタイヤの間隔に合わせて置き、荷台に対して真っ直ぐにする。
- 荷台にアユミのフックを確実にかけ、外れないかを確認する。

バランスが崩れて、転倒事故を起こすことがあります。

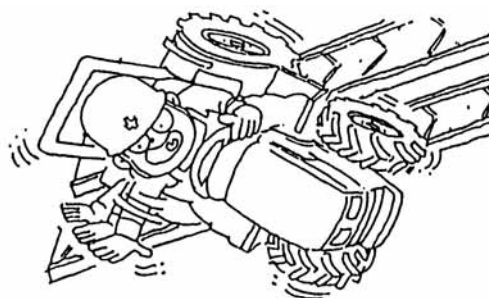


警告

◆積込みは後進、積降ろしは前進で行なってください。

- 補助者立会誘導のもとに行う。
- 機械のまわりに子供等、人を近づけない。
- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認する。
- アユミの上では、必要以上のハンドル操作はしない。
- ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする。

進路変更するとバランスが崩れて、転倒事故を起こすことがあります。



警告

◆アユミの上では走行クラッチを切らないでください。

- 途中でトラクタを止める必要がないよう、アユミの左右位置や平行、安定を確認し、低速で積込み・積降ろしを行う。

エンジンブレーキがきかなくなり、急降下して事故を起こすことがあります。

⚠ ほ場で作業をする時は……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

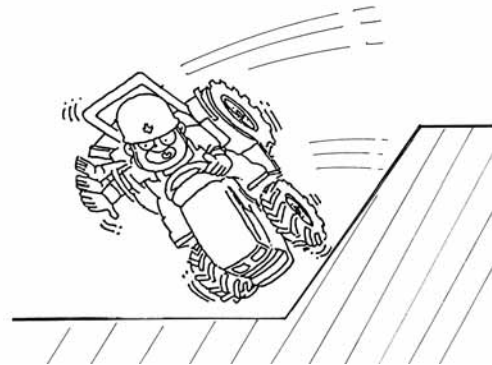


警告

◆急傾斜、溝越え、高いあぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。

- ほ場への出入りは上がる時は後進，降りるときは前進で低速で行う。
- PTO変速を「《N》（中立）」にする。
- アユミの上では必要以上のハンドル操作をしない。

バランスを崩したりして，転倒事故を引起こします。

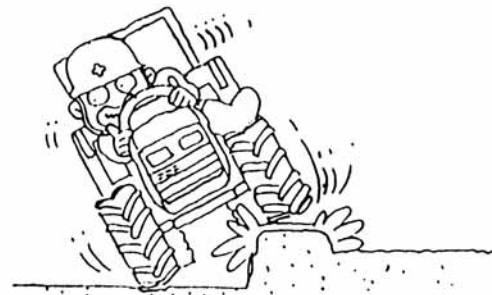


警告

◆あぜ越えは，低速であぜに直角に行なってください。

- 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する。
- あぜが崩れないか確認しゆっくり行う。

転倒事故を引起こすことがあります。



警告

◆作業中は，トラクタに人を近づけないようにしてください。

- ほ場に子供等，人を入れない。
- 子供等，人が近寄らないようにする。
- わき見運転をしない。特にあぜ際での旋回は，周囲に人がいないことを確認して行う。
- あぜ際での作業はむりをせず，枕地に余裕をとって，周囲を確認しゆっくり旋回する。

作業機が衝突したりして傷害事故を引起こすことがあります。



⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

<p>⚠ 警告 ◆作業が終了したら、平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●エンジン、マフラ、燃料タンクまわりのワラ、草等を除去・掃除する。 	<p>火災の原因となることがあります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆保管は平坦な場所に置き、作業機（ロータリ等）は地面に降ろし、駐車ブレーキをかけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●キーは抜取っておく。 ●PTO変速は「《N》（中立）」にしておく。 	<p>何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆シートカバーをかける場合は、マフラやエンジンが確実に冷えてから行なってください。</p>	<p>火災事故を引起こすことがあります。</p> 
<p>⚠ 警告 ◆ラジエータが熱い時は、ラジエータキャップを外さないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジエータキャップを開ける場合は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。 	<p>熱湯が吹きだし、ヤケドすることがあります。</p> 

⚠ 長期格納する時は……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆各部を水洗いして、平坦な場所でエンジンを停止し駐車ブレーキをかけ、キーを抜取ってください。

機械から目をはなしたときに子供等がイタズラをしたり、思わぬ事故の原因となることがあります。



警告

◆故障箇所、爪の摩耗があれば、早目に修理、交換します。

◆ボルトやナットがゆるんだ状態であれば、直ちに締付けます。

整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。



警告

◆バッテリーはトラクタから外して保管するか、⊖側のコードを外しておいてください。

●バッテリーをトラクタから外して保管する時は、⊖側のコードから外す。

火災事故の原因となることがあります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆格納するときは、クラッチ板こ
う着防止のためクラッチ板を離
した状態にしておいてください。

- クラッチペダルを一杯踏込んでフックをか
ける。
- 後輪の前後に歯止めをし、駐車ブレーキをか
けておく。

クラッチが切れなくなり思わぬ事故の原因となることがあります。



◆作業機は外すか、降ろしておい
てください。

何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。



◆シーズン終了後には定期点検を
受けてください。

- 部品（バッテリー等）または機械を廃却する
ときは「お買いあげ先」に相談して処理し
ます。

整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。



2. 表示ラベルについて

このトラクタには各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している「表示ラベル」が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき、注意を守って操作ください。

また、トラクタに貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「お買いあげ先」に注文して購入し貼り替えてください。

①

警告

- エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。

※ボンネット裏側に貼付け

09603200013

②

警告

- 駐車する時や、ほ場作業以外の走行をする時は、左右のブレーキペダルを連結してください。

09603200016

③

警告

- 運転する時は
- 安全フレームを起こし矢印の位置にピンをセットしてください。
- シートベルトを締めてください。

09603200021

④

危険 ■ 火気厳禁

■ 給油時エンジン停止

軽油

09603000015

⑤

警告

- エンジン回転中は作業機昇降装置及び作業機にはさまれ、ケガをするおそれがあるので近づかないでください。

09603200045

⑥

警告

- エンジンまたは動力シャフトが回転しているときは手・足衣服等を近づけないでください。

09603200019

⑦ (MTR型のみ)

注意

- トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。

10382764001

⑧ (MTR型のみ)

警告

- トラクタから降りる時は、変速位置をくN>(中立)にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- 駐車時は、駐車ブレーキをかけてください。
- 本機は、変速を入れていてもエンジンを停止すると、エンジンブレーキはききません。
- 最高速から急にくN>(中立)へ操作すると急ブレーキがかかりますので、主変速はゆっくり操作してください。

PTO	エンジン2500rpm時 変速機 回転数 (r.p.m.)
1	566
2	813
3	1279

⑩

3 N 2 N

⑪

注意

- トラクタから降りる時は、エンジンを停止してください。
- 乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。

PTO	エンジン2500rpm時 変速機 回転数 (r.p.m.)
1	566
2	813
3	1279

⑫

3 N 2 N

⑬

注意

- PTOガードの上に乗らないでください。
- PTO軸を使用しない時は、PTOキャップを取付けてください。

19682747000

⑭

警告

⑮

警告

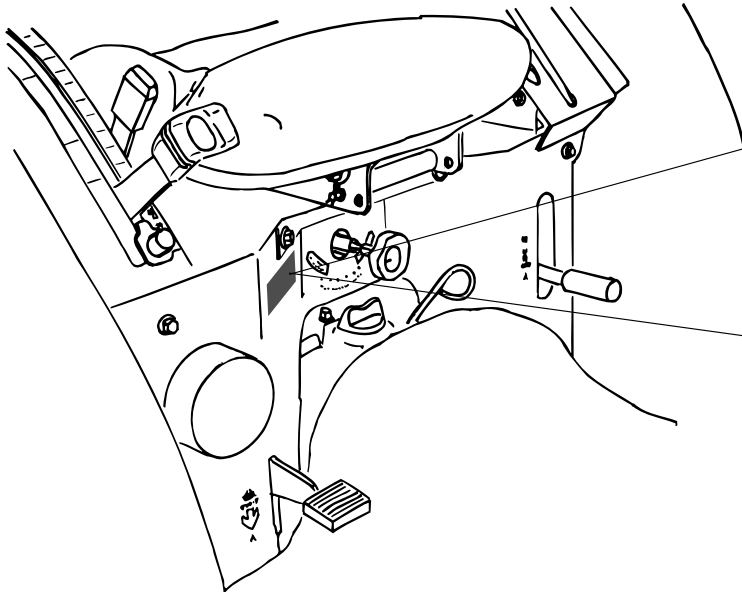
⑯ (MTM型のみ)

注意

⑰

注意

イラストは [MTR型] を示す

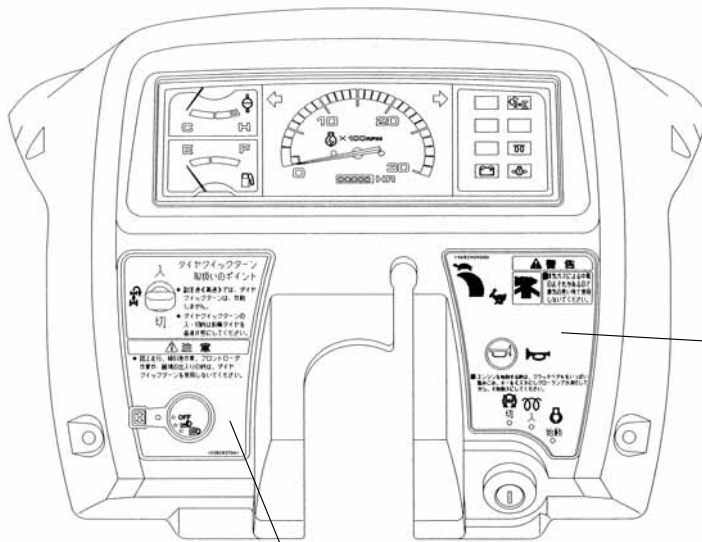


⑨ 250, 250L, 270型

▲ 注意		
本車両は、後輪距を下表の通り調整（調整要領は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。		
輪距 mm	後輪	1075

⑨ 270L, 300型

▲ 注意		
本車両は、後輪距を下表の通り調整（調整要領は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。		
輪距 mm	後輪	1110



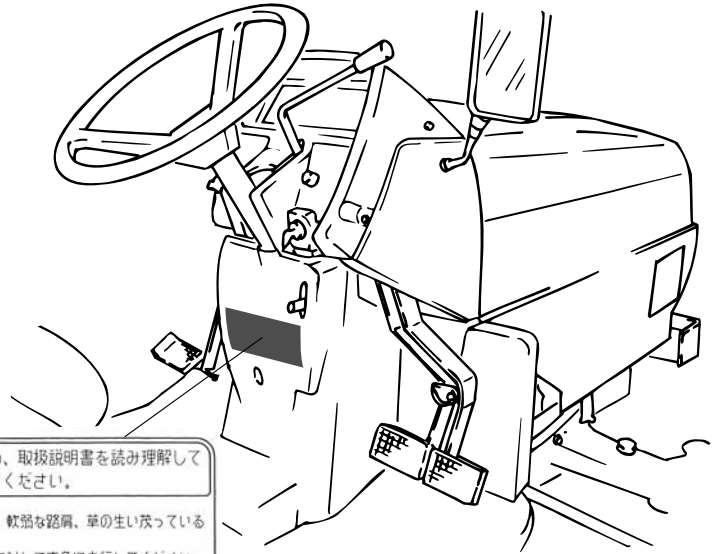
⑩

19682909000



▲ 警告	
	● 排気ガスによる中毒のおそれがあるので換気の悪い所で使用しないでください。
	■ エンジンを始動する時は、クラッチペダルをいっぱい踏みこみ、キーを「入」にしグローランプが消灯してから、「始動」にしてください。
	切
	入
	始動

⑪

入	ダイヤクイックターン 取扱いのポイント
	● 副変速<高速>では、ダイヤクイックターンは、作動しません。
切	● ダイヤクイックターンの入・切時は前輪タイヤを直進状態にしてください。
▲ 注意	
● 路上走行、傾斜地作業、フロントローダ作業や 圃場の出入りの時は、ダイヤクイックターンを使用しないでください。	
10382837001	

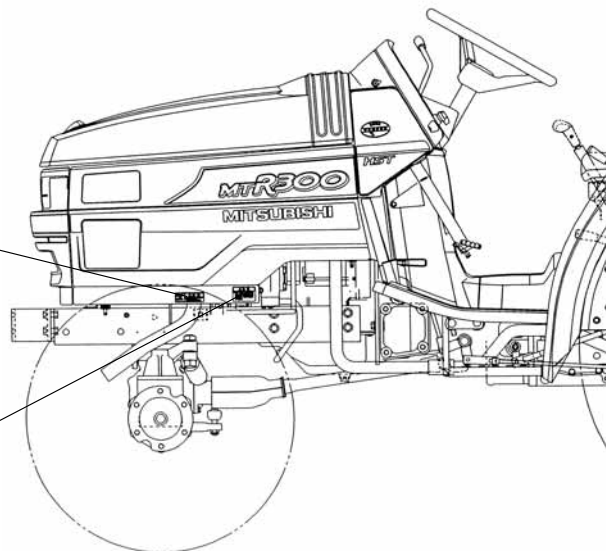


12


 警告	 傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。
<p>ケガや死亡事故を起こさないために</p> <p>■ エンジンを始動する前に</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。 ● すべてのカバーをセットして、安全ブレームをおこしてください。 ● 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをしてください。 ● 変速レバー及びP/TOLレバーを《N》(中立)にして、クラッチペダルを踏んでください。 ● 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。 <p>■ 正しい操作方法で</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。 ● エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。 ● 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。 <p>■ 転倒防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 坂場の出入り、アユミの上、遊路を走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。デアロックは使用しないでください。 ● 急進、急回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。 ● 傾斜地や急な坂道では急回しないでください。下り坂ではエンジンブレーキを使用し、クラッチ操作や変速操作はしないでください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。 ● あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。 ● 自動車への幅込み・幅降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。クラッチ操作や変速操作はしないでください。 ● けん引作業はドロバを使用してください。 <p>■ 停止する時は</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平坦な場所、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びP/TOLレバーを《N》(中立)にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止してください。座席を離れる時はキーを抜取ってください。 <p>■ 清掃・点検・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。 ● 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定脚を置いてください。 ● ラジエータキャップを開けたり、エンジン回りを清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。 ● 火災防止のため、エンジン、マフラー、燃料タンク周囲のフラヤや草等を掃除してください。 <p style="text-align: right;">09603200032 トラクタ</p>

13

 <p>09603100026</p>	 注意
	<p>● やけどをするのでマフラーにふれないでください。</p>

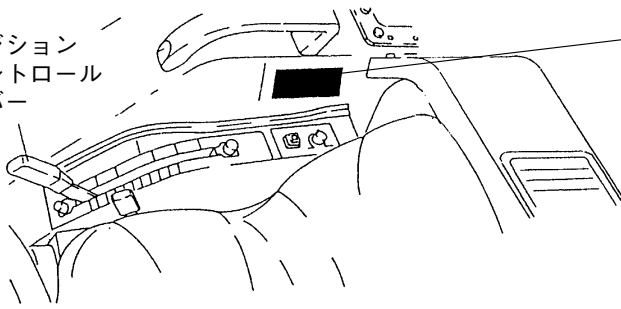


14

 注意
<p>● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。</p> <p style="text-align: right;">09603100017</p>

(左右のサイドカバーに貼付け)

ポジション
コントロール
レバー



16

警告

傷害事故や機械の破損を防止するために

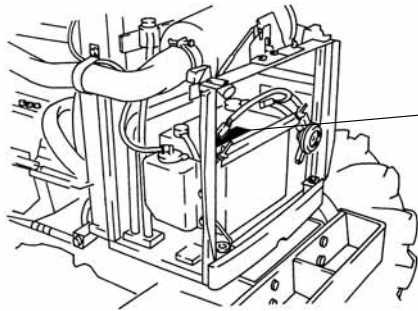
■ 作業機を装着するときは

- ポジションコントロールレバーの上限ストップまで上げ高さを規制してください。
- MAC仕様の場合はクイックアップレバーおよびバックアップスイッチ(入)を使用する前に上げ規制ボリュームで上げ高さを規制してください。

● 本機および作業機の取扱い説明書をよく読み正しく装着してください。

● キャビン装着機ではリアウィンドウの開閉時についても当たらないようにしてください。

10372782000



18

火気禁止 メガネ着用 こども禁止 硫酸注意 説明書熟読 爆発注意
 バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火燃発のおそれがあります。
 ●この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
 ●充電は風通しのよいところで行ない、ショートやスパイクをさせないでください。
 ●フースタケールの使用は車両またはバッテリーの取扱説明書をお読みください。
 ●バッテリー液は希硫酸で失明や灼傷をすることがあります。目、皮膚、衣服、物に
 ついたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の水を飲んで
 ください。目に入ったときは目を洗い、飲み込んだときは医師の治療を受けてください。
 液面がLOWER LEVEL近くなったら補水し、UPPER LEVEL以上入れないでください。

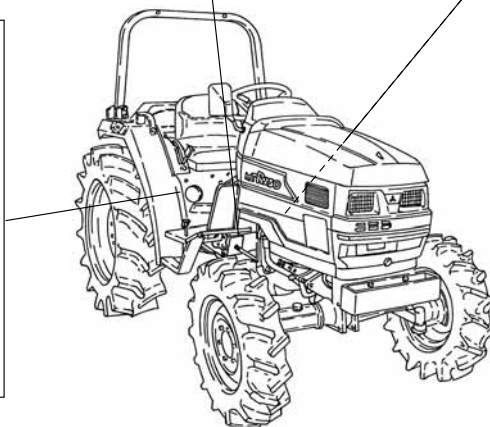
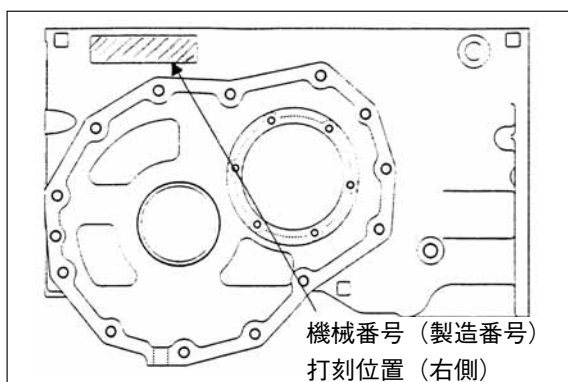
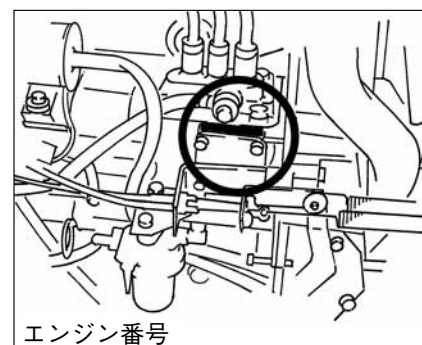
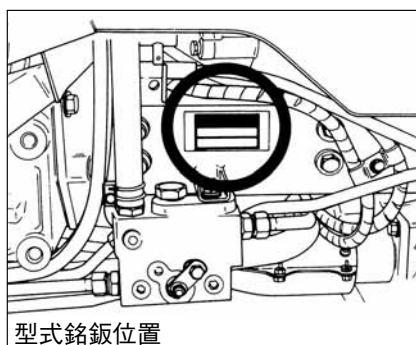
表示ラベル一覧表

No.	部品番号	品名	機種	No.	部品番号	品名	機種
①	0960 3200 013	警告ラベル (ラジエータ)	全機種	⑩	1968 2909 000	警告ラベル (排気ガス)	全機種
②	0960 3200 016	警告ラベル (ブレーキペダル)	全機種	⑪	1038 2837 001	注意ラベル (クイックターン)	全機種
③	0960 3200 021	警告ラベル (安全フレーム)	全機種	⑫	0960 3200 032	警告ラベル (安全運転)	全機種
④	0960 3000 015	危険ラベル (燃料)	全機種	⑬	0960 3100 026	注意ラベル (マフラ)	全機種
⑤	0960 3200 045	警告ラベル (はさまれ)	全機種	⑭	0960 3100 017	注意ラベル (カバー)	全機種
⑥	0960 3200 019	警告ラベル (PTOシャフト)	全機種	⑮	1968 2747 000	注意ラベル (PTOガード)	全機種
⑦	1038 2764 001	注意ラベル (エンジン停止)	MTR型	⑯	1037 2782 000	警告ラベル (作業機装着)	全機種
⑧	1968 2741 002	警告ラベル (変速)	MTR型	⑰	1968 2798 000	注意ラベル (変速)	MTM型
⑨	1968 2791 000	警告ラベル (トレッド調節)	250, 250L, 270型	⑱	0960 3000 017	危険ラベル (バッテリー)	全機種
	270L, 300型						

ご使用まえに

1. 保証とサービスについて

- ・この機械には保証書が添付されていますので、ご使用まえによくお読みください。
- ・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「お買いあげ先」にご相談ください。その際「型式」・「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

- ・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

- ・補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

- ・機械は、ほ場でのロータリ耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。
- ・機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。



- ◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
- ◆機械を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

250, 270, 300型の主な仕様（装備）は次のようになっています。

仕様（装備）の異なった製品については、異なる点のみ追加説明していますので、お買いあげの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ、まちがいのないように活用してください。

品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

型 式 仕 様	三菱MTR250				三菱MTR270				三菱MTR300		三菱MTM250				三菱MTM270				三菱MTM300	
		J	L	L J		J	L	L J		J		J	L	L J		J	L	L J		J
2柱安全フレーム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
パワーステアリング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤクイックターン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大径タイヤ			○	○			○	○					○	○			○	○		
J A C		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
P A C	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	

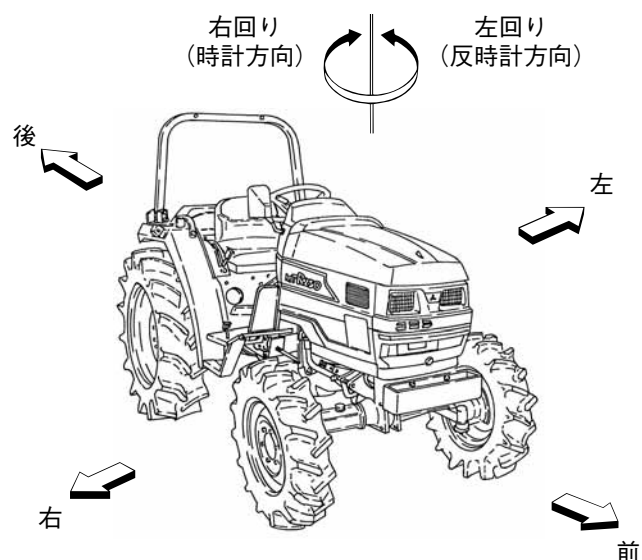
型式記号の説明

J=マイクロコンピュータ装備機（J A C傾斜自動） L=大径タイヤ

3. 用語について

- ① この取扱説明書に使用している「前後・左右・右回り・左回り」などの用語は図示のように決めています。この取扱説明書はMTR250を基本に説明してあります。型式によって異なる場合は、そのつど [MTR型]、[MTM型] 等で記載し、追加説明しています。

区 分	本文表示
MTR250, 270, 300	[MTR型]
MTM250, 270, 300	[MTM型]



② マークの説明

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

- ・ **危険** **警告** **注意** ……安全上重要な事項を3段階に分けて説明していますので必ず読んでください。
- ・ **取扱いのポイント** ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

4. 小型特殊自動車について

このトラクタは、道路交通法、道路運送車両法の「小型特殊自動車」に該当します。

1. 小型特殊自動車の届出

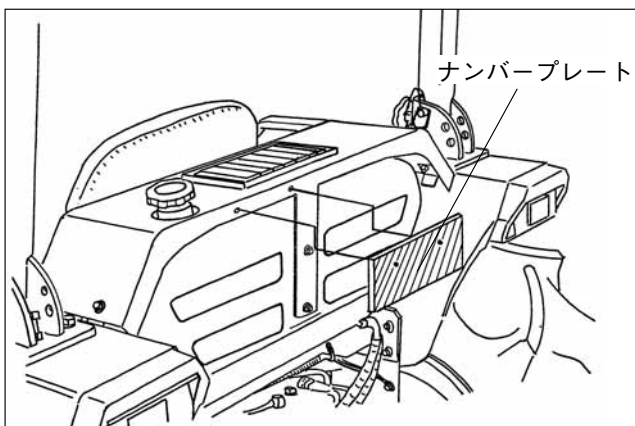
① 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は、市（町・村）条例により、その取得を市（町・村）役所に届出て、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので、詳しいことは「市（町・村）役所」または「お買いあげ先」にご相談ください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「お買いあげ先」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出て、ナンバープレートの交付を受けてください。

ナンバープレートは、機械の指定された位置に取付けます。

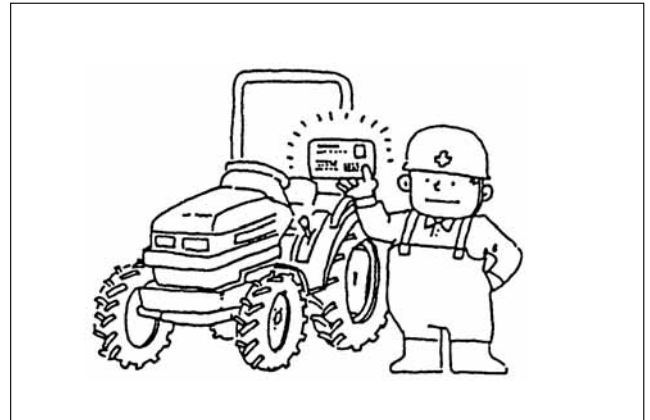


2. 公道を走行する時

公道を走行する時は、道路交通法等関係法規を守り次の注意事項に従って、「安全な速度」で走行します。

① 運転免許

公道を走行する時は、「小型特殊自動車」の運転可能な運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



② 「小型特殊自動車」の運転免許で運転できる自動車の基準

車体の大きさ	全長	4.70m以下
	全幅	1.70m以下
	全高	2.00m以下
最高速度	15km/時以下	
原動機の総排気量	1500cc以下	

③ 作業機を取付けた状態では走行しない。

④ 指定輪距以外での走行はしない。

シート下のカバーに指定輪距表を貼付しています。（39～40ページ参照）

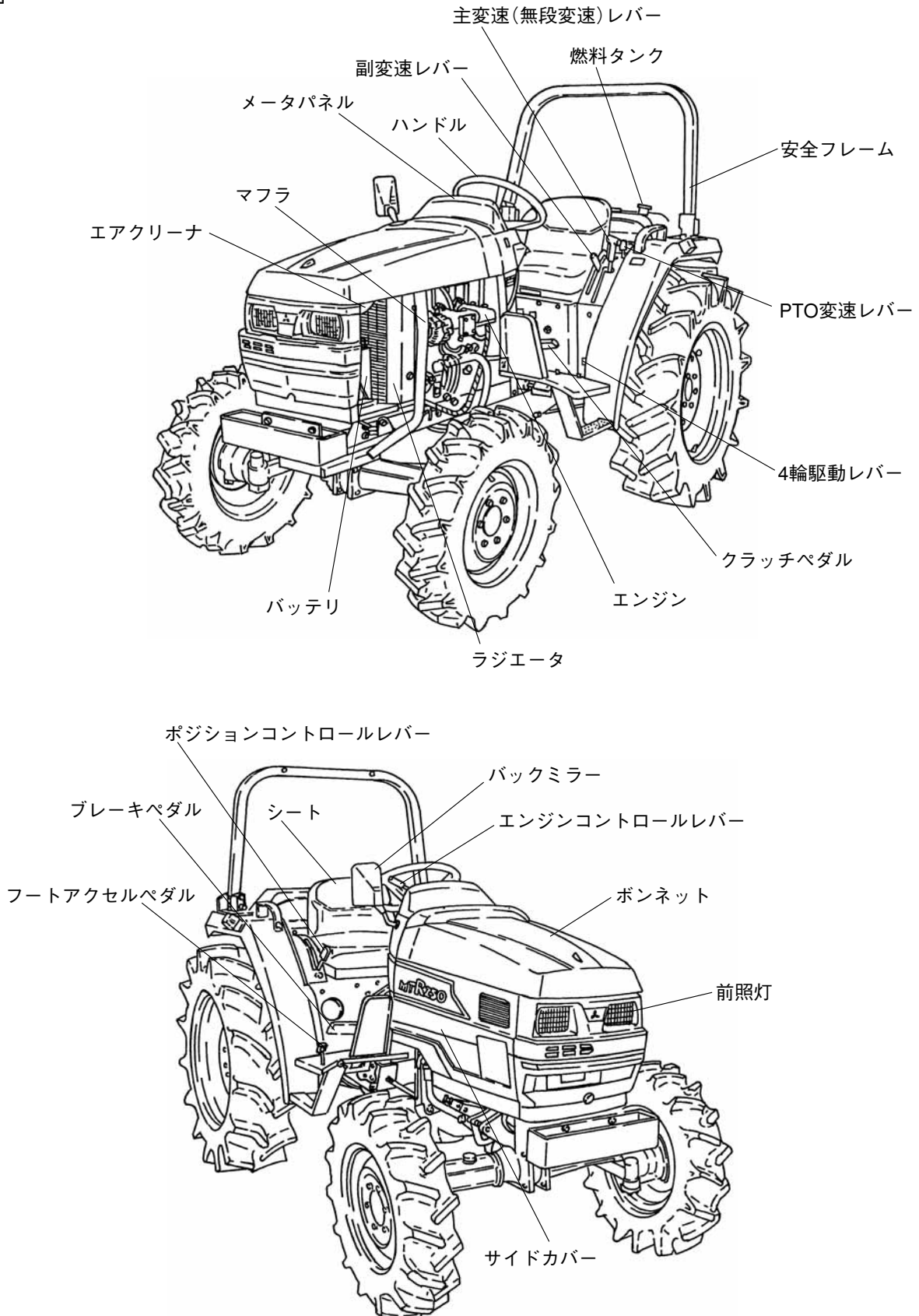
⑤ 任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ、任意保険に加入されるようお勧めします。

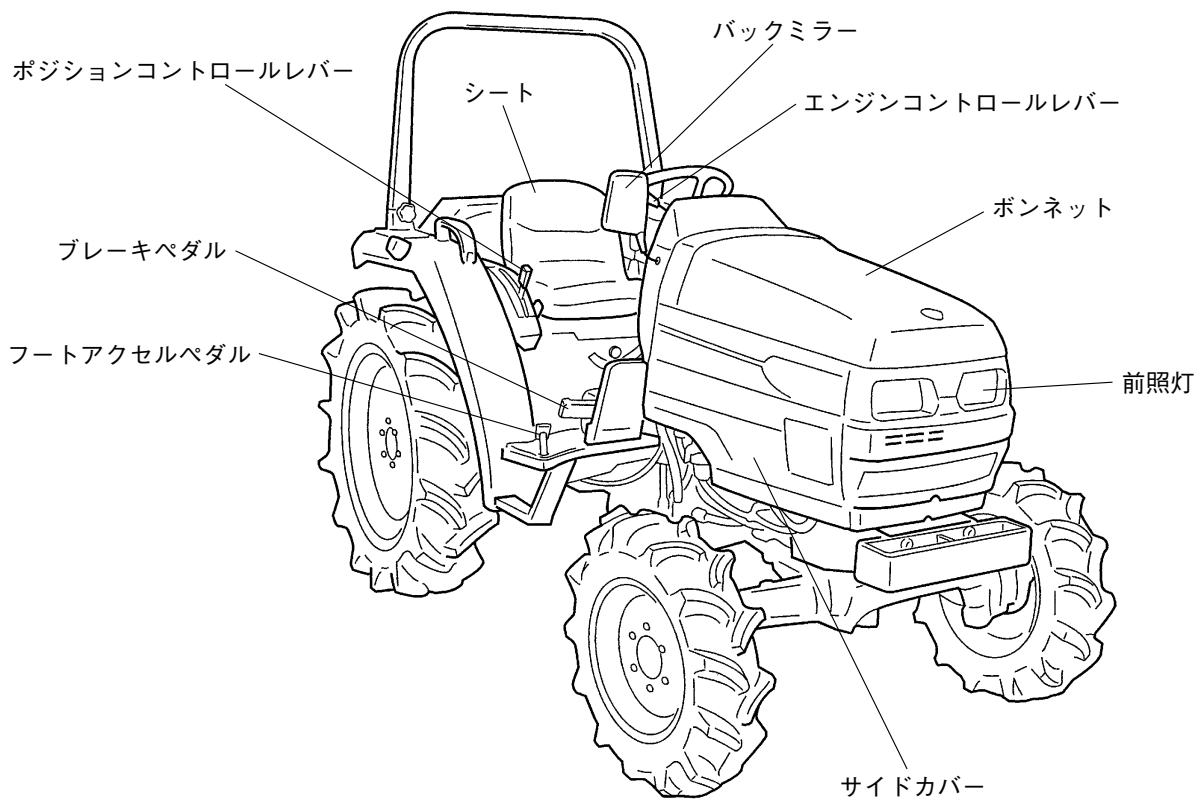
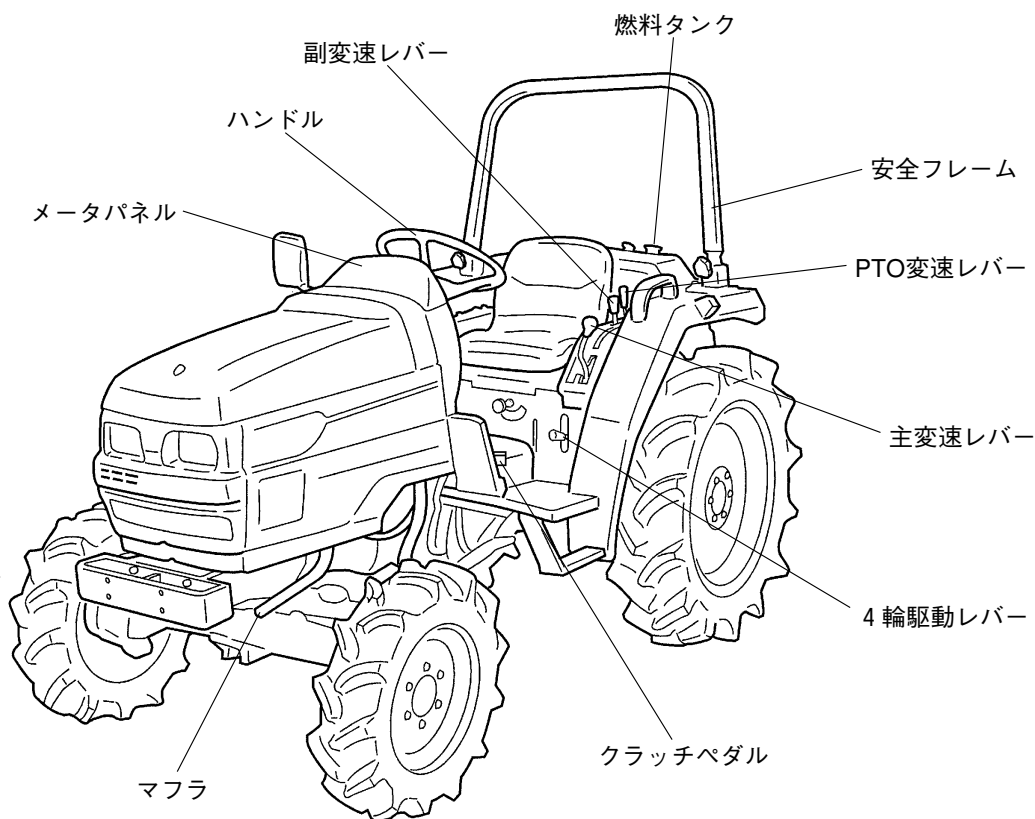
各部のはたらき

1. 各部の名称

[MTR型]

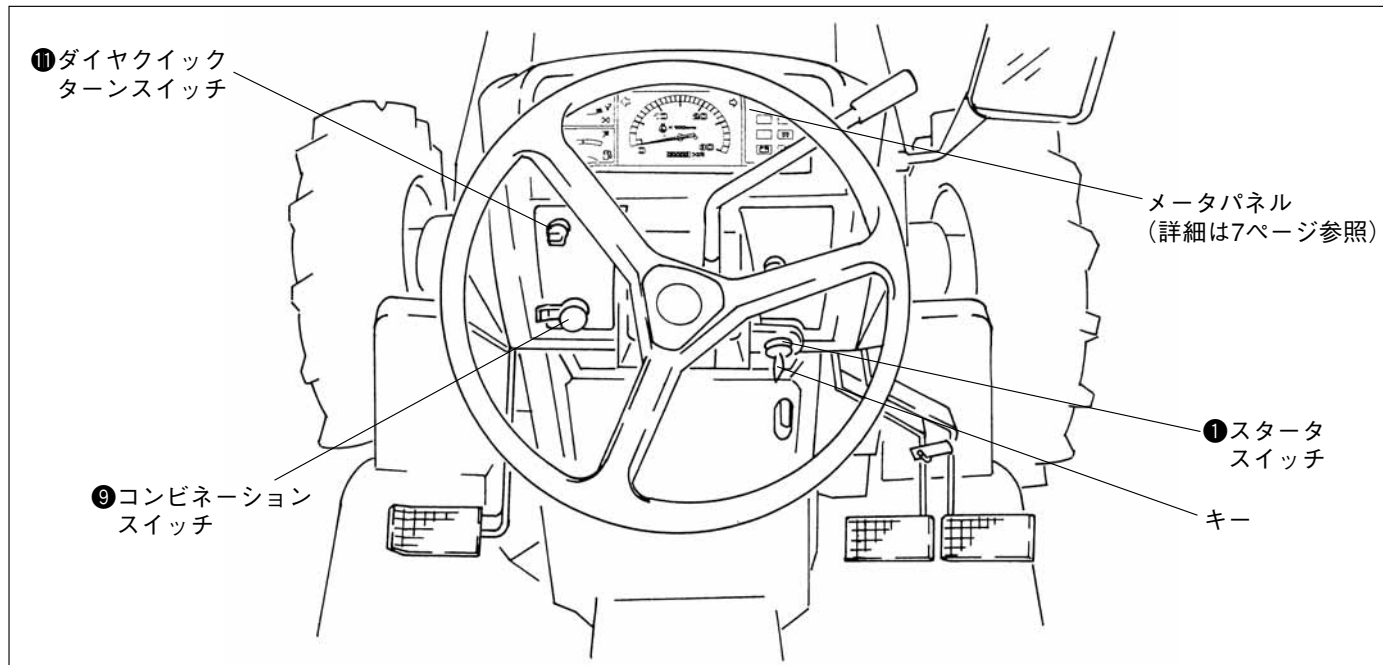


[MTM型]



2. 運転装置の取扱い

1. スイッチ, 計器関係



① スタータスイッチ



警告 傷害事故防止のために

◆トラクタを使用しない時はキーを抜いてお
いてください。

・《 切

キーをこの位置にすると電源が切れエンジンが
停止します。

・《 入 (予熱)

キーをこの位置にすると電源が入りメータ内の
グローランプが点灯し, エンジンが予熱されま
す。

予熱が完了するとグローランプが消灯しますの
で始動操作をします。

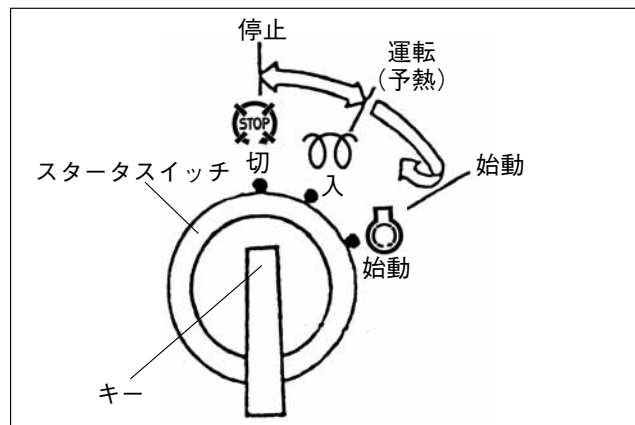
グローランプ点灯時間…… 6 秒

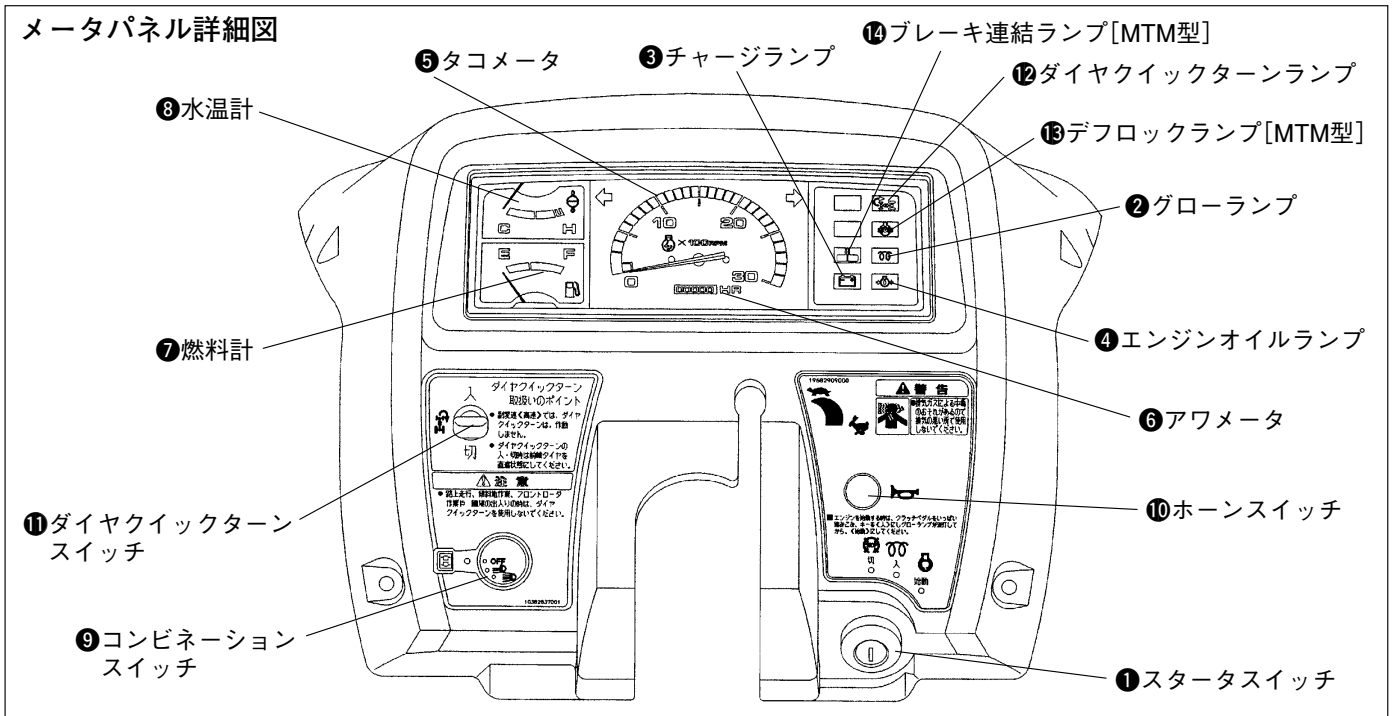
・《 始動

キーをこの位置にするとエンジンが始動します。
エンジン始動後手を放せば自動的に《 入
にもどりエンジンが運転状態になります。

取扱いのポイント

- クラッチペダルをいっぱい踏み主変速レバーを
《始動位置 N》に保持していないとエンジンは
始動しません。[MTR型]





2 グローランプ



キーを《 〇〇 入 》にすると、点灯してエンジンが予熱状態であることを示します。

3 チャージランプ



エンジン運転中、充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンを停止している時、キーを《 〇〇 入 》にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

取扱いのポイント

- エンジンの運転中にチャージランプが連続点灯する時は、エンジンを停止し、ファンベルトを点検してください。(61ページ参照)
ファンベルトが正常であれば、ほかに異常がありません。ただちに点検を受けてください。

4 エンジンオイルランプ

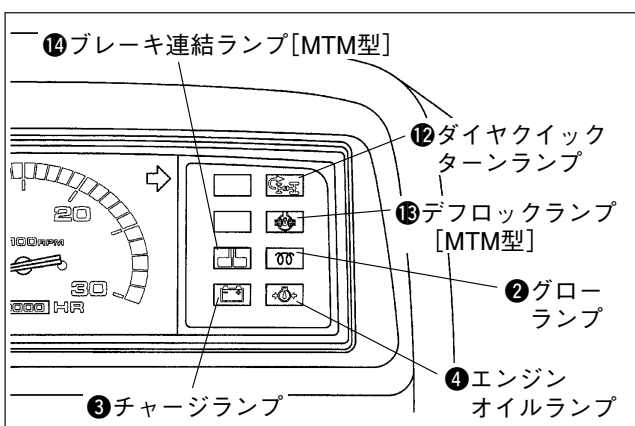


エンジン運転中、エンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンが停止をしている時、キーを《 〇〇 入 》にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

取扱いのポイント

- 運転中にエンジンオイルランプが点灯した時は、エンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。(50ページ参照)
オイル量が正規であれば、ほかに異常がありません。ただちに点検を受けてください。



各部のはたらき

⑤ タコメータ

エンジン回転数を示します。

⑥ アワメータ

稼働時間を表示し、たとえば

0 | 0 | 1 | 9 | 1 は19.1時間 (19時間 6分) 使用したことを示します。

⑦ 燃料計



キーを《 〇〇 入 》にすると燃料の残量を示します。

針が《 E 》近くなったら早めに燃料を補給してください。

⑧ 水温計

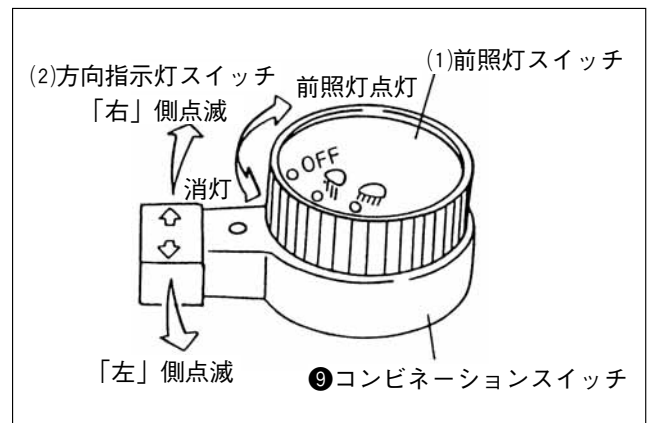


キーを《 〇〇 入 》にするとエンジン冷却水温度を示します。

取扱いのポイント

- 水温計の針が《 H 》を示した場合は、オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量、ラジエータの目詰まり、ファンベルトの張りを点検してください。(54, 60, 61ページ参照) 冷却水量、ラジエータの目詰まり、ファンベルトが正常であれば、ほかに異常がありません。ただちに点検を受けてください。

⑨ コンビネーションスイッチ



(1) 前照灯スイッチ

- OFF ……消灯
- ……メータ類ランプ点灯及び前照灯下向点灯
- ……メータ類ランプ点灯及び前照灯上向点灯



(2) 方向指示灯スイッチ

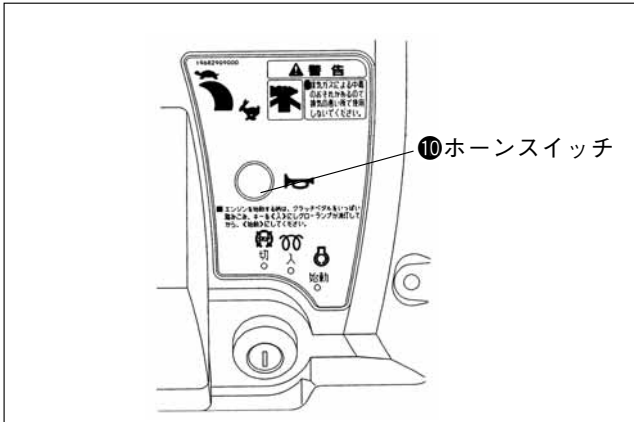
右折、左折の時、使用します。



⑩ ホーンスイッチ



ホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。



⑪ ダイヤクイックターンスイッチ

⑫ ダイヤクイックターンランプ




警告 傷害事故防止のために

◆道路走行、ほ場への出入り、あぜ越え、アユミ使用、傾斜地作業の時はダイヤクイックターンスイッチを《切》にしてください。《入》になっているとトラクタが急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起すことがあります。

4 輪駆動レバーを《入》にしダイヤクイックターンスイッチを《入》にするとパネル内のダイヤクイックターンランプが点灯し、ダイヤクイックターンが働く状態になります。ハンドルを切ってダイヤクイックターンが作動すると旋回時の速度が早くなり小回りができます。スイッチを《切》にするとランプが消灯しダイヤクイックターンが働かなくなります。



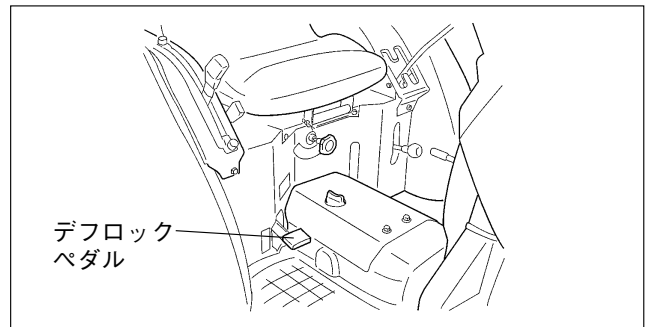
取扱いのポイント

- ダイヤクイックターンスイッチを《入》、《切》する時は前輪タイヤを直進状態にしてください。
- 副変速レバーが《》のときはダイヤクイックターンが、作動しない構造になっています。
- ダイヤクイックターンは、ほ場作業時に使用してください。
- ダイヤクイックターンの使いかたについては、38ページを参照してください。

⑬ デフロックランプ [MTM型のみ]



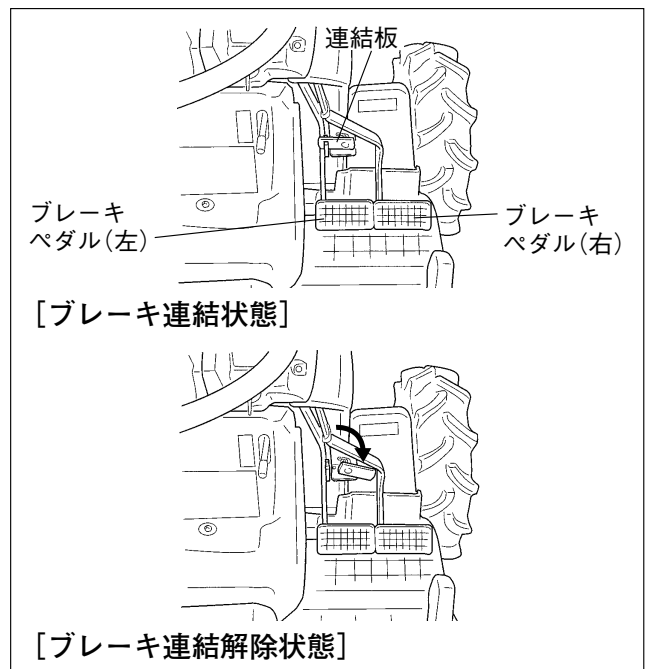
デフロックペダルを踏込んだ時に点灯し、デフロックが解除した時に消灯します。



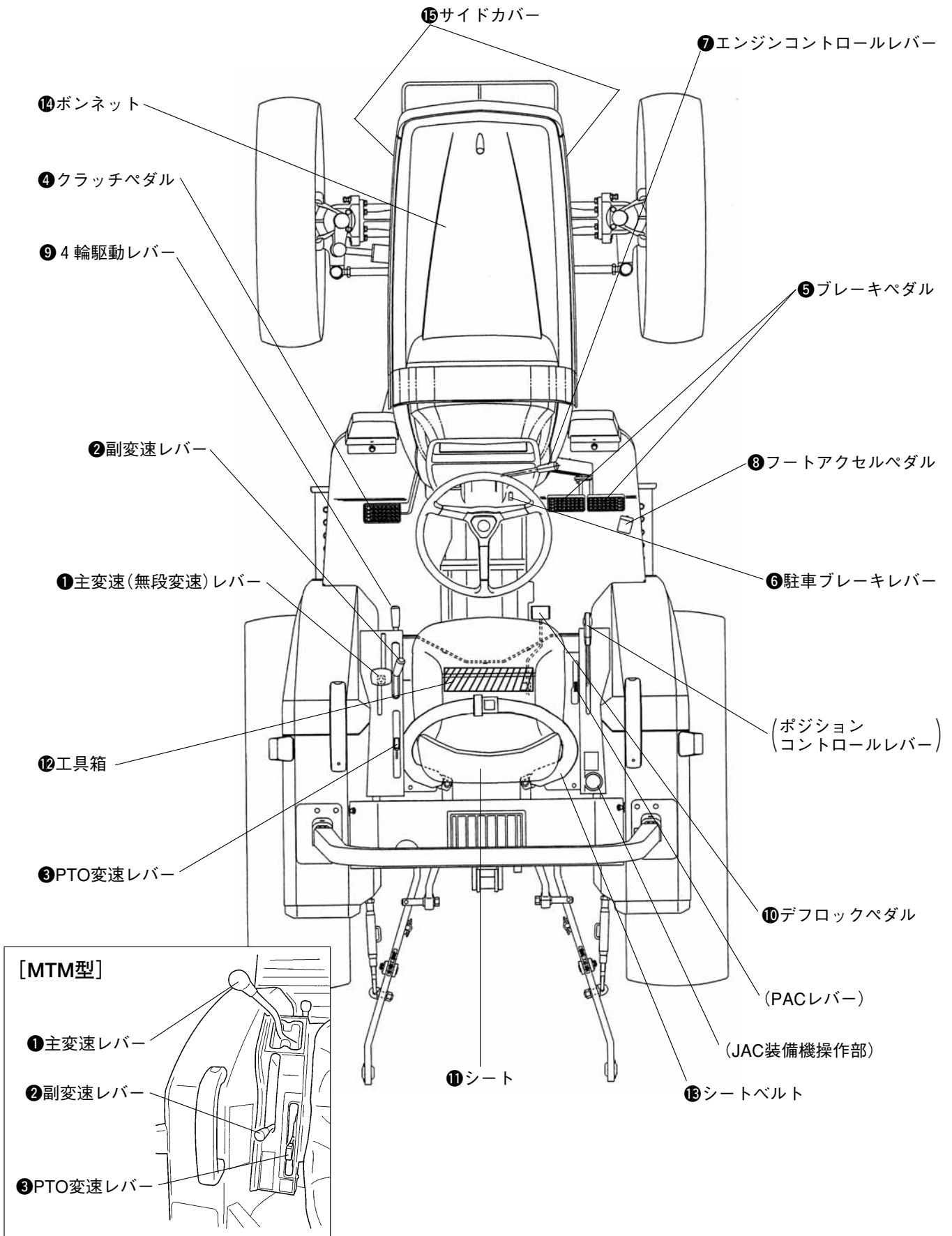
⑭ ブレーキ連結ランプ [MTM型のみ]



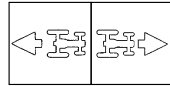
左右のブレーキペダルを連結板で連結すると消灯します。



2. レバー、ペダル、シート関係

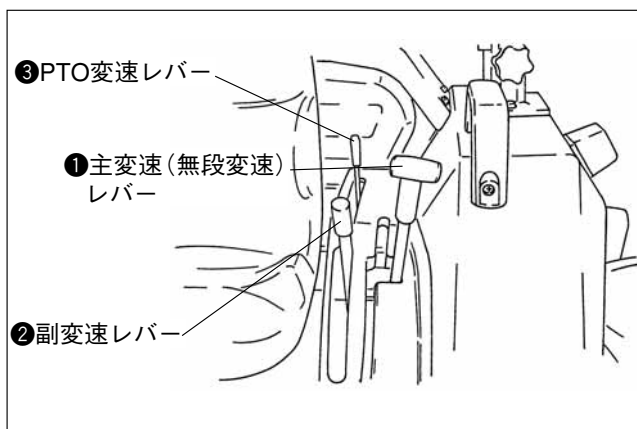


① 主変速（無段変速）レバー
[MTR型]



警告 傷害事故防止のために

- ◆高速走行時には急激な前後進のレバー操作はしないでください。
- ◆自動車への積込み、積降ろし等アユミの上では変速操作、クラッチ操作をしないでください。



クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。《前進》《後進》いずれにもレバーの位置を動かすことで無段階に走行速度を選ぶことができます。

又、前進速度は、レバーを前方に動かすと速くなり、後進速度はレバーを後方に動かすと速くなります。

取扱いのポイント

- エンジン始動時は《始動位置N》と表示してある側にレバーを操作し、保持します。

② 副変速レバー [MTR型]

《高速》《中速》《低速》の3段の変速位置があります。

取扱いのポイント

- 副変速レバーの操作はクラッチペダルを踏込んで、走行が完全に停止してから行なってください。入り難い場合は、無理な操作をせず、もう一度、クラッチペダルを踏み直してから操作をします。
- 主変速、副変速の各々の位置での車速はフェンダ（左）に貼り付けてある速度表をご覧ください。（作業速度とPTO回転速度は34ページ参照）

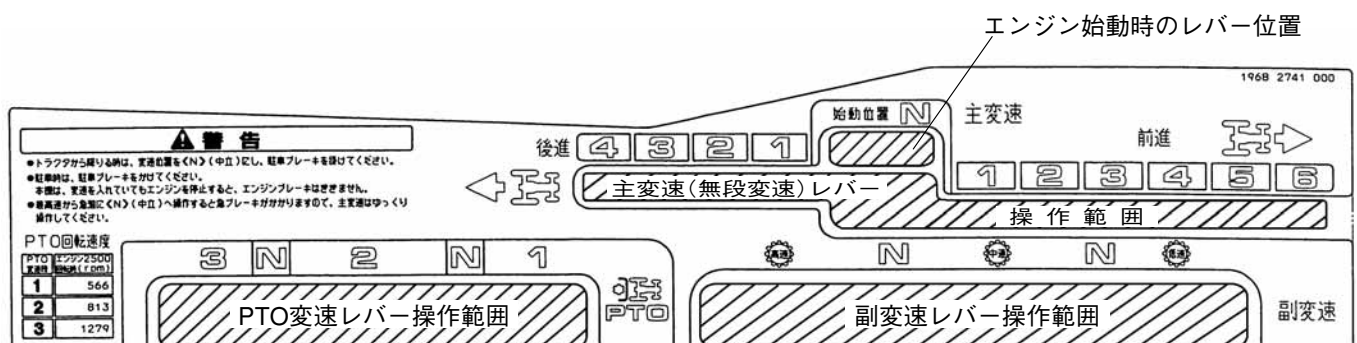
③ PTO変速レバー [MTR型]



PTO軸の回転速度を《3》《2》《1》の3段に変速できます。

取扱いのポイント

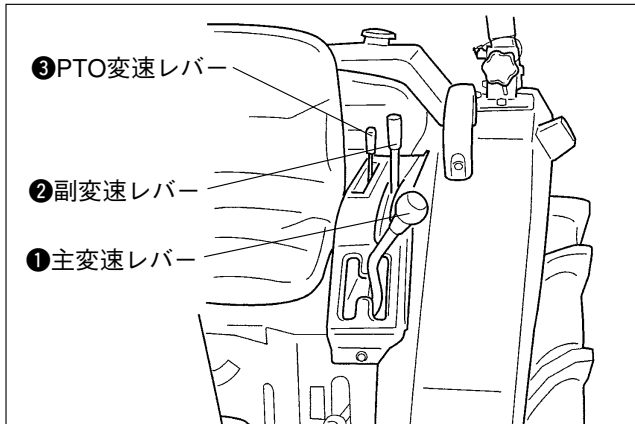
- PTO変速レバーの操作は作業機（ロータリ等）を上げた後、クラッチペダルを踏込んで、PTO回転が停止してから行なってください。入り難い場合は、無理な操作をせず、もう一度、クラッチペダルを踏み直してから操作をします。



各部のはたらき

① 主変速レバー [MTM型]

3段の前進変速と1段の後進があります。副変速レバーと併せて、9段の前進、3段の後進変速ができます。



② 副変速レバー [MTM型]

《 高速 》 《 中速 》 《 低速 》 の3段の変速位置があります。



取扱いのポイント

- 主変速レバーと副変速レバーの操作はクラッチペダルを踏込んで走行が完全に停止してから行なってください。入り難い場合は、無理な操作をせず、もう一度、クラッチペダルを踏み直してから操作をします。
- 主変速、副変速の各々の位置での車速はフェンダ（左）に貼り付けてある速度表をご覧ください。（作業速度とPTO回転速度は36ページ参照）

③ PTO変速レバー [MTM型]



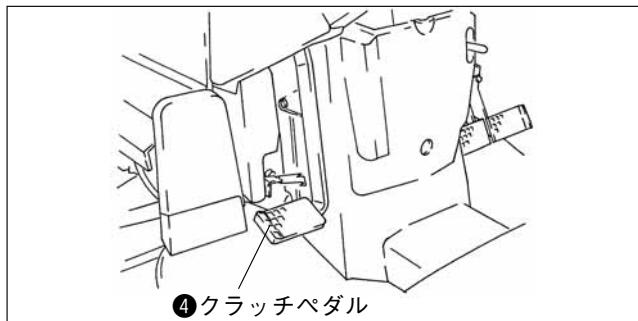
PTO軸の回転速度を《3》《2》《1》の3段に変速できます。

取扱いのポイント

- PTO変速レバーの操作は作業機（ロータリ等）を上げた後、クラッチペダルを踏込んで、PTO回転が停止してから行なってください。入り難い場合は無理な操作をせず、もう一度、クラッチペダルを踏み直してから操作をします。

④ クラッチペダル

- ・ペダルをいっぱい踏込むと、クラッチが切れます。
- ・エンジン始動、変速、停止のとき踏込みます。



取扱いのポイント

- クラッチペダルを踏込む時はす早く踏込み、離す時はゆっくり離してください。
- 始動安全スイッチが装備されており、クラッチペダルをいっぱい踏込み、主変速（無段変速）レバーを中立にし、《始動位置N》側に操作したまま保持しなければエンジンは始動しません。
[MTR型]
- 始動安全スイッチが装備されており、クラッチペダルをいっぱい踏込まなければエンジンは始動しません。[MTM型]

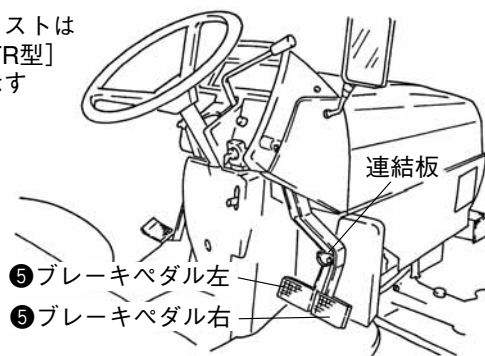
⑤ ブレーキペダル

⚠警告 傷害事故防止のために

◆道路走行、ほ場への出入り、あぜ越え、アユミ使用、傾斜地作業、フロントローダ装着時等は連結板で左右のブレーキペダルを連結してください。片ブレーキでは横転、衝突、転落等の事故になることがあります。

- ・左右のペダルに分かれており、連結板を外して左のペダルを踏むと左後輪に、右のペダルを踏むと右後輪にブレーキがかかります。
- ・左右のブレーキペダルを連結してブレーキペダルを踏むと、左右の後輪にブレーキがかかります。

イラストは
[MTR型]
を示す



取扱いのポイント

- 運転時は、クラッチペダル、ブレーキペダルから足を離してください。足を乗せたまま運転すると故障の原因となります。
- 停止する場合は、ブレーキペダルと同時にクラッチペダルも踏込みます。
- ブレーキ連結板を外すとブレーキ連結ランプが点灯します。([MTM型]のみ)



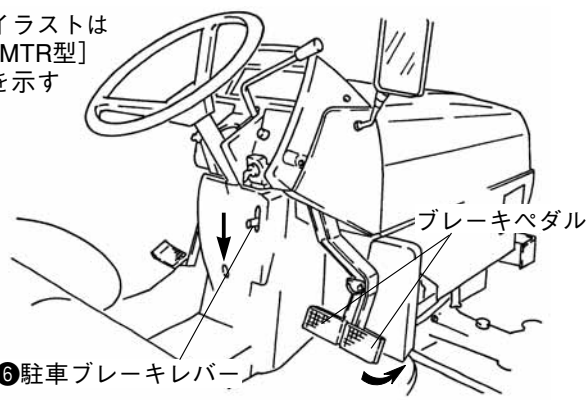
⑥ 駐車ブレーキレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆駐車・停車時には、左右のブレーキペダルを連結して駐車ブレーキレバーを掛けてください。

- ・左右のブレーキペダルを連結し、駐車ブレーキレバーを下方に押さえながらブレーキペダルを強く踏込み駐車ブレーキをかけます。
- ・駐車ブレーキを解除する時は、ブレーキペダルを強く踏込めば外れます。



イラストは
[MTR型]
を示す

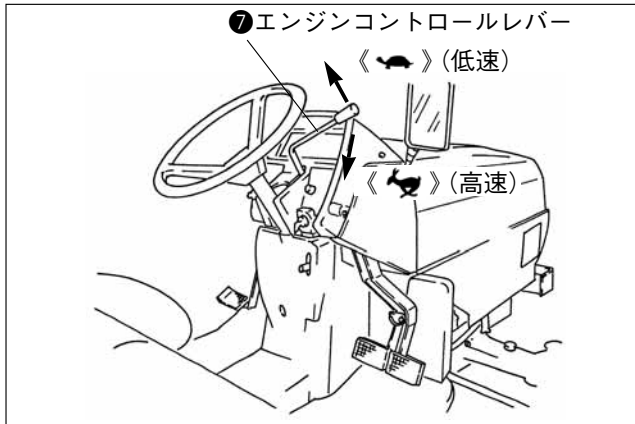


各部のはたらき


⑦ エンジンコントロールレバー

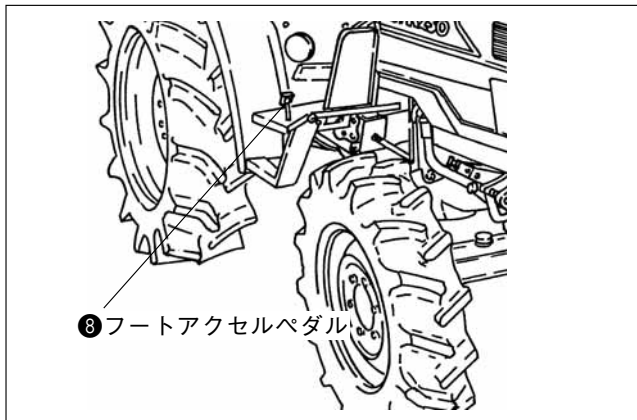


レバーを手前に引けば《》(高速)となり、前方へ押せば《》(低速)となります。



⑧ フートアクセルペダル

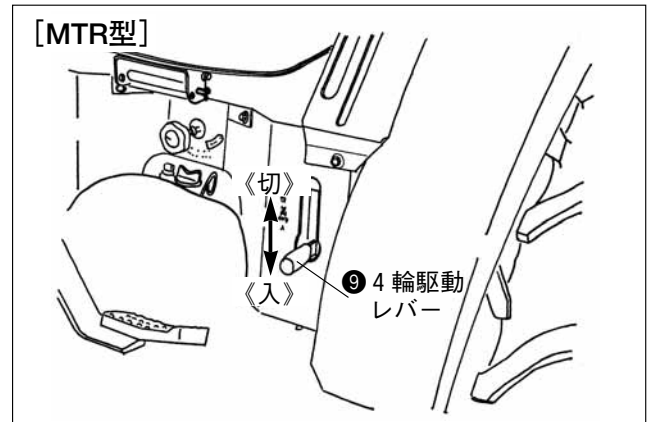
ペダルを踏込むと高速となり、はなすと低速になります。この時、エンジンコントロールレバーは《》(低速)にしておきます。



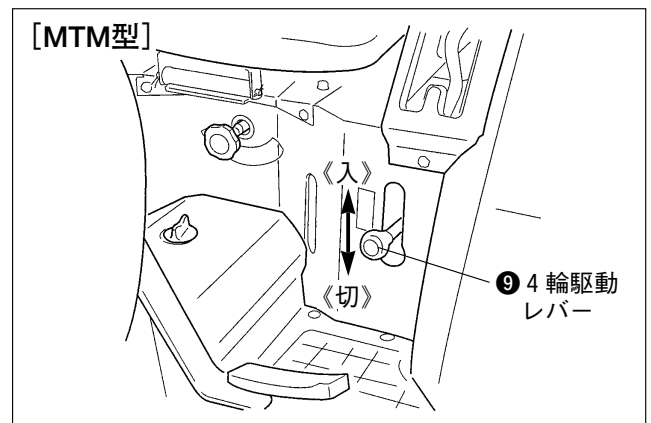
⑨ 4輪駆動レバー



4輪駆動レバーを下げると前輪駆動が入ります。



4輪駆動レバーを上げると前輪駆動が入ります。



4輪駆動にすると、次のような場合に威力を発揮します。

- (1) 傾斜地、湿田、トレーラ、フロントローダ、プラウ作業時でけん引力を必要とする場合。
- (2) 砂地で作業をする場合。
- (3) 固いほ場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
- (4) ほ場への出入りやあぜ越えおよび自動車への積込み・積降ろしを行う場合。

取扱いのポイント

- 4輪駆動レバーを操作する時は、クラッチペダルを踏込んで行なってください。
- [MTR型] と [MTM型] は4輪駆動レバーの《入》《切》位置が逆になっているのでレバー位置を確認してください。

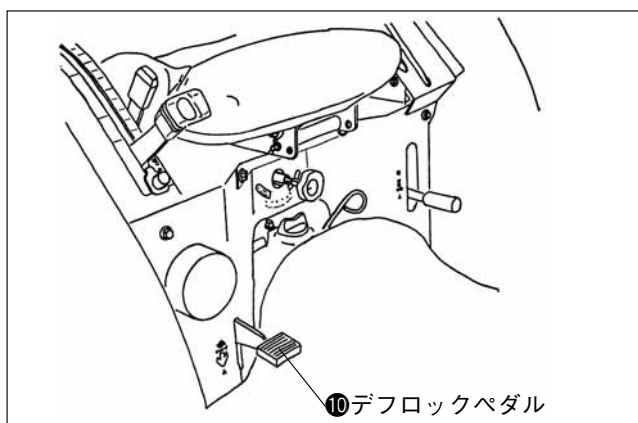
⑩ デフロックペダル



⚠警告 傷害事故防止のために

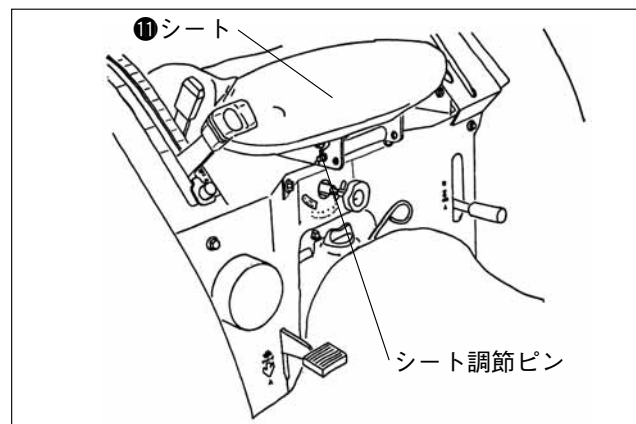
◆自動車への積み込み・積降ろしおよび道路走行する時は、デフロックを使用しないでください。またデフロックが解除されていることを確認してください。デフロックを使用すると、ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとすると、思わぬ事故になることがあります。

- ・ペダルを踏むと左右の後輪が同じ回転になります。
- ・片側車輪がスリップする時に使用します。
- ・ペダルから足を離すと解除されます。解除されない場合はクラッチペダルを踏込むか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏込みます。
- ・デフロックペダルを踏込むとデフロックランプが点灯します。([MTM型]のみ)



⑪ シート

シートの前後位置がシート調節ピンで3段階に調節できます。



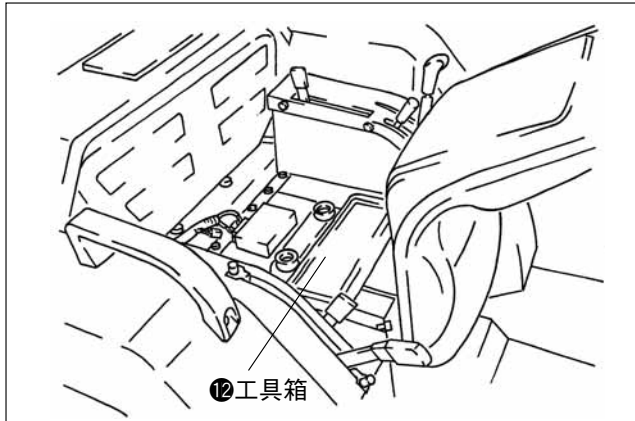
取扱いのポイント

- 片側のタイヤが空転している時はデフロックペダルを踏んでもデフロックが入らないことがあります。この場合は一度クラッチペダルを踏込んでから行なってください。
- デフロックの使いかたについては37ページを参照してください。

各部のはたらき

⑫ 工具箱

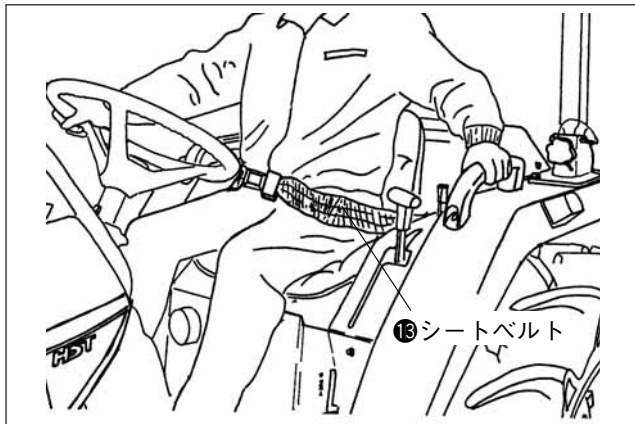
工具箱はシート下にあります。



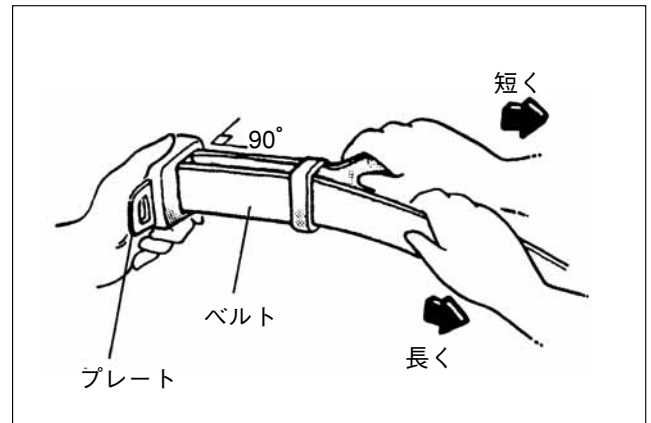
⑬ シートベルト

警告 傷害事故防止のために

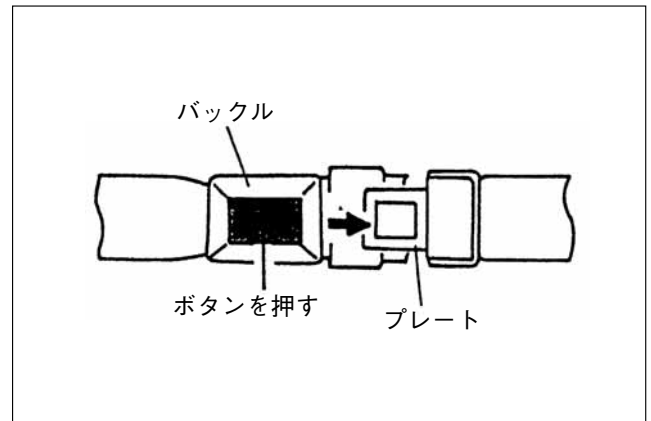
- ◆安全フレームをおこして使用する時は、シートベルトをしてください。
- ◆安全フレームをたおして使用する時は、シートベルトはしないでください。(18~19ページ参照)



- (1) シートベルトがねじれないようにして、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまではめ込みます。

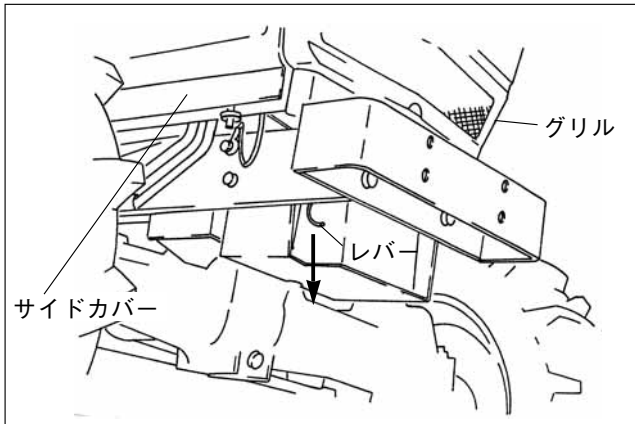


- (2) 長さの調整は、ベルトをプレートと直角に行います。ベルトを着けた時に腰部とベルトの間に手のひらが入る程度に長さを調整します。
- (3) シートベルトを外す時はバックルのボタン(中央の赤い部分)を押すと外れます。外したベルトはプレートをはめておきます。



14 ボンネット

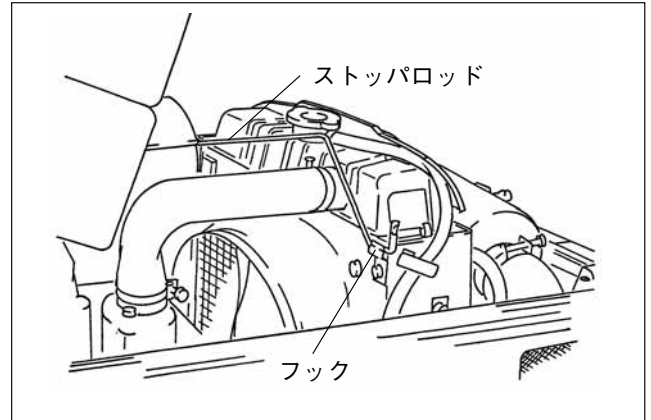
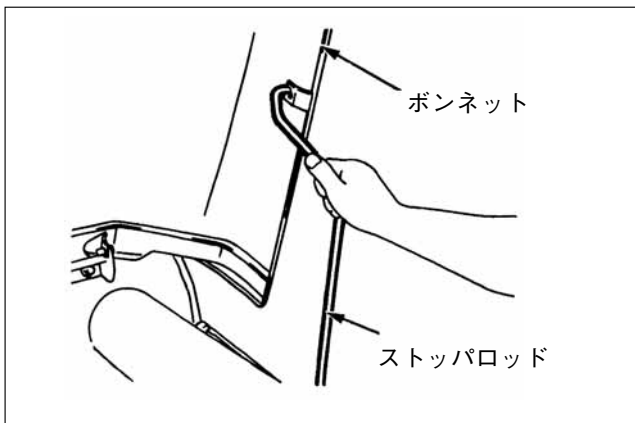
(1) ボンネットを開ける時には、シャーシ内側のグリル下方にあるレバーを引き下げるとフックが外れて開きます。



(2) ボンネットを閉める時には、ストッパロッドをフックに差込んでからボンネットフードを上から押し下げます。その後、確実に閉まっていることを確認します。

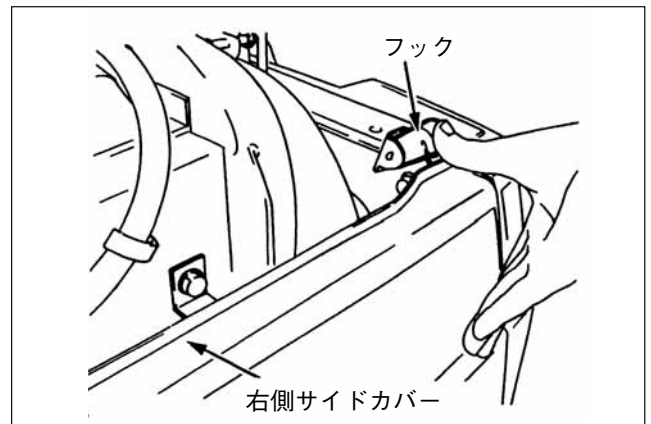
取扱いのポイント

- ボンネットを開き、点検・調整する時は、ストッパロッドをボンネットの穴に差込んでください。



15 サイドカバー

左右のサイドカバーは、前後のフックを外し、サイドカバーを少し手前に引いた後、持ち上げると外れます。



3. 安全フレームの取扱い

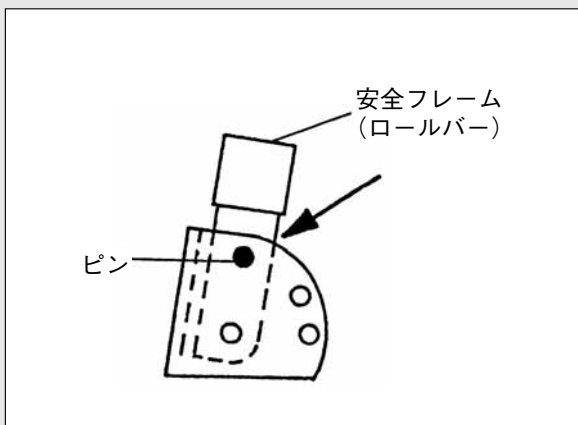
1. 安全作業について

安全で快適な農作業をしていただくために、下記のことを守って行います。あわせて「安全作業のために」の項をよく読み正しい取扱いをします。



警告 傷害事故防止のために

◆安全フレームは、トラクタが転倒した時に身を守るものですから、安全フレームを「おこして」矢印の位置にピンをセットして使用してください。



◆安全フレームを「おこして」使用する場合はシートベルトをしてください。
 ◆安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してから行なってください。

◆高さ制限のある屋内、果樹園等での作業は安全フレームを後方にたおして行うことができますが、この位置では身体を保護することはできませんのでシートベルトをしないでください。

◆たおして使用する時は、安全フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくり上げて当たらないことを確認してください。

◆安全フレームに別部品を溶接したり、穴をあける等の改造はしないでください。

◆万一、事故により安全フレームが変形した場合は、新しい部品と交換してください。

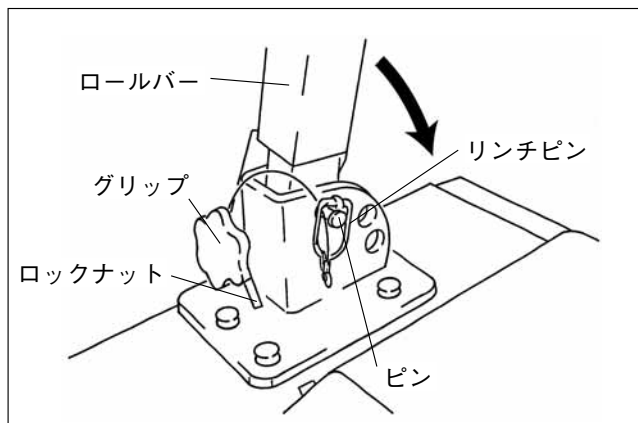
◆交換部品は、純正部品を使用してください。ボルト、ナットは適正な工具を使用して下表のトルクで締付てください。

サイズ	M12	M16
締付トルク N・m	83~93	118~132
{kgf・m}	{8.5~9.5}	{12.0~13.5}

2. 安全フレームのたおしかた・おこしかた

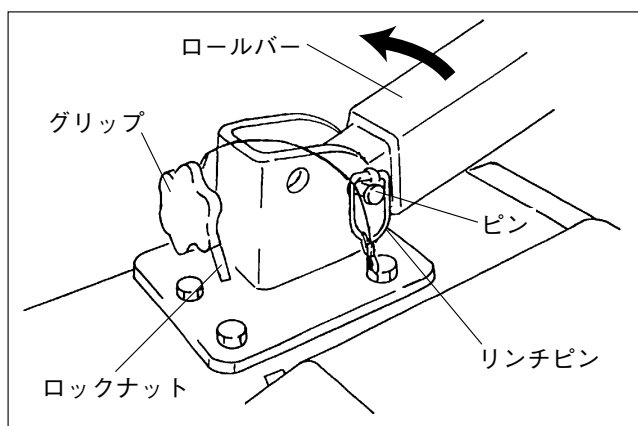
安全フレームを「たおす」または「おこす」時は、次の要領で行います。

① たおしかた



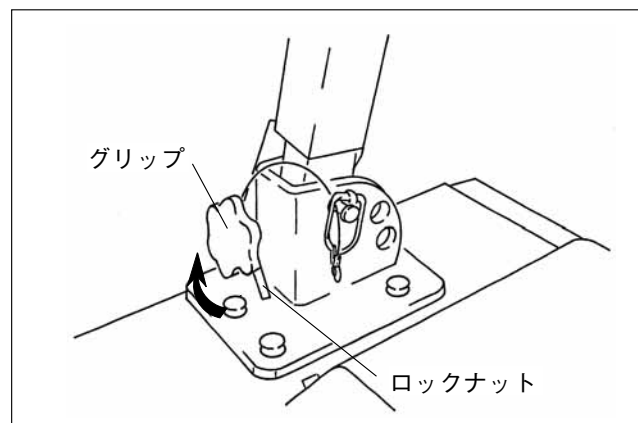
- (1) リンチピンを抜きます。
- (2) ロックナットをゆるめ、ピンが手で抜けるまでグリップをゆるめます。
- (3) 反対側も同様にリンチピンを抜き、ロックナットとグリップをゆるめます。
- (4) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
- (5) ロールバーを後方にたおし2番目の穴に左右のピンを差込みます。
- (6) 左右のリンチピンを差込みます。
- (7) ロックナットを締込んでグリップを固定してください。

② おこしかた



- (1) 左右のリンチピンを抜きます。
- (2) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。

- (3) ロールバーを前方におこして直立にした位置で左右のピンを差込みます。
- (4) 左右のリンチピンを差込みます。
- (5) グリップをいっぱい締めます。
- (6) ロックナットをいっぱい締込んでおきます。
- (7) 反対側も同様にグリップとロックナットをいっぱい締込んでおきます。



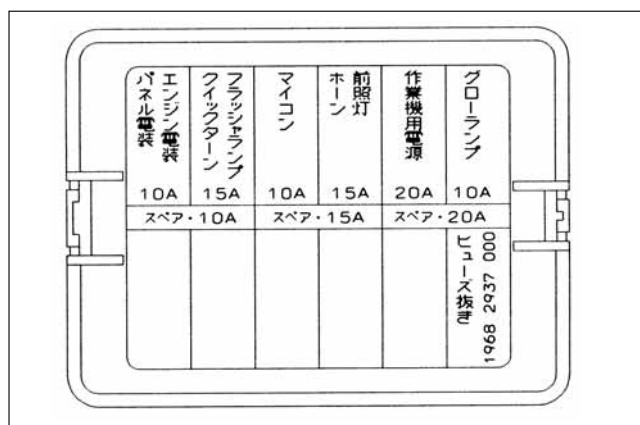
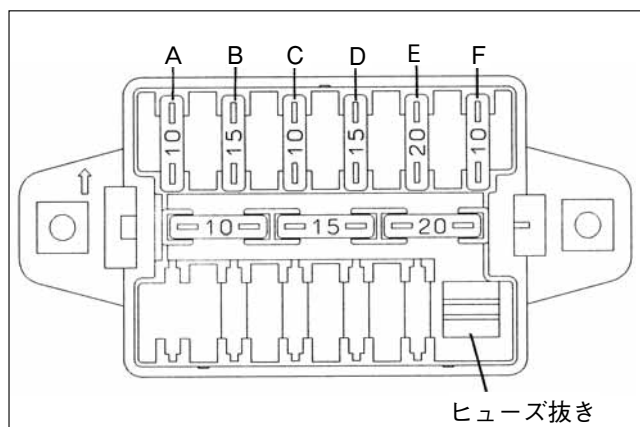
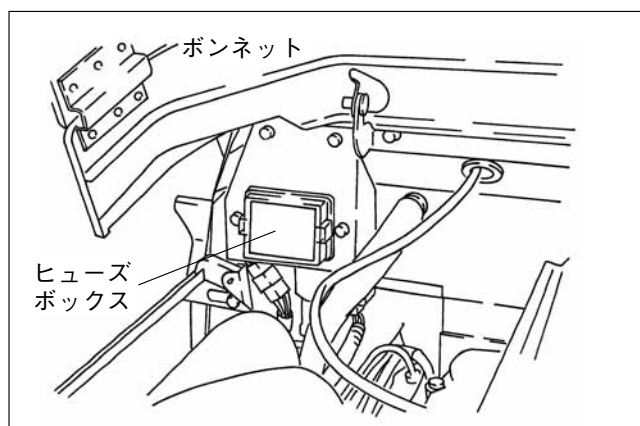
4. 電装関係の取扱い

1. ヒューズおよびヒューズブルリンクの取扱い

配線の回路に異常を生じた時、事故を未然に防止するためにヒューズおよびヒューズブルリンクを設けています。

運転中、電気系統に異常を確認した時は、ヒューズおよびヒューズブルリンクが切れていないかチェックします。

① ヒューズ



- (1) Aのヒューズ溶断
 - ・エンジンが始動しません。
 - ・エンジン運転中にこのヒューズが溶断するとエンジンが停止します。
- (2) Bのヒューズ溶断
 - ・方向指示灯が点灯しません。
 - ・ダイヤクイックターンが作動しません。
- (3) Cのヒューズ溶断
 - ・マイコン機能が作動しません。
[マイコン装備機]
- (4) Dのヒューズ溶断
 - ・前照灯が点灯しません。
 - ・ホーンが鳴りません。
 - ・メータ照明が点灯しません。
- (5) Eのヒューズ溶断
 - ・作業機用電源が作用しません。
- (6) Fのヒューズ溶断
 - ・グローランプが点灯しません。

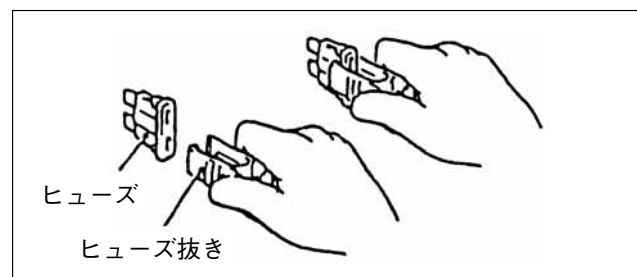
② ヒューズの交換

警告 火災防止のために

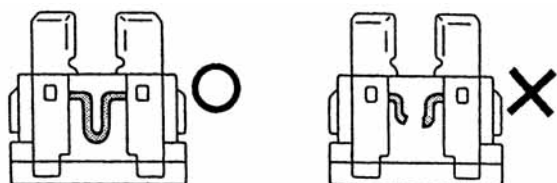
◆取付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金、銀紙などを使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

各ヒューズが受け持っている装置が作動しない時は次のように処置してください。

- (1) キーを《切》にします。
- (2) ヒューズ抜きを使ってヒューズを引抜きます。
(ヒューズ抜きはヒューズボックスの中に入っています。)



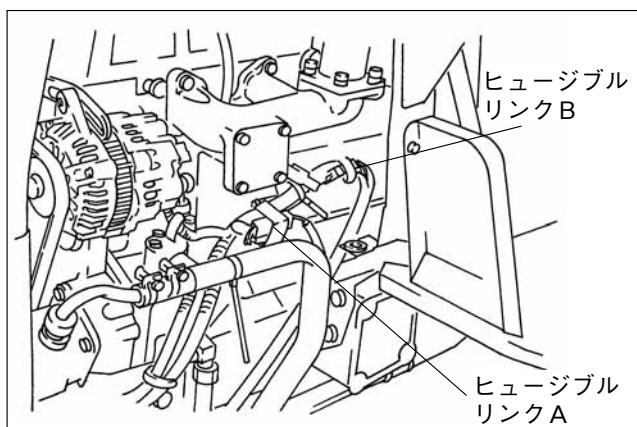
- (3) ヒューズが図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



取扱いのポイント

- 取りかえてもヒューズが切れる時は「お買いあげ先」で点検を受けてください。

③ ヒューズブルリンク



- (1) Aのヒューズブルリンク溶断
すべての電気系統が作動しません。
- (2) Bのヒューズブルリンク溶断
スタータは回りますが、エンジンがかかりません。

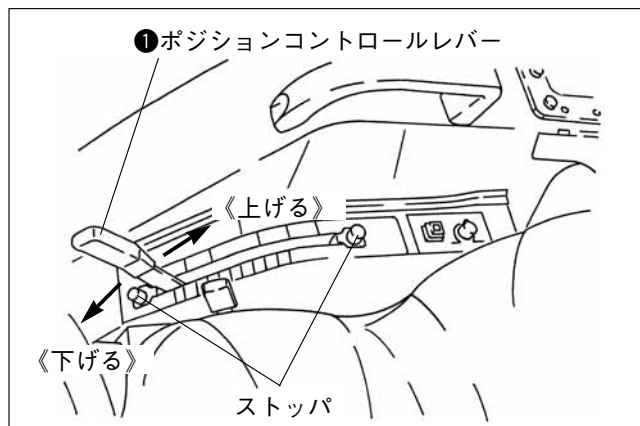
取扱いのポイント

- ヒューズブルリンクが切れた場合は、切れた原因を調べ修理後、純正部品のヒューズブルリンクと交換してください。

5. 油圧装置の取扱い

1. コントロールレバーの操作

この油圧装置にはポジションコントロールレバー及びPACレバーを備えています。



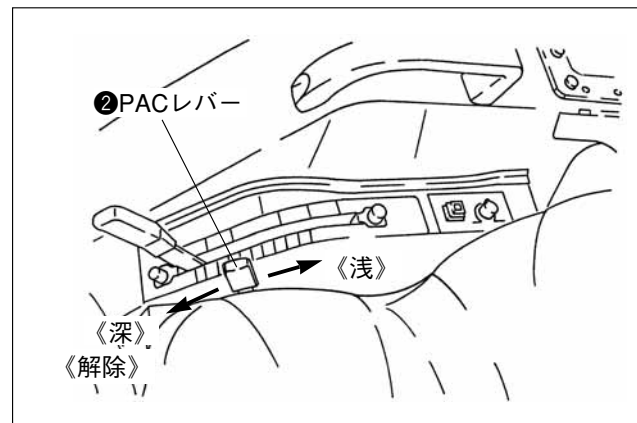
① ポジションコントロールレバー

ポジションコントロールレバーは作業機の位置が自由に決められ一定に保たれます。ポジションコントロールレバーを使用する場合は次のように操作します。

- (1) ポジションコントロールレバーを前方に押せば作業機は自重で下がります。
- (2) ポジションコントロールレバーを任意の位置にすると、作業機はそのレバー位置に対応した高さまで上下した所で止まります。

- (3) 作業機を一定の高さに保ちたい場合は、「ストップ」を任意の位置に固定しポジションコントロールレバーの位置を決めることにより、作業機の《上げる》・《下げる》の位置は同じになります。

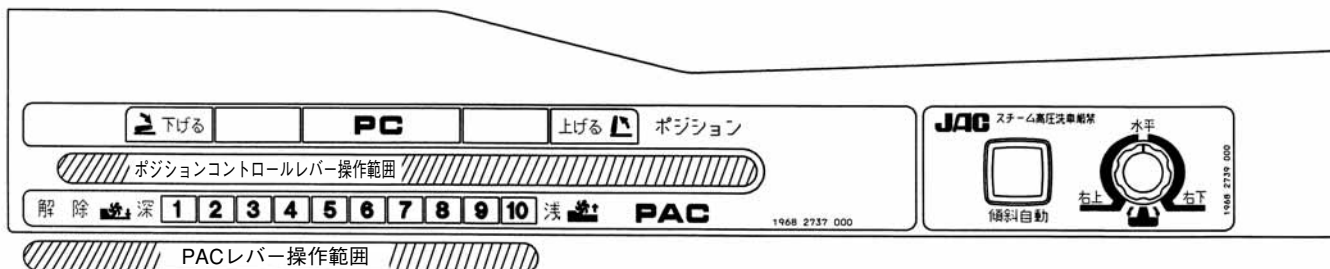
② PACレバー（耕深自動調節）



PACレバーは、ロータリ耕うん作業において耕深を自動調節します。

ロータリの耕深をリヤカバーで検知して、自動的に油圧を作動させ、耕深を一定に保持します。PACレバーを使用する場合は、次のように操作します。

- (1) ポジションコントロールレバーを《下げる》位置にします。ロータリは自重で下がります。
- (2) PACレバーを操作して任意の位置にセットすると、ロータリの耕深を一定に保つことができます。PACレバーを前方にするほど耕深は《深》く、後方にするほど《浅》くなります。



(3) ポジションコントロールレバーでロータリを上げ、下げします。ポジションコントロールレバーを《下げる》にして耕うんすると、PACレバーでセットしている耕深が維持できます。

取扱いのポイント

- ほ場移動するときはロータリを上げてPACレバーを《解除》位置にしてください。

2. 作業機降下速度の調節

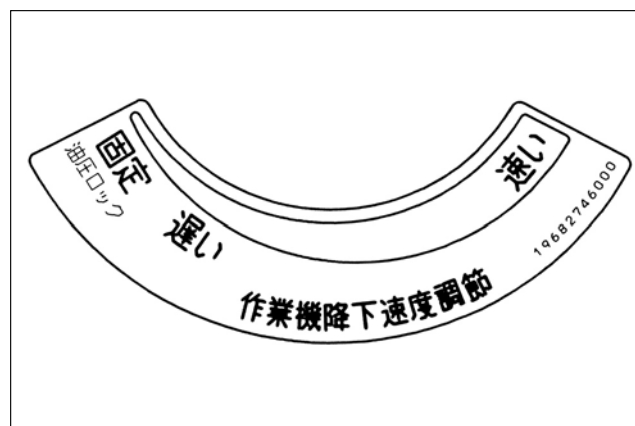
① 作業機降下速度調節グリップ

警告 傷害事故防止のために

◆作業機を上げて、整備・点検・掃除を行う時は、エンジンを停止し作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。ポジションコントロールレバーを《下げる》の方向にゆっくり動かして、作業機が落下しないか確認してください。さらに作業機の下に「固定脚」を入れてください。

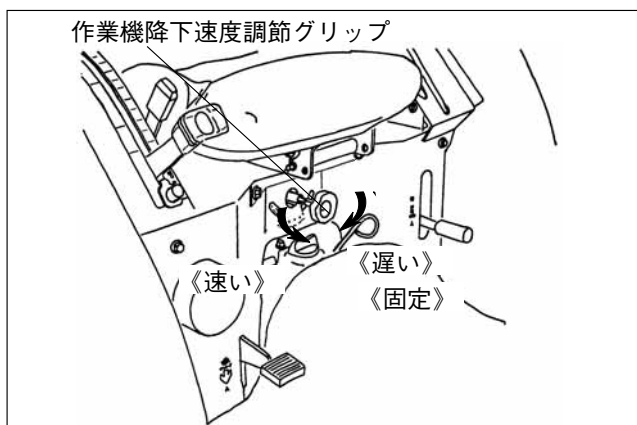
◆道路走行時は作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。

作業機降下速度調節グリップ	降下速度
右に回す《遅い》	遅くなる
左に回す《速い》	速くなる
右に軽く締込む《固定》	固定される



- ・作業機の種類，作業状況によって降下速度を調節してください。

ロータリ作業…降下速度を遅くします。
 プラウ作業……降下速度を速くします。



- ・作業機降下速度調節グリップはシートの下にあります。
- ・作業機降下速度調節グリップを回すことにより作業機の降下速度を調節できます。

3. パワーステアリングの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆坂道、傾斜地ではエンジンを停止しないでください。作業中、走行中にエンジンが停止した時は、すみやかにエンジンを再スタートします。エンジンが停止するとパワーステアリング装置が働かなくなり、ハンドルが重くなり、衝突・転落等の事故になることがあります。
- ◆高速走行時は、急にハンドルを切らないようにしてください。
- ◆エンジン停止中に他車にけん引してもらう場合はまえもって手動操舵ができることを確認してからけん引してもらってください。他車にけん引してもらう場合は速度を5km/h以下としてください。
- ◆油圧シリンダ部のホースは「2年ごと」に交換してください。

このトラクタは、全油圧形パワーステアリングが装備されています。従来形のパワーステアリングに比較し、操作感覚が少し異なりますので、以下の内容を理解してから運転します。

- ① ハンドルから前車軸までの間にリンク機構がありませんので、いっばいに切った後でも、力を加えることにより更にハンドルは回ります。
- ② ハンドルを切ったときのみ車輪が切れますので、旋回から直進に移る時も、ハンドルを回して直進に戻します。
- ③ エンジンが停止するとハンドルが非常に重くなります。

取扱いのポイント

- 暖機運転をしてから走行してください。
- 操舵時、油圧系から異音がする場合、油圧回路に空気が入っていることがあります。5秒程度左右一杯にハンドルを切ったままにすると空気が抜けます。

4. フロントローダの取扱い

① フロントローダ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆フロントローダ使用の場合は、ダイヤクイックターンは使用しないでください。バランスがくずれ横転や傷害事故の恐れがあります。

フロントローダの油圧取出しは、トラクタの右側に装備された油圧ブロックの切換えプレートを《S》側に切換えて行います。

詳しくは、フロントローダの取扱説明書に従って行います。

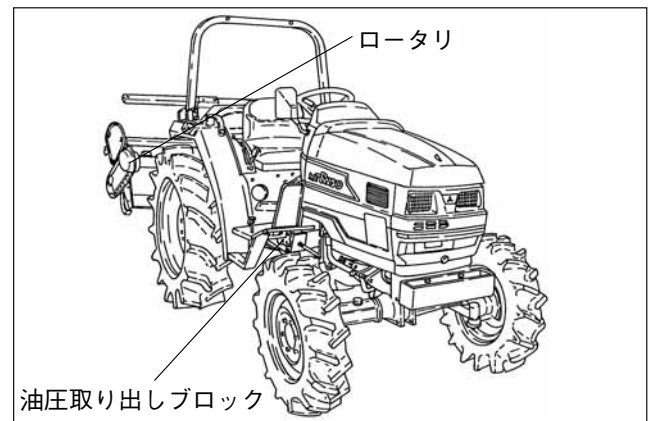
取扱いのポイント

- フロントローダを装着する時は購入先にご相談ください。当社の規格外のフロントローダは使用しないでください。
- フロントローダ以外の作業機で作業機側でコントロールバルブを準備している場合は、この油圧取出口を利用してください。但し、フロントローダとの共着はできません。
- フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を 250kPa {2.5kgf/cm²} にしてください。

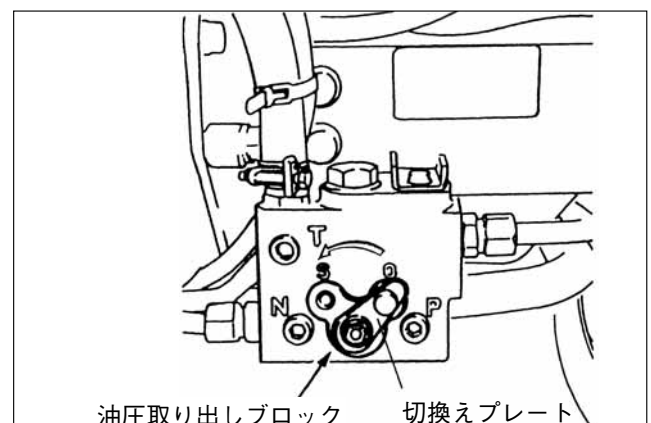
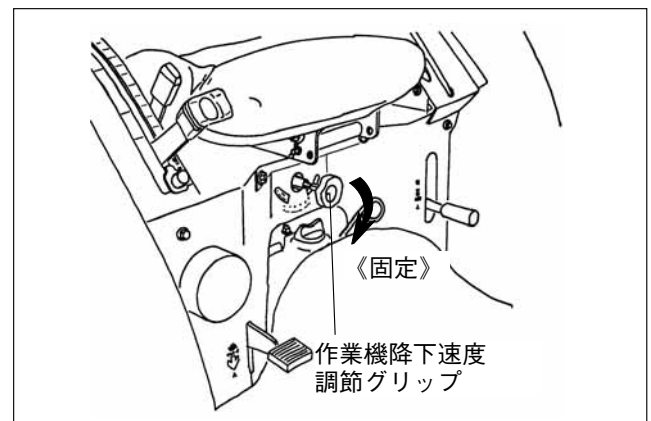
② 重量バランスの取り方

⚠警告 傷害事故防止のために

◆フロントローダ作業をする時は、後方に他の作業機を装着するなどして、バランスを保ってください。



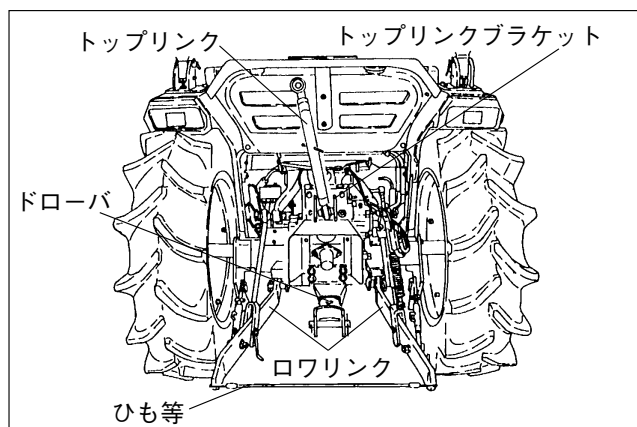
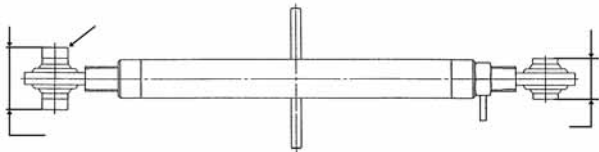
ロータリはいっぱい上げて作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてロータリが下がらないようにします。



6. 3点リンクの取扱い

1. トップリンク

トップリンクブラケットにトップリンク取付部の幅が広い方を取付けます。



2. 作業機を取付けない時は

- 1 トップリンクを外します。
- 2 左右のロワリンクをひも等でつなぎ振れ止めをします。

3. ドローバ (アタッチメント)

警告 傷害事故防止のために

- ◆けん引作業をする時は、純正ドローバを使用し、ドローバ以外で引っ張らないでください。トップリンクブラケットなど車軸より高い位置でけん引すると転倒することがあります。
- ◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は輪距を広くして使用してください。(39～40ページ参照)

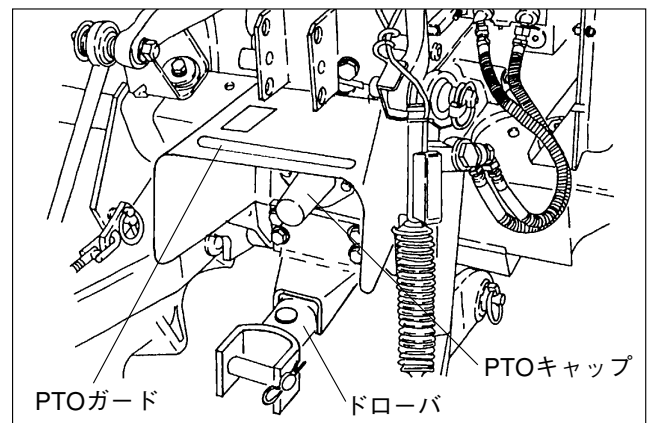
- ・けん引作業をする時は、純正ドローバを使用します。
- ・けん引作業に使用する作業機はこのトラクタに適合したものを使用します。不明な点がありましたらお買いあげ先に相談し、無理なけん引は避けます。

4. PTOガード, キャップ

警告 傷害事故防止のために

- ◆PTOガードは、取外さないでください。PTOガードを取付けないで作業をすると、巻込まれによる傷害事故を引起こす恐れがあります。
- ◆PTOガードの上に乗らないでください。
- ◆PTO軸を使用しない時は、PTOキャップを取付けてください。

PTOを使わないときは、PTO軸にグリスを塗り、PTOキャップを取付けておきます。



5. ロータリの取付け

ロータリの取付けは「ロータリの取扱説明書」をよく読んでから行います。

運転のしかた

1. 運転まえの点検

警告 ヤケド、火災、傷害事故防止のために

- ◆点検や整備、または給油・給水・注油する時には、トラクタを平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してから行なってください。
- ◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は燃料補給をしないでください。
- ◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
- ◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- ◆ラジエータキャップの取外しは、エンジンが冷えてから行なってください。

1. 点検項目

- ・点検は「定期点検整備表」(46～47ページ)を参照して作業前に欠かさず行なってください。
- ・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「お買いあげ先」に相談し点検を受けてください。



点 検 個 所		処 置
運 転 ま え に	エンジンオイル (エンジン クランクケース)	・レベルゲージの上下限線の間にお油量があれば良い。 ・不足時は、油面がレベルゲージの刻み線《F》(上限)になるまで補給する。(50ページ参照)
	冷 却 水 (ラジエータ)	・リザーブタンクに適量あるか。 (給水レベルの上限と下限の間にあること) ・不足していれば冷却水をリザーブタンクに適量補給する。(53～54ページ参照)
	ラジエータスクリーン ラジエータフィン	・スクリーンを抜き取り掃除してください。 ・スクリーンを抜き取り掃除してください。 ・圧縮空気で掃除してください。(60ページ参照)
	エ ア ク リ ー ナ	・エアクリーナエレメントの汚れ目詰まりはないか。 ・エレメントを取外し掃除してください。(60ページ参照)
	タ イ ヤ	・空気圧は適正か。 ・ボルト・ナットのゆるみはないか。 (40ページ参照) ・前輪150kPa {1.5kgf/cm ² } 後輪100kPa {1.0kgf/cm ² } …270L, 250L, 270, 300 ・前輪150kPa {1.5kgf/cm ² } 後輪120kPa {1.2kgf/cm ² } …250 (64ページ参照)
	燃 料 ホ ー ス	・燃料ホースの損傷、外皮のはがれ及び継ぎ部より燃料もれがないか。 ・もれている場合、燃料ホースの交換。 (65ページ参照)
キ ー を (<small>四入</small>) に し て	燃 料 計	・作業に必要な燃料があるか。 ・ディーゼル軽油を補給する。 (51ページ参照)
	ホ ー ン	・ホーンスイッチを押せば鳴るか。 ・ヒューズ切れ、配線の外れを調べ処置する。(20～21ページ参照)
	方 向 指 示 灯 等 の 保 安 部 品	・球切れ、ヒューズ切れ、配線の外れを調べ、処置する (20～21ページ参照)
エ ン ジ ン を 始 動 し て	イ ン ジ ケ ー タ ラ ン プ	・グロー、チャージ、エンジンオイルランプは消灯するか。 ・エンジンオイルを補給する。・充電する。 ・異常個所を調べ、処置する。 (7, 50, 66～69ページ参照)
	タ コ メ ー タ	・異常個所を調べ、処置する。 (8ページ参照)
	ス テ ア リ ン グ 及 び 各 レ バ ー 類	・ハンドルを回し正常に作動するか。 ・各レバーを操作し正常に作動するか。 ・異常個所を調べ、処置する。 (11～15, 64ページ参照)
	ブ レ ー キ ペ ダ ル ク ラ ッ チ ペ ダ ル	・低速で走行してペダル操作時に正常に作動するか。 ・異常個所を調べ、処置する。 (61, 63ページ参照)

2. 運転操作のしかた

1. エンジンの始動

警告 傷害事故防止のために

- ◆点検などで取外したカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてけがをすることがあります。
- ◆トラクタに乗車する前に、トラクタの外周を見て回り、異常がないことを確認してください。
- ◆主変速、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にし、駐車ブレーキをかけてから、エンジンを始動してください。
- ◆エンジンの始動、発進する時は、周囲の人に合図をしトラクタや作業機のまわりから人を遠ざけてください。
- ◆エンジンの始動はシートに座って、シートベルトをしめてから行なってください。
- ◆トラクタや作業機に子供等、人や物を乗せないでください。
- ◆暖機運転は主変速、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にし、駐車ブレーキをかけてから行なってください。

- ① 左右のブレーキペダルを連結し駐車ブレーキをかけておきます。
- ② 主変速レバー、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にします。
- ③ エンジンコントロールレバーを手前にいっぱいに引きます。
- ④ クラッチペダルをいっぱい踏込みます。[MTR型]は、主変速レバーを《始動位置N》側に操作し、保持します。
- ⑤ キーを《 〇〇 入》にするとエンジンオイルランプ、チャージランプ、グロウランプが点灯します。
- ⑥ グロウランプが消灯してから、キーを《 〇 始動》位置にします。
- ⑦ 始動したら、ただちにキーより手を離します。キーは自動的に《 〇〇 入》の位置に戻ります。
- ⑧ エンジンオイルランプ、チャージランプが消えれば正常です。消えないときは、すぐエンジンを停止して点検します。
- ⑨ エンジン回転を約1500回転にして暖機運転します。(約5分間)

取扱いのポイント

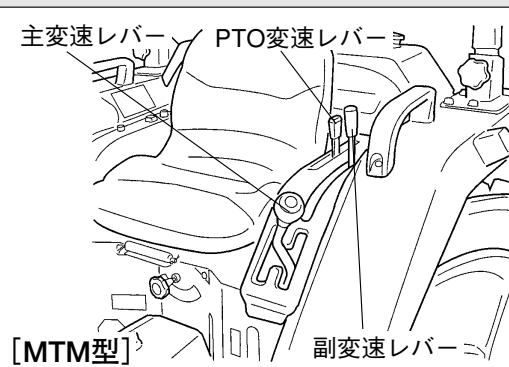
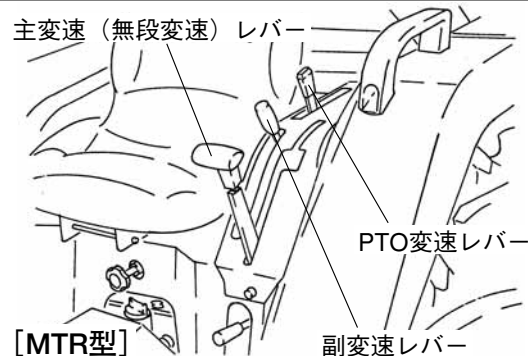
- クラッチペダルをいっぱい踏込み、主変速（無段変速）レバーを中立にし、《始動位置N》側に操作したまま保持しなければエンジンは始動しません。[MTR型]
- エンジンが少しでも回転している時は、キーを《 始動 》にしないでください。
故障の原因となります。
- 始動操作を繰り返した場合、グローランプは点灯しません。またエンジン停止後、すぐにエンジンを再始動する場合にも点灯しないか、点灯時間が短いことがあります。保護回路が作動するため、故障ではありません。
- 暖機運転は、寒冷時に限らず行なってください。エンジンが暖まらないうちに走行すると、エンジンの寿命を短くします。
- 寒冷時の始動
下表を参照し、気温にあったエンジンオイル、燃料を使用してください。

気温(℃)	-20	-10	0	10	20
エンジンオイル	SAE10W-30		SAE20		
燃料(軽油)	JIS特3号	JIS3号	JIS2号		

2. 発進のしかた

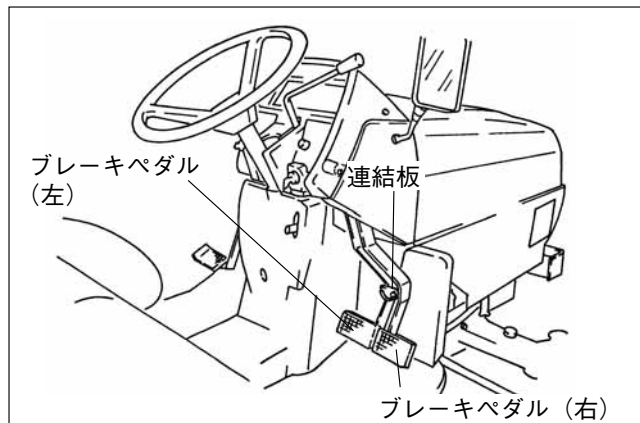
警告 傷害事故防止のために

- ◆ 発進する時はクラッチペダルをゆっくり離してください。急に離すと急発進して事故の原因になります。
- ◆ 主変速レバー（無段変速）は急激な操作をしないでください。急発進して事故の原因になります。([MTR型])
- ◆ ダイヤクイックターンスイッチを《切》にしてください。《入》になっていると、急旋回して、事故の原因となります。
- ◆ 作業機を装着している時は、周囲を確認し、ゆっくりと旋回してください。
- ◆ 高速で急旋回しないでください。エンジン回転を下げた後旋回してください。
- ◆ 坂道や傾斜地では、主変速、副変速レバーを「《N》(中立)」にしないでください。「《N》(中立)」になっているとエンジンブレーキがかかずおもわぬ事故を引起こす原因となります。

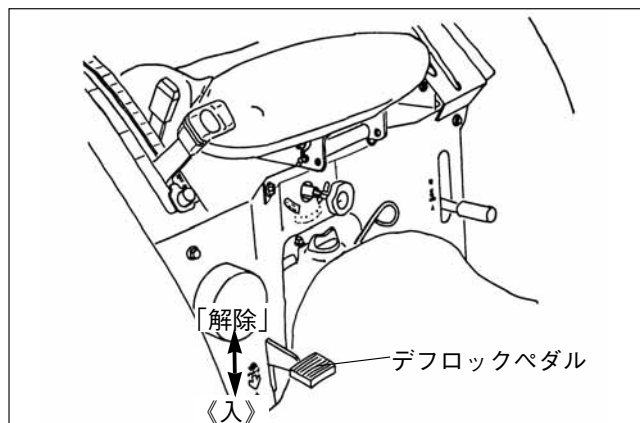


運転のしかた

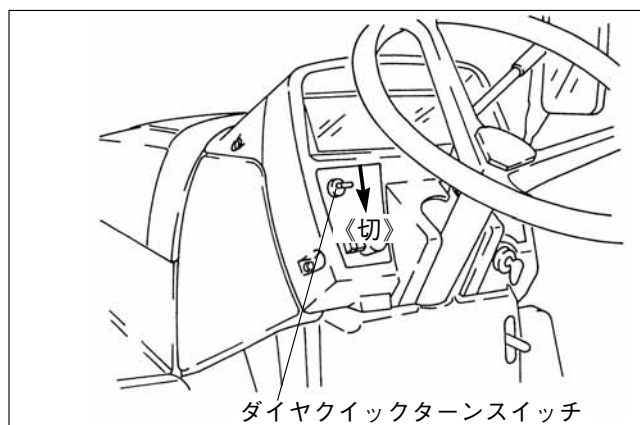
- ① ほ場作業以外では、左右のブレーキペダルを連結します。



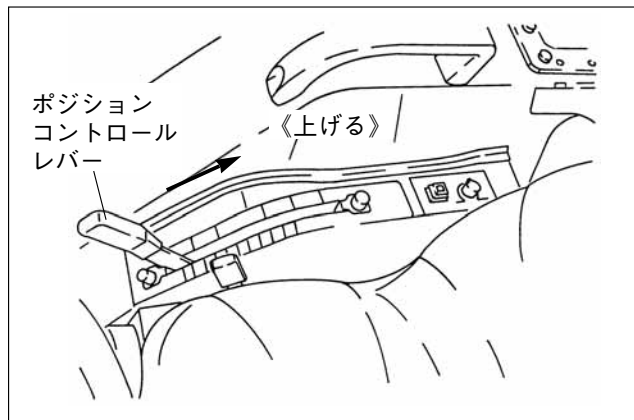
- ② デフロックペダルが「解除」されているか確認します。



- ③ ダイヤクイックターンスイッチを《切》にします。



- ④ ポジションコントロールレバーを後方にゆっくり引き、作業機を持上げます。



- ⑤ エンジン回転を約1,500回転位にします。



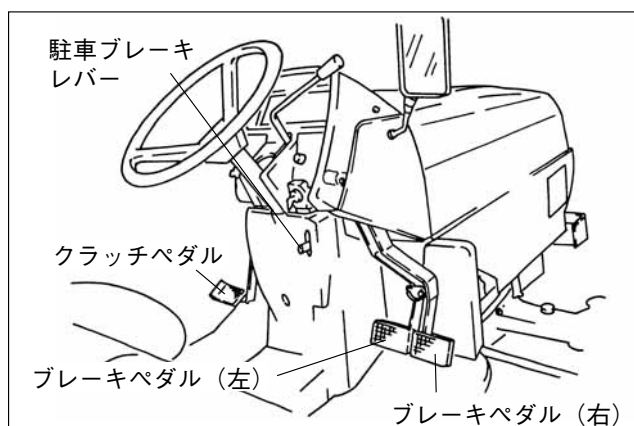
- ⑥ クラッチペダルを、いっぱい踏込みます。

- ⑦ 副変速レバーを所要変速位置に入れます。[MTR型]

主変速レバー・副変速レバーを所要変速位置に入れます。[MTM型]

取扱いのポイント

- 変速はクラッチペダルをいっぱい踏込んで、行なってください。
 - 変速が入り難い場合は、無理な操作をせず、もう一度クラッチペダルを踏み直してから変速操作を行なってください。
- ⑧ ブレーキペダルを強く踏込み、駐車ブレーキを外します。



- ⑨ クラッチペダルをゆっくり離します。

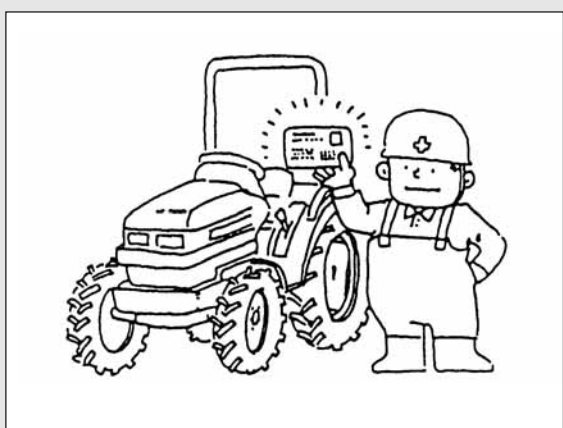
- ⑩ 主変速レバーを操作し、適正走行速度の位置まで、徐々に動かします。[MTR型]

3. 走行のしかた

警告 傷害事故防止のために

◆公道を走行する時は、運転免許証を携帯し、交通法規を守り、安全のためヘルメットを着用してください。

- ・作業機を装着しない。
- ・補助車輪はつけない。
- ・公道では低速車線を走行する。



◆運転者の他に子供等人や物を乗せないでください。

◆道路を走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。左右のブレーキペダルを連結しておかないとブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

◆デフロックの解除を確認してください。

◆道路走行時にはPACレバーを《解除》位置にしマイコン装備機（JAC仕様）は傾斜自動スイッチを「切」にして走行してください。

また、作業機降下速度調節グリップを《固定》にして作業機の落下を防止してください。

◆ダイヤクイックターンスイッチを《切》にしてください。

◆安全フレームは、おこした位置で、シート

ベルトを締めて走行してください。

◆急激な変速をしないでください。主変速レバーの操作はゆっくり行なってください。

[MTR型]は油圧駆動の為走行中急激に主変速レバーを「《N》(中立)」にすると急停止します。

◆発進、旋回、傾斜地、荒地では低速にし、急傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。

◆重い作業機を装着すると、トラクタの前部が軽くなって、ハンドル操作をしても思うように旋回できないことがあります。バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。

◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

◆狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないで低速で走行してください。

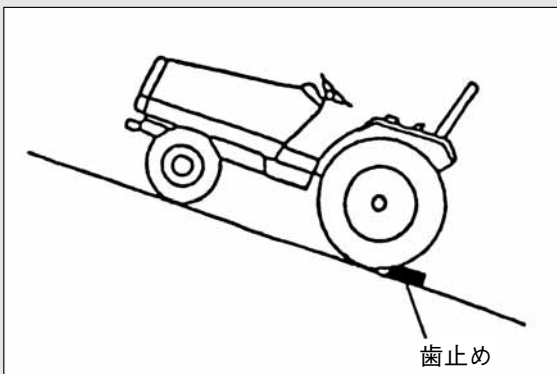
◆夜間走行時、対向車とすれ違うときは、前照灯を下向きにし、対向車の妨害にならないようにしてください。

- ・走行スピードは主変速レバーとフットアクセルペダルで調整します。
- ・進路変更するときは、方向指示灯スイッチによって進行方向を他の車に知らせます。
- ・バックミラーで後続車を確認し、追越しの妨害にならないようにしてください。

4. 停止のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆駐車する場合は平坦な場所を選んでください。
- ◆駐車・停車時には駐車ブレーキをかけてください。
- ◆トラクタを離れる場合は、キーを抜取ってください。
- ◆坂道、傾斜地では駐車しないでください。やむをえず駐車する時は、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し後輪に歯止めをしてください。坂道、傾斜地では変速を入れても、駐車ブレーキ、歯止めをしないと機械が動きだし傷害事故をおこすことがあります。
- ◆作業機をおろす時は、トラクタ、作業機の周囲に子供等、人を近づけないでください。



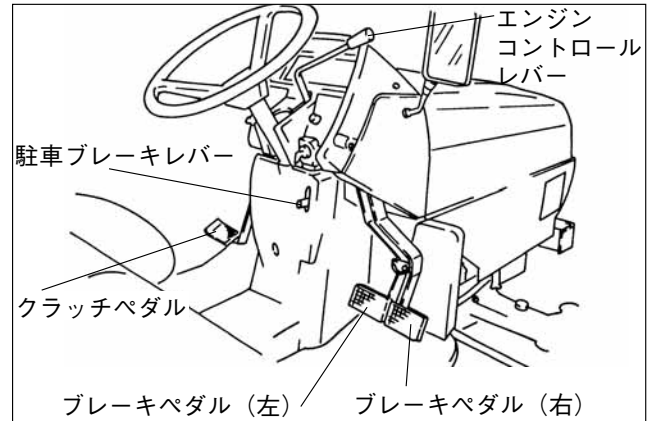
⚠警告 火災防止のために

- ◆トラクタを停止するときは、乾いた草やワラの近くに止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると、火災の恐れがあります。
- ◆停車時、エンジンを空吹かししたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火する恐れがあります。

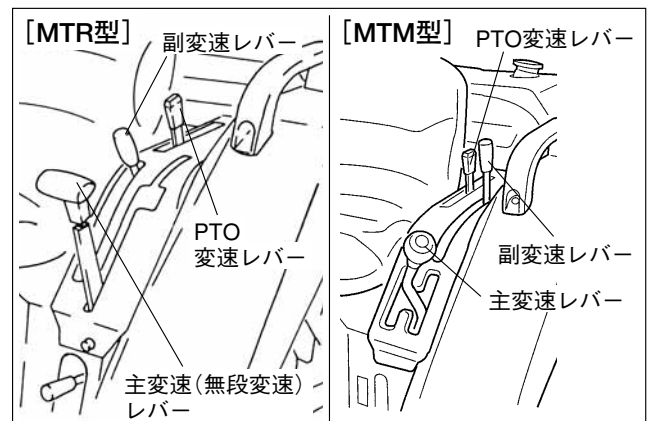
① エンジンコントロールレバーを前方に押し、エンジンを低速回転にします。



② クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏込んで停止します。



③ 左右のブレーキペダルが連結してあることを確認し、駐車ブレーキレバーを下方に押さえながらブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキをかけます。ブレーキペダルより足を離します。



④ 主変速レバー、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にしてから、クラッチペダルより足を離します。

⑤ ポジションコントロールレバーをゆっくり《下げる》にして作業機をおろします。

⑥ キーを《 切 》にします。

取扱いのポイント

- 作業が終わってもエンジンをすぐ停止させず、アイドリング回転で5分間ほど回転させてください。すぐ停止させますと、エンジンの冷却が悪くなり、寿命を縮めます。

5. 自動車への積込み・積降ろし

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆補助者の立合い，誘導のもとに行います。
- ◆トラクタの周囲に子供等，人を近づけないでください。
- ◆アユミは，強度，幅（前後輪が外れない幅），長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め，フック付きの基準に合ったものを使用してください。
- ◆トラクタの重量で，アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んで行なってください。
- ◆アユミのフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように荷台に対して真っ直ぐに掛けてください。
- ◆アユミの上でのクラッチ操作，変速操作をしなくてもいいように，前後輪のタイヤをアユミに，真っ直ぐにのせてください。
- ◆自動車への積込み，積降ろし中は，変速レバー，クラッチペダル，デフロック，片ブレーキは使用しないでください。急に方向転換したり転落する恐れがあります。
- ◆積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行い，必要以上のハンドル操作はしないでください。
- ◆ロータリの爪がアユミに引っかからないようにしてください。
- ◆トラックで輸送する時は駐車ブレーキをかけロープで固定してください。








アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの4倍以上
幅	55cm以上
数量	2枚
強度	1枚が1,000kg以上の重量にたえるもの

- ③ 左右のブレーキペダルを連結します。
- ④ デフロックが解除されていることを確認します。
- ⑤ PTO変速を「《N》(中立)」にしダイヤクイックターンスイッチを《切》の位置にします。
- ⑥ トラクタのタイヤとアユミを一直線上に合わせ，作業機をいっぱいに上げます。
- ⑦ 変速は低速位置で4輪駆動レバーを《入》にして，積込みは後進，積降ろしは前進で行います。
- ⑧ 途中でエンジンがストップした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，徐々にブレーキをゆるめ，いったん下まで降りてエンジンを再スタートします。
- ⑨ ハンドル操作は脱輪ないように慎重に行います。
- ⑩ 積込み後は，駐車ブレーキをかけて作業機を降ろし，エンジンを切り，変速を低速位置に入れロープでトラクタを固定します。


取扱いのポイント

- 変速の低速位置とは，副変速レバー《》位置で主変速レバー《1》～《2》位置のことを示します。[MTR型]
- 変速の低速位置とは，副変速レバー《低速》位置で主変速レバー《1》位置のことを示します。[MTM型]

① 積載重量1,500kg以上の自動車では荷台から作業機がはみ出さない車を使用します。自動車はエンジンを停止し変速を1速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ，歯止めをします。

② アユミは，十分な強度，幅，長さのある基準に合ったすべり止め，フック付きのものを使用し，トラクタのタイヤの間隔に合わせ荷台に対して真っ直ぐにかけます。

6. 坂道での運転のしかた

 **警告** 傷害事故防止のために


- ◆坂道を走行する時、左右のブレーキペダルの連結およびデフロックの解除を確認してください。
- ◆下り坂では、エンジnbrakeを使用し、クラッチペダルは踏まないでください。
- ◆下り坂では副変速レバーを「《N》(中立)」にしたり、クラッチを切ったままで走行しないでください。
- ◆坂道では急激な変速をしないでください。主変速レバーの操作はゆっくり行なってください。
- ◆坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、さらに後輪に歯止めをしてください。このトラクタはエンジンを止めると変速を入れていてもエンジnbrakeはききません。

- ① 坂道では、速度を落として走行します。
- ② 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないようにします。
- ③ 上り坂で発進する場合は、変速を低速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくりと発進します。
- ④ 急な下り坂ではエンジnbrakeを使用します。変速を低速位置にするとエンジnbrakeはよくききます。


作業のしかた

1. ほ場作業のしかた

1. ほ場への出入りのしかた

 **警告** 傷害事故防止のために

- ◆ほ場への出入りや、あぜ越えは左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認してください。
- ◆ほ場への出入りや、あぜ越えはPTO変速レバーを中立にしてください。
- ◆ほ場への出入りや、あぜ越えは低速で、あぜに直角に行なってください。
- ◆高あぜ，急傾斜，溝越えは，アユミを使用してください。
- ◆アユミの上では必要以上のハンドル操作や変速はしないでください。
- ◆あぜがくずれないようにゆっくり行なってください。

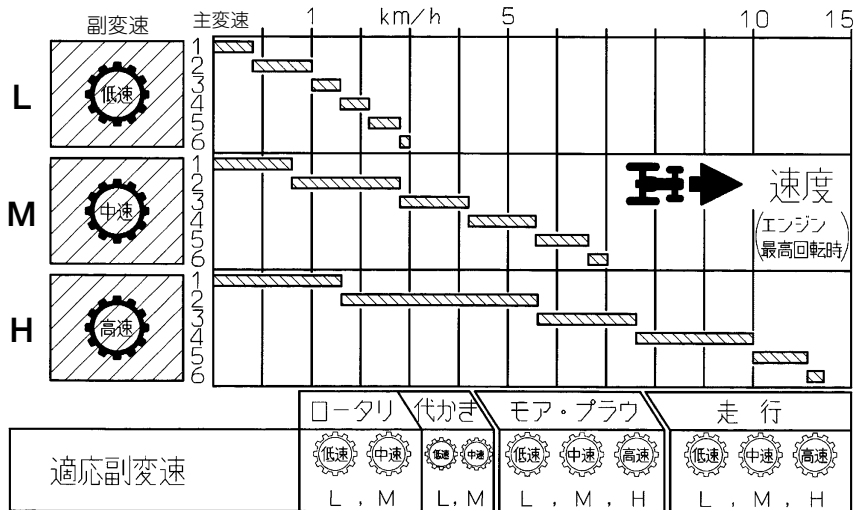
- ① 左右のブレーキペダルを連結します。
- ② デフロックが解除されていることを確認します。
- ③ ダイヤクイックターンスイッチを《切》にしてランプが消灯していることを確認します。
- ④ 副変速レバーを《  》の位置にします。
- ⑤ ゆるい傾斜を前進で登る時は，登り始めは，作業機を下げて行くと前輪が浮き上がりません。トラクタの後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら，操作します。
- ⑥ 4輪駆動の特色を生かして，後進で上がると上がる能力が増します。その時は，作業機をいっばい上げて行います。
- ⑦ ほ場への出入りの際は，途中で変速しないようにします。

2. 作業に適した速度の選びかた

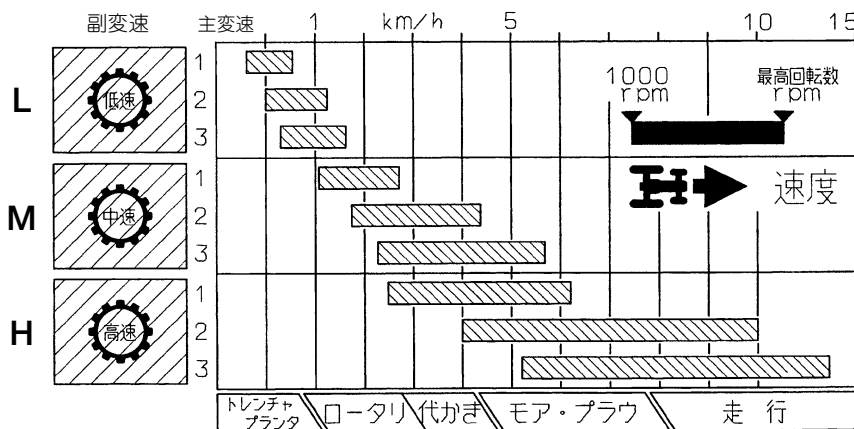
トラクタの走行速度およびPTO回転速度は、作業内容、ほ場の条件によって異なります。安全で最適な速度で運転します。

① 走行速度表

[MTR型]



[MTM型]



② PTO回転速度 (rpm)

PTO	作業内容	回転数/分	
		250型 270型	300型
1速	ロータリ耕うん・うね立	566	622
2速	ロータリ耕うん・うね立	813	894
3速	代かき・碎土	1279	1407

取扱いのポイント

- 一般作業機のPTO回転速度は、作業機の取扱説明書に従ってください。

3. デフロックの使いかた

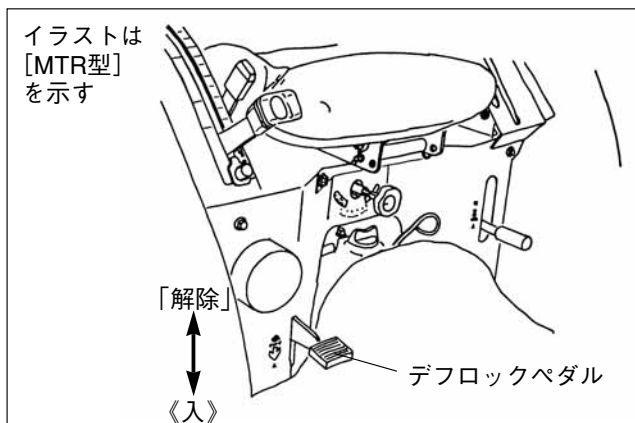
⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車への積み込み・積降ろし及び道路走行する時は、デフロックを使用しないでください。またデフロックが解除されていることを確認してください。デフロックを使用すると、ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを《入》にしたままで旋回しようとすると、思わぬ事故になることがあります。

片側の車輪がスリップし前後進しない場合はデフロックペダルを踏みます。デフロックペダルを踏むと差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。

次のような場合に効果がでます。

- ・軟らかいほ場
- ・プラウ作業



ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。（[MTM型]はデフロックランプが消灯します。）

湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくい時に使用すると効果があります。

上手に使用すると効果がありますが、使い方を誤ると事故や故障の原因となります。

取扱いのポイント

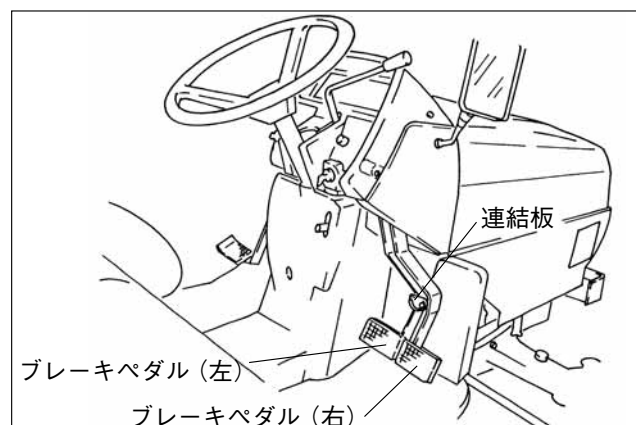
- デフロックを《入》にする時は、エンジン回転を下げたから行なってください。
「解除」しにくい時は、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏込んでください。
- 両輪の回転差が大きい場合は、一度クラッチペダルを踏込んでから行なってください。

4. ほ場での旋回のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆道路走行時は左右のブレーキペダルを連結してください。
- ◆急傾斜地では作業をしないでください。
急傾斜地で旋回すると、転倒による傷害事故を起こすことがあります。

- ① ほ場では、ブレーキペダルの連結板を外し、左右独立して使用すれば小さく旋回できます。その時は旋回する側のブレーキを踏込みます。



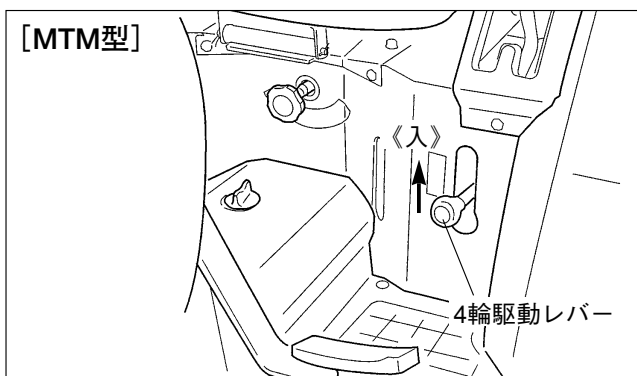
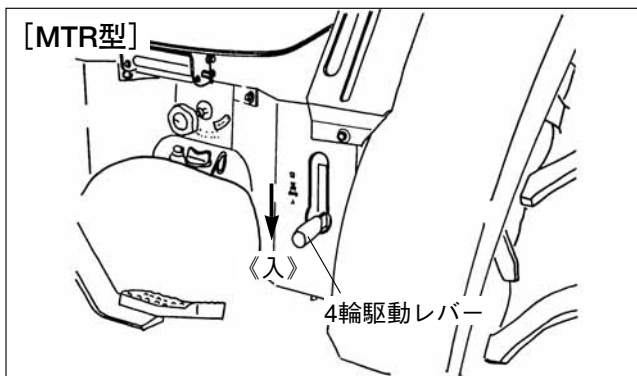
- ② 作業速度やほ場の傾斜の度合を考慮し、周囲を確認して作業をします。

5. ダイヤクイックターンの使いかた

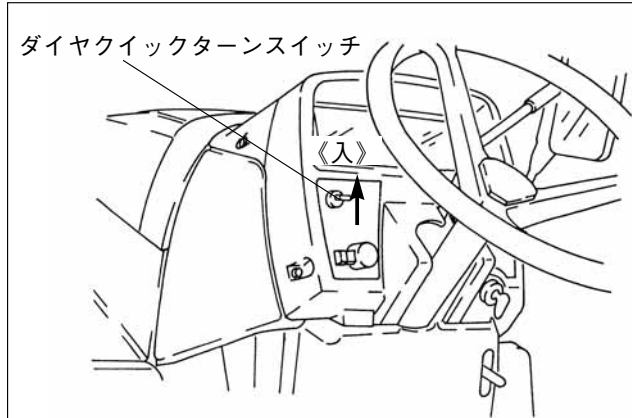
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆ダイヤクイックターンは、小さく旋回でき、旋回速度も速くなり、作業能率が上がりますが、ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。
- ◆ダイヤクイックターンスイッチ《入》では道路走行や傾斜地作業は行わないでください。横転や傷害事故の原因になることがあります。ほ場から出るときは、ダイヤクイックターンスイッチを《切》にしてください。
- ◆ダイヤクイックターンは、フロントローダ作業等、前輪に重荷重のかかる作業に使用しないでください。
バランスがくずれ横転や傷害事故の恐れがあります。

4輪駆動レバーを《入》にしダイヤクイックターンスイッチを《入》にすると小さく素速く旋回できます。



ダイヤクイックターンスイッチ



取扱いのポイント

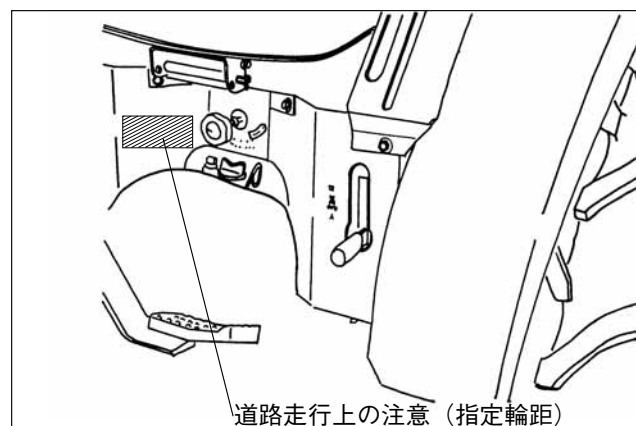
- ダイヤクイックターンは、隣接往復耕を行う時に隣の耕うん場所へ小さく素速く旋回できます。

2. 作業に必要な装置の使いかた

1. トレッドの調節のしかた

警告 傷害事故防止のために

- ◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。怠ると転倒による傷害事故を起こすことがあります。
- ◆公道は指定輪距（シートの下のカバーに道路走行上の注意として指定輪距を貼付しています）で走行してください。



後輪トレッドは左右タイヤの入替えをすることにより2段に調節できます。但し、前輪のトレッド調節はできません。公道を走行するときは、指定輪距（※印）にします。

[標準タイヤ仕様]

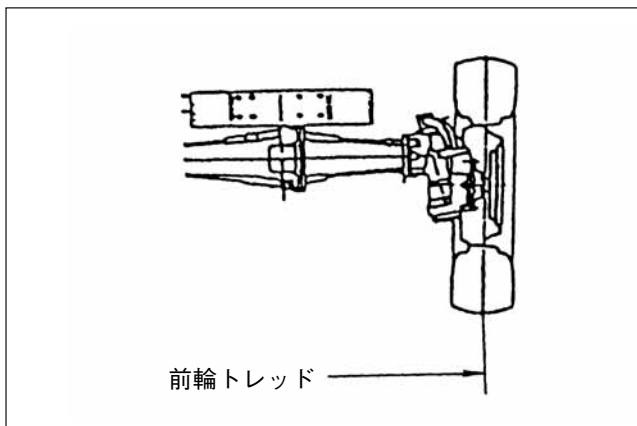
型 式	タイヤサイズ		駆動方式	調節段数		前 輪 トレッド (mm)	後輪トレッド (mm)		備 考
	前輪	後 輪		前輪	後輪		最小 (※指定輪距)	最 大	
250型	6-14	8.3-24	4 駆	1	2	1,095	1,075	1,220	
270型	7-14	9.5-24	↑	1	2	↑	↑	↑	
300型	7-16	11.2-24	↑	1	5	↑	1,110	1,410	

[大径タイヤ仕様]

型 式	タイヤサイズ		駆動方式	調節段数		前 輪 トレッド (mm)	後輪トレッド (mm)		備 考
	前輪	後 輪		前輪	後輪		最小 (※指定輪距)	最 大	
250L型	7-14	9.5-24	4 駆	1	2	1,095	1,075	1,220	
270L型	7-16	11.2-24	↑	1	5	↑	1,110	1,410	

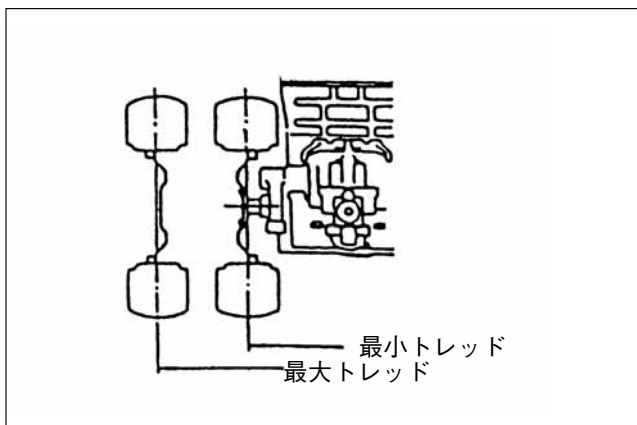
作業のしかた

・前輪

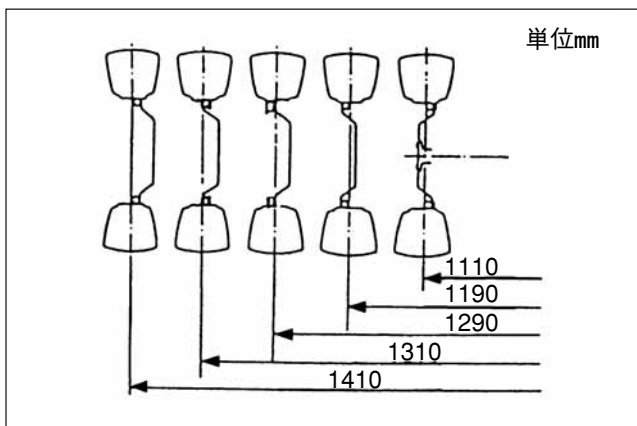


・後輪

[250型, 250L型, 270型]

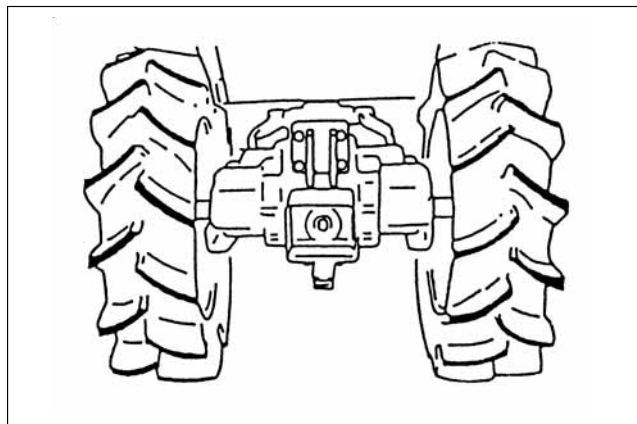


[270L型, 300型]



取扱いのポイント

- トレッド調節する時はタイヤラグの方向を間違えぬようにしてください。
(後方より見て「ハ」の字になるように)



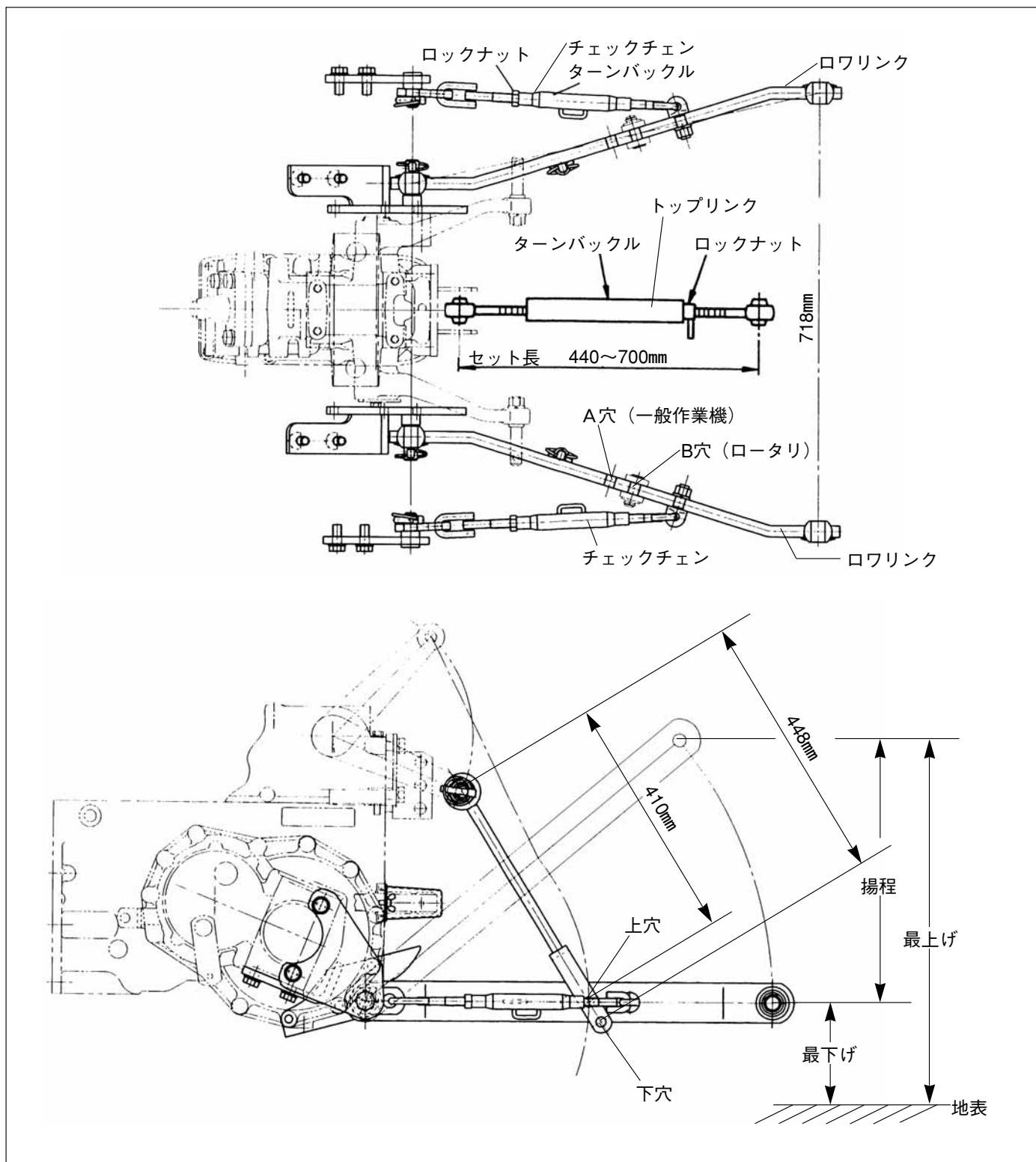
- トレッド調節後は適正な工具を使用して確実にボルト・ナットを締付けてください。
- タイヤホイール締付トルク
前輪……147~167 N・m
{15.0~17.0 kgf・m}
後輪……147~167 N・m
{15.0~17.0 kgf・m}
- リムとディスクの締付トルク
[270L型, 300型]
後輪……152~172 N・m
{15.5~17.5 kgf・m}

2. 3点リンクの取付け寸法の設定のしかた

3点リンクに作業機を取付ける時は作業機に応じて最も適した位置に取付けます。作業機ごとに寸法を指定しておりますので「作業機の取扱説明書」を参照してください。

① リフトロッド、トップリンクの長さの調整範囲は次の通りです。

- ・リフトロッド右（標準機）およびトップリンク（アタッチメント）の調整は、ロックナットをゆるめ、ターンバックルを回して調整します。調整後ロックナットで固定します。



作業のしかた

② ロワリンク後方目玉の地上高

(単位：mm)

機 種	ロワリンク	A穴 (一般作業機)		B穴 (ロータリ)	
	リフトロッド	下 穴	上 穴	下 穴	上 穴
250型	最下げ	225	315	275	358
	最上げ	742	806	731	788
	揚 程	517	491	456	430
250L型 270型	最下げ	255	345	305	388
	最上げ	772	836	761	818
	揚 程	517	491	456	430
270L型 300型	最下げ	275	365	325	408
	最上げ	792	856	781	838
	揚 程	517	491	456	430

※純正ロータリの取付けは、ロータリの取扱説明書により行います。

③ チェックチェン

作業機の横振れをターンバックルで次のように調整します。調整後はロックナットで固定します。

- (1) プラウ、ハロー、サブソイラ等の作業機は、作業機取付部が左右に5～6 cm動く程度に調整します。
調整後、作業機が横振れしてタイヤに当たらないことを確認します。
- (2) ロータリ、モア等の作業機は、作業機取付部が1 cm程度左右に振れるように調整します。

取扱いのポイント

- 作業機の横振れは、ポジションコントロールレバーで作業機を上げた時と下げた時に異なる場合がありますので両方確認し、振れの少ない方を上記調整寸法に合わせます。

3. 作業機の取扱い

下記の事項を守って作業機の取扱いを行います。

警告 傷害事故防止のために

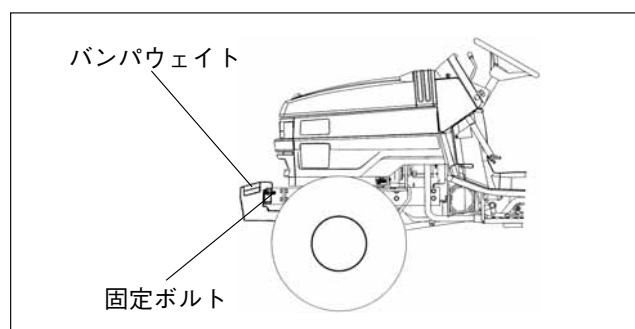
- ◆作業機の着脱は、平坦な場所で、正しい手順で行なってください。
- ◆作業機を着脱調整する時は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にして行なってください。
- ◆トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に入らないでください。
- ◆低速回転用作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のPTO回転速度を守ってください。
- ◆けん引作業、傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。
- ◆作業機を装着すると、長さが長くなりますので、旋回時は周囲を確認して行なってください。
- ◆公道を走行する時は、作業機を取外し別の自動車で運搬してください。
作業機を装着して走行すると道路運送車両法の違反になります。

4. バンパウエイト (オプション)

警告 傷害事故防止のために

- ◆重い作業機を連結または装着した場合は、トラクタのバンパにバンパウエイトを付けて、バランスを保ってください。

- ・バンパウエイトは純正品を使用してください。
- ・バンパウエイトを取付けるときは固定ボルトで固定してください。
- ・バンパウエイト取付表に記載されていない作業機を装着するときは「お買いあげ先」へご相談ください。



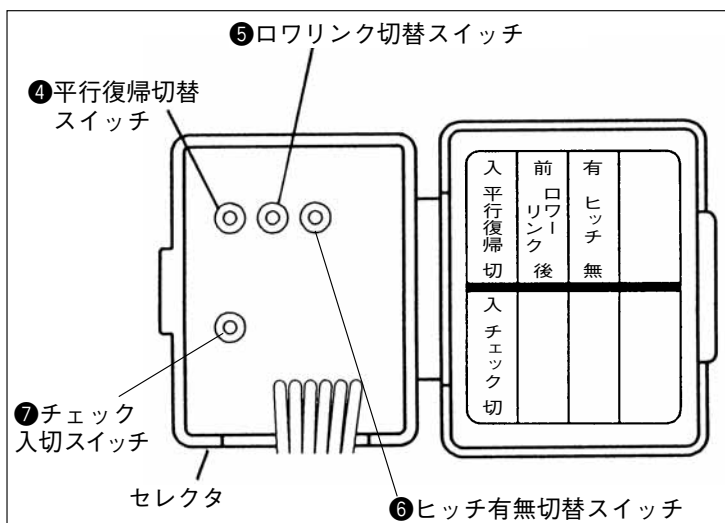
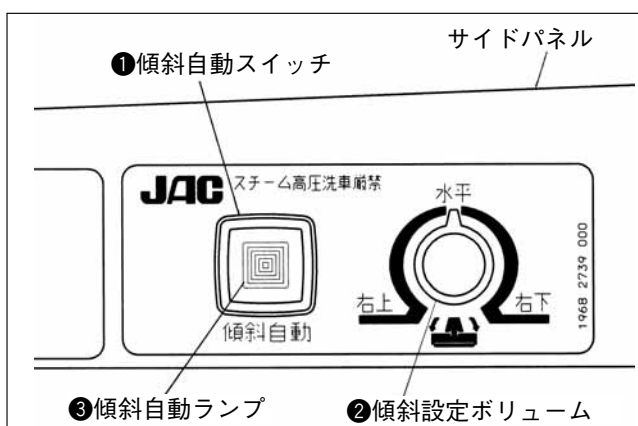
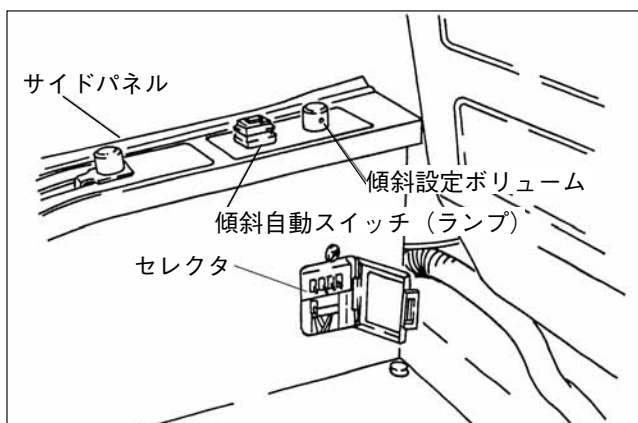
メーカー名	作業機名	型式	トラクタ型式	バンパウエイト
松山	ウイングハロー	HTS-2400B	250~300型	20kg×3ヶ
松山	ブロードキャスタ	MP306-B	250~300型	30kg×6ヶ
松山	ライムソフ	FT1605H-B	250~300型	30kg×5ヶ
松山	ドライブハロー	HR2408-4S	250~300型	20kg×2ヶ
松山	ウイングハロー	HTS2400B-4S	250~300型	30kg×5ヶ
松山	ロータリ	SX1705-4S	250~300型	30kg×3ヶ
松山	ブロードキャスタ	MP306-4S	250~300型	30kg×6ヶ
松山	ライムソフ	FT1605H-4S	250~300型	30kg×6ヶ
松山	ディスクロータリ	JB602S-4S	250~300型	20kg×5ヶ
松山	あぜぬり機	AZ701H-4S	250~300型	20kg×6ヶ
松山	あぜぬり機	AZ701H-1S	250~300型	20kg×4ヶ
松山	ライムソフ	FT1606H-1S	250~300型	20kg×5ヶ
松山	ブロードキャスタ	MP306	250~300型	30kg×6ヶ
小橋	ツインハロー	TC240-MU	250~300型	20kg×4ヶ
小橋	フレールモア	FM155-MU	250~300型	20kg×2ヶ
小橋	アゼロータ	AR750-MU	250~300型	20kg×3ヶ
小橋	アゼロータ	AR750-4S	250~300型	20kg×4ヶ
小橋	デスクロータ	DS425T-4S	250~300型	20kg×6ヶ
小橋	小橋ロータリ	M157T-4SDX	250~300型	20kg×3ヶ
小橋	ライムソフ	FD1602T-4S	250~300型	20kg×5ヶ
小橋	ブロードキャスタ	FC206T-4S	250~300型	20kg×6ヶ
スター	水田ハロー	MPS2400B	250~300型	20kg×2ヶ
スター	レインボーハロー	MP02600-B	250~300型	20kg×3ヶ
スター	ブロードキャスタ	MBC2040-B	250~300型	20kg×5ヶ
スター	ライムソフ	MLS1560-B	250~300型	20kg×6ヶ
スター	ライムソフ	MLS1560-4S	250~300型	20kg×6ヶ
スター	ブロードキャスタ	MBC2040-4S	250~300型	20kg×6ヶ
スター	水田ハロー	MPS2400-4S	250~300型	20kg×2ヶ
スター	レインボーハロー	MP02600-4S	250~300型	20kg×4ヶ
スター	ジャイロヘーメイカ	MGH2510	300型	20kg×3ヶ
タカキタ	ブロードキャスタ	BC2040	250~300型	30kg×6ヶ
タカキタ	ブロードキャスタ	BC2040-4S	250~300型	30kg×6ヶ
タカキタ	ライムソフ	LS2103-4S	250~300型	30kg×6ヶ
タカキタ	ブロードキャスタ	BC3010	250~300型	20kg×3ヶ
タカキタ	ライムソフ	LS2103	250~300型	30kg×6ヶ
タカキタ	ラップマシン	WM1000E	250~300型	20kg×4ヶ
ササキ	シャトルハロー	SW25TL-MB	250~300型	20kg×2ヶ
ササキ	ブロードキャスタ	BF301-MB	250~300型	30kg×5ヶ
ササキ	ブロードキャスタ	BF301-3S	250~300型	30kg×5ヶ
ササキ	ライムソフ	ML1820-3S	250~300型	30kg×6ヶ
ササキ	シャトルハロー	SW25TL-3S	250~300型	20kg×4ヶ
スガノ	水田ブラウ	RQY124	300型	20kg×6ヶ

マイコン装備機の取扱い

マイコン装備機は、高性能マイクロコンピュータ（略：マイコン）が搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ、オペレータの作業が軽減されます。

1. 傾斜自動の取扱い

1. 操作部名称



2. 取扱い方法

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場以外では傾斜自動スイッチを「切」（傾斜自動ランプ消灯）になるようにスイッチを押してください。「切」にしないと、作業機が自動的に作動し、傷害事故になることがあります。

① 傾斜自動スイッチ

キーを《 〇〇 入 》にすると、傾斜自動が「入」になります。「切」にしたい時は、エンジン始動後にスイッチを押してください。（スイッチを押すたびに「入 ↔ 切」を繰り返します。）



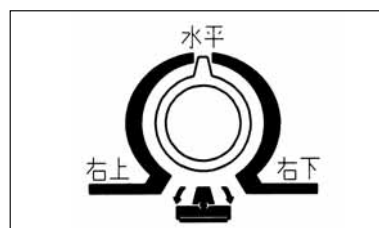
② 傾斜設定ボリューム

(1) 傾斜自動「入」の場合、傾斜設定ボリュームによって作業機の傾きを調整します。

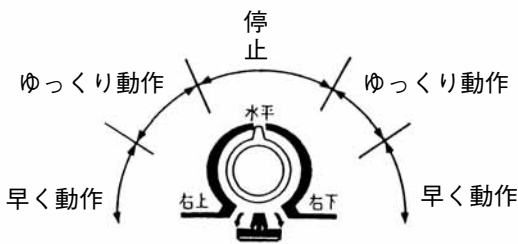
《水平》……作業機は常に水平となるよう自動的にコントロールされます。

《右上》……常に右上がりです。

《右下》……常に右下がりです。



(2) 傾斜自動「切」の場合にリフトロッドシリンダ長さを変えたい時は傾斜設定ボリュームの操作でシリンダを動作させてください。
 《水平》……リフトロッドシリンダは停止します。
 《右上》……リフトロッドシリンダは縮みます。
 《右下》……リフトロッドシリンダは伸びます。
 動作させたい位置までリフトロッドシリンダを動かしたら傾斜設定ボリュームを《水平》にして停止させます。

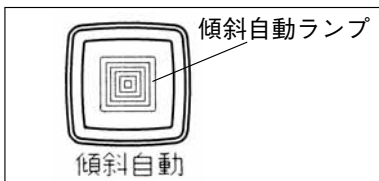


取扱いのポイント

- 作業機着脱作業時は、傾斜自動を「ON」にし、傾斜設定ボリュームの操作により右リフトロッドの長さを調整すると容易に行えます。

③ 傾斜自動ランプ

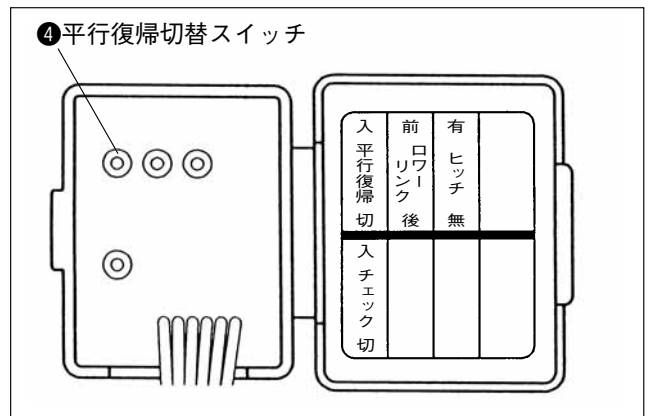
傾斜自動「入」で点灯し、傾斜自動状態を示します。



④ 平行復帰切替スイッチ

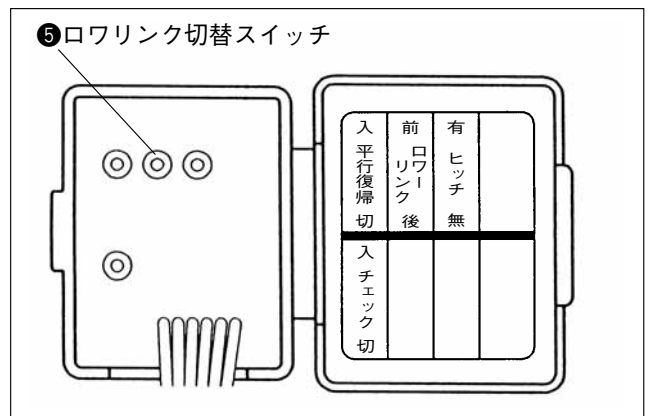
作業機を「最上げ」にすると自動的にトラクタと平行になる機能があります。(平行復帰機能)

- (1) 傾斜自動が「入」(傾斜自動ランプ点灯)の時は平行復帰切替スイッチに関係なく作業機を「最上げ」にすると、自動的に本機と平行になります。
- (2) 傾斜自動が「切」(傾斜自動ランプ消灯)の時は平行復帰切替スイッチにより平行復帰機能を「《入》 ↔ 《切》」できます。



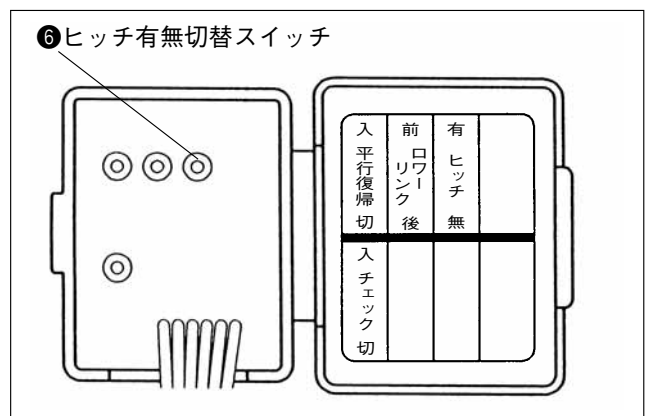
⑤ ロウリンク切替スイッチ

3点リンクのロウリンク取付け位置《前》,《後》に応じて切替えます。



⑥ ヒッチ有無切替スイッチ

スーパーヒッチの装着《有》,《無》に応じて切替えます。



⑦ チェック入切スイッチ

「お買いあげ先」でマイコンの点検をする時に《入》にしますが、通常は《切》にしてください。

手入れのしかた

・工場から出荷の時は正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

警告 ヤケド、火災、傷害事故防止のために

- ◆掃除・点検・調整・整備する時は、トラクタを平坦な広い場所に置き、駐車ブレーキをかけ、作業機を降ろし、エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆エンジンまわりの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
- ◆作業機を上げて、掃除・点検・調整・整備する時は、作業機降下速度調節グリップを《固定》にし、作業機が降りないことを確認し、作業機の下に固定脚を置いてください。
- ◆取外したカバーは、全て取付けてからエンジンを始動してください。
- ◆定期点検整備表に記載されていない部所の点検・整備は「お買いあげ先」へ申しつけてください。
- ◆エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却する時は、廃却設備のある所で廃却処理してください。
- ◆部品（バッテリー等）または機械を廃却する時は「お買いあげ先」にご相談ください。

1. 定期点検整備表

- ・正常な機能を発揮し、いつも安全な状態であるように「定期点検整備表」を参考に点検・整備をします。
- ・「定期点検整備表」は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度、調整をします。
- ・表示記号の説明
 - ……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
 - ◎……指定時間ごとに点検し、調整・補給・掃除などの処置をします。
 - ……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					備考	参照ページ
			運転前	50時間	100時間	200時間	300時間		
エンジン関係	燃料タンク	点検・補給・タンクの掃除	○				◎	軽油JIS 2号又は3号・特3号30ℓ	51
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換		◎		●		エレメント	52
	燃料ホースの劣化と洩れ	点検・交換	○			●		2年ごとに交換	65
	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	●（初回のみ）	●			マルチSTOUオイル又は、ディーゼルオイルCD級以上4.2ℓ	50
	エンジンオイルフィルタ	交換		●（初回のみ）	●			フィルタ	51
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・掃除・交換	○					清水、不凍液6.0ℓ、1年ごとに交換（ロングライフクーラント）	53, 54
	ラジエータスクリーン	点検・掃除		◎				ゴミの多いところでは作業前	60
	エアクリーナエレメント	点検・掃除		◎				〃	60
ファンベルト	点検・調整		◎				ベルト中央部押し 10～13mm	61	
電装関係	バッテリー液	点検・補給	○						66～69
	電気配線（配線、接続部のゆるみ、損傷）	点検・修正	○					損傷の場合交換	65
	計器類	点検	○						7, 8
本機関係	油圧オイルフィルタ	交換			●（初回のみ）		●		57
	HSTオイルフィルタ	交換			●（初回のみ）		●		57
	ミッションオイル	点検・補給・交換		◎	●（初回のみ）	●		純正油又は、APIGL-4級以上 SAE80W（湿式ブレーキ用）22ℓ [MTM型]は24ℓ	55
	フロントアクスルオイル	点検・補給・交換		◎	●（初回のみ）	●		純正油又は、APIGL-4級以上 SAE80W 4.0ℓ	58
	タイロッド（左・右）、ロッドエンド	点検・補給		◎				グリス適量	59
	ブレーキリンク	点検・補給		◎				〃	59
	デフロックペダル	点検・補給		◎				〃	59
	クラッチペダル	点検・調整	○					遊び 20～30mm	61
	ブレーキペダル	点検・調整	○					遊び 35～45mm	63
	各レバー類の作動	点検	○						11～15
	ボルト、ナットのゆるみ	点検	○						—
	タイヤ空気圧	点検	○					前輪 150kPa [1.5kgf/cm ²]、後輪 100kPa [1.0kgf/cm ²]、250型は120kPa [1.2kgf/cm ²]	64
	トーイン	点検・調整				◎		0～5mm	62
	パワーステシリンダ油圧ホース	点検・交換						2年ごとに交換	65
ハンドル	点検	○					遊び 20～50mm	64	

2. 給油・給脂・給水のしかた

1. 給油・給脂・給水個所

- ・工場から出荷の時は、各給油・給脂・給水個所ともオイル・グリス・冷却水は入っていますが、使用前に点検します。

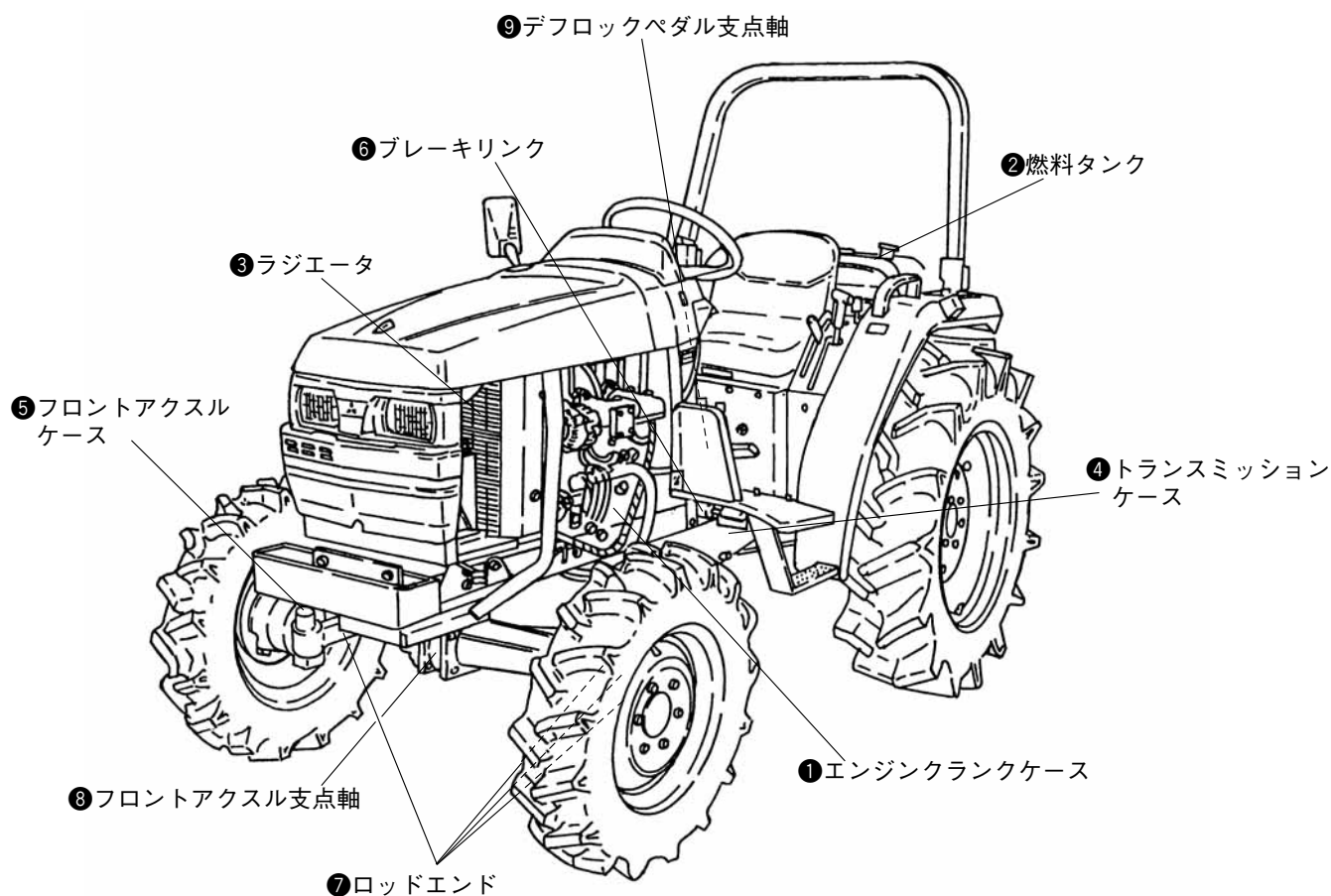
警告 ヤケド，傷害事故防止のために

- ◆エンジン停止直後のエンジンオイル交換はエンジンやオイルが熱くヤケドをする恐れがありますので冷えてから行なってください。
- ◆エンジンオイル等の油脂類及び不凍液を交換して廃却する時は、廃却設備のある所で廃却処理してください。

取扱いのポイント

- 各給油個所には、指定オイルを規定量給油してください。

イラストは [MTR型] を示す



2. 給油・給脂・給水表

No	個 所	種 類	分 類		容 量 (ℓ)	交 換 時 間	参 照 ペ ー ジ
			APIサー ビス分類	SAE 粘度番号			
①	エ ン ジ ン ク ラ ン ク ケ ー ス	エ ン ジ ン オ イ ル	CD級以上	10W-30	4.2	作業前点検・100時間ごと 交換(初回点検時50時間で交換)	50
②	燃 料 タ ン ク	軽 油	-	-	30	作業前点検(必要量補給)	51
③	ラ ジ エ ー タ	冷 却 水 (不凍液40~45%含む)	-	-	6.0	〃 (〃)	53~54
④	ト ラ ン ス ミ ッ シ ョ ン ケ ー ス	ギ ヤ オ イ ル (マルチSTOUオイル)	GL-4	80W (10W-30)	[MTR型] 22.0 [MTM型] 24.0	初回100時間, 後は200時間 ごと交換	55
⑤	フ ロ ン ト ア ク ス ル ケ ー ス	ギ ヤ オ イ ル (マルチSTOUオイル)	GL-4	80W (10W-30)	4.0	〃	58
⑥	ブ レ ー キ リ ン ク (左・右)	グ リ ス	-	-	適量	作業前点検・50時間ごと給 脂	59
⑦	ロ ッ ド エ ン ド …4個所	〃	-	-	〃	〃	59
⑧	フ ロ ン ト ア ク ス ル 支 点 軸	〃	-	-	〃	〃	59
⑨	デ フ ロ ッ ク ペ ダ ル 支 点 軸	〃	-	-	〃	〃	59

- エンジンオイル……マルチSTOUオイルまたはディーゼルエンジンオイルAPI分類CD級以上, SAE・10W-30
- 燃 料……ディーゼル軽油 JIS 2号 (-10℃まで)
JIS 3号 (-10℃から-20℃まで)
JIS特3号 (-20℃以下)
- ギ ヤ オ イ ル……純正油またはAPI分類GL-4級以上, SAE・80W

※使用オイルの詳細は「潤滑油について」(87~88ページ)を参照して使用します。

取扱いのポイント

- エンジンオイル, トランスミッションオイル, ギヤオイルは, 三菱マルチSTOU^{ス ト ー}オイルの使用を推奨します。

3. エンジンオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジンオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前に調べてください。
- オイル交換は、オイルが冷えてから行なってください。
- エンジンオイルは推奨オイルをご使用ください。
- オイルの粘度は、外気温によって下表のように使い分けてください。

気温(℃)	-20	-10	0	10	20
エンジンオイル	SAE10W-30		SAE20		SAE30
燃料(軽油)	JIS特3号	JIS3号	JIS2号		

① エンジンオイルの点検

オイルレベルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから拔出し、オイルレベルゲージの《F》(上限)と《A》(下限)の間(規定量)にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりオイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)まで入れます。さらに、油もれのないことも調べます。

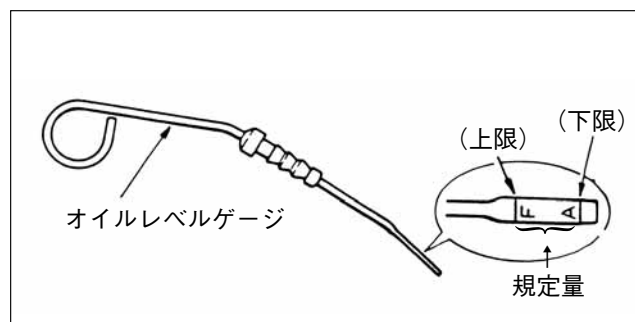
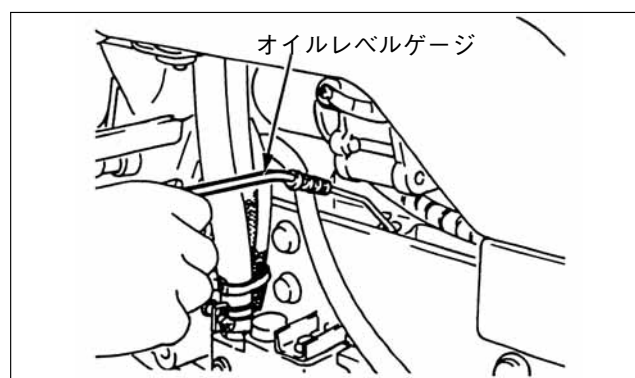
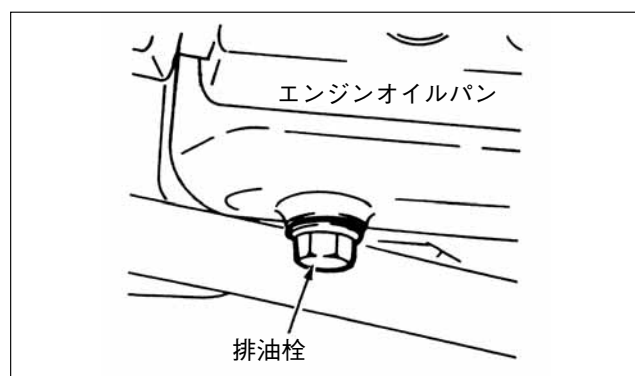
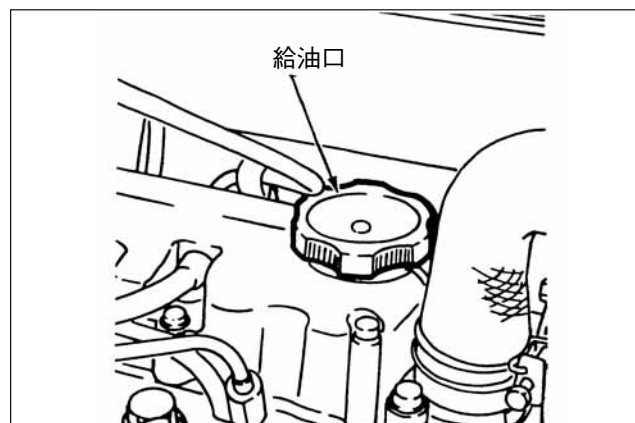
② エンジンオイルの交換

エンジンオイルの交換は、初回は50時間運転後に、第2回目からは100時間運転ごとに行います。

(1) オイルレベルゲージとエンジンオイルパンの排油栓を外し、オイルを抜きます。

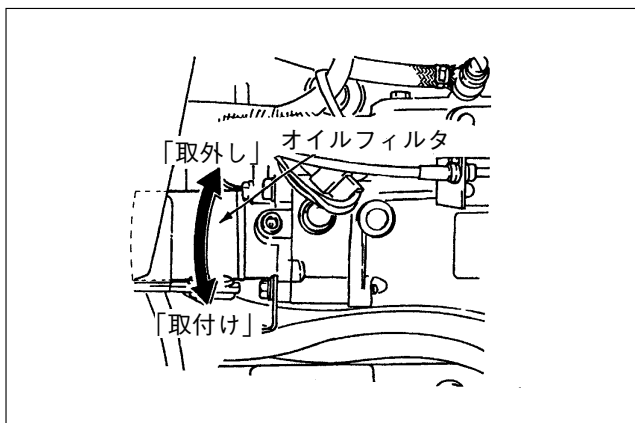
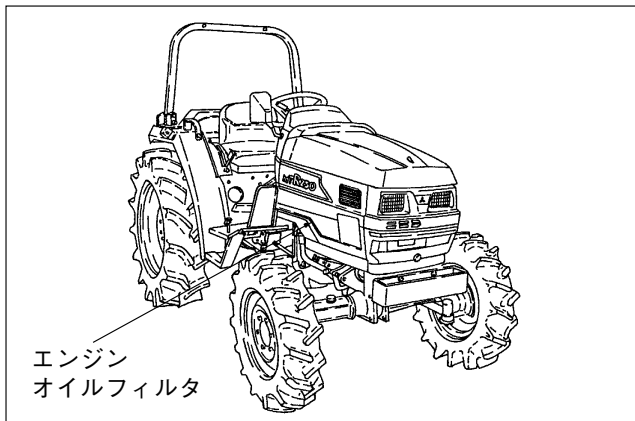
(2) 排油栓を締め新しいエンジンオイルを、オイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)まで給油します。

- オイル……マルチSTOUオイルまたはディーゼルエンジンオイルAPI分類CD級以上
- オイル量……4.2ℓ



4. エンジンオイルフィルタの交換

- ① エンジンオイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですので、お買いあげのうえ交換します。
(78ページ参照)
 - ・第1回目……50時間運転後に交換
 - ・第2回目より…100時間運転ごとに交換
- ② エンジンオイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合は専用工具（市販品）を使用して、外します。
- ③ エンジンオイルフィルタを交換した時は、オイルフィルタの容量分オイルが多く入るのでオイルレベルゲージでオイル量を確認し、不足のときはオイルレベルゲージの刻み線《F》（上限）まで補給します。



取扱いのポイント

- エンジンオイルフィルタを取付ける時は、パッキン面にオイルを塗り、エンジンオイルフィルタを手で締め、パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

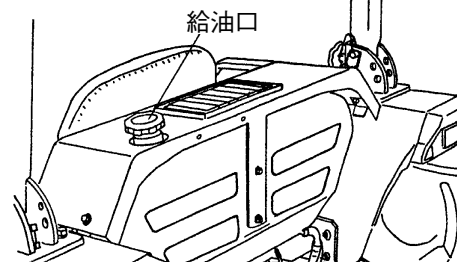
5. 燃料の補給

警告 火災防止のために

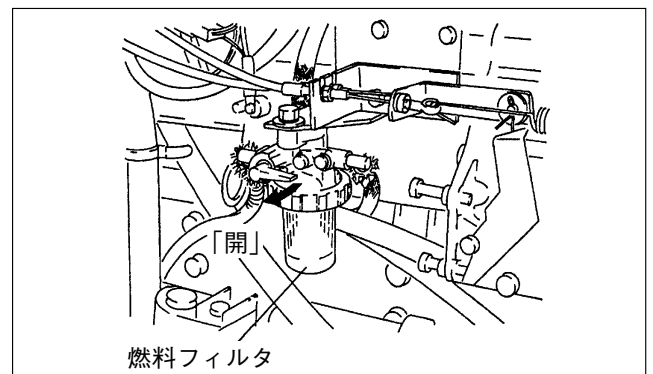
- ◆ 燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因となります。
- ◆ こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- ◆ 燃料ホース及び継ぎ部より燃料もれがないか点検をします。もれている場合は交換してください。

- ① 燃料タンクの残量を確認し、「こし網をとおして」燃料（ディーゼル軽油JIS 2号または3号・特3号軽油）を補給します。

- ・燃料……ディーゼル軽油
- ・タンク容量……30ℓ



- ② 燃料フィルタのコックを「開」にします。



取扱いのポイント

- 軽油は、気温に合わせて、JIS 2号、3号、特3号軽油を使用してください。
 - −10℃までは2号
 - −10℃～−20℃までは3号
 - −20℃以下は特3号

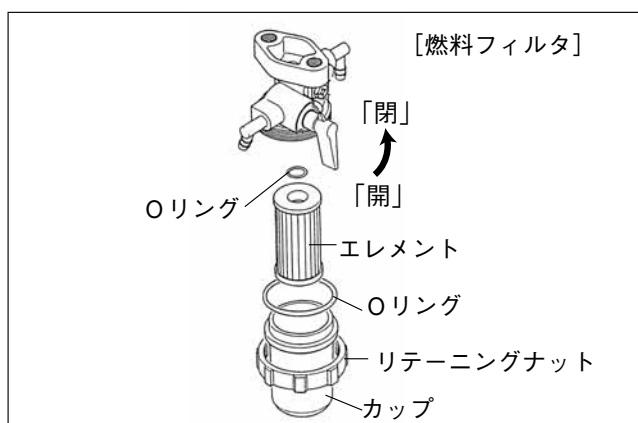
6. 燃料フィルタの掃除と交換

① 交換

50時間ごとに掃除し、200時間ごとにエレメントをお買いあげのうえ、交換します。(84ページ参照)

② 掃除

- (1) コックを「閉」にしてリテーニングナットを外します。
- (2) カップを取外し、きれいな軽油で洗浄します。
- (3) エレメントを取外し、きれいな軽油で洗浄または交換します。
- (4) Oリングの位置に注意しながらエレメントとカップを取付け、リテーニングナットを締付けます。
- (5) **7. エア抜き要領** に従ってエア抜きをします。



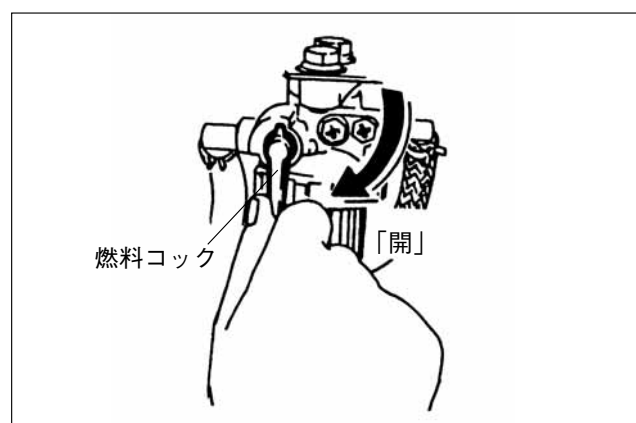
7. エア抜き要領

燃料ライン内の空気は、排除しなければなりません。

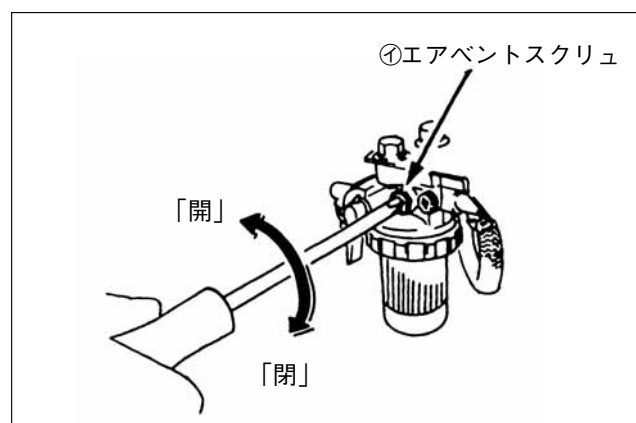
① 次のような場合、燃料ライン内に空気が混入します。

- (1) 燃料切れで、エンジンが停止した場合
- (2) 燃料フィルタの交換や、フィルタカップを掃除した場合
- (3) 噴射ポンプと燃料タンク間の接続部分を、ゆるめたり、外した場合
- (4) 長期間トラクタをご使用にならなかった場合

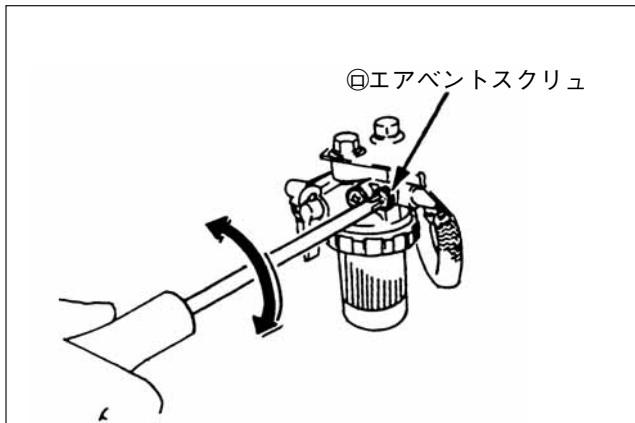
② エア抜きは、エンジンを停止させた上で、次の要領で行います。



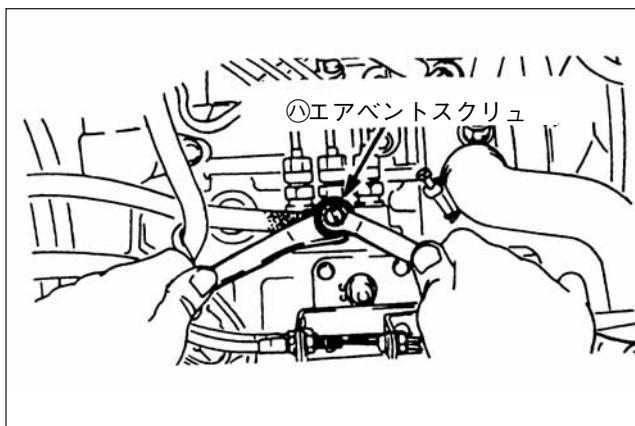
- (1) 燃料コックを開けます。



- (2) ①エアベントスクリュをゆるめ、気泡の混じらない燃料が出てきたら、①エアベントスクリュを締めます。



(3) ㊸エアベントスクリュをゆるめ、気泡の混じらない燃料が出てきたら、㊸エアベントスクリュを締めます。



(4) 噴射ポンプの㊸エアベントスクリュをゆるめ、キーを《∞入》にし、気泡の混じらない燃料が出てきたら、㊸エアベントスクリュを締めます。

取扱いのポイント

- トラクタの燃料切れが発生した際、燃料タンクに燃料を満し、エア抜きをせずにエンジン始動をすると、少量の空気混入ならエンジンを始動することができます。しかし、燃料ライン内の空気混入はエンジンに負荷をかけた際、馬力不足や、エンジン停止という症状を発生させますのでエア抜きを行なってください。

8. 冷却水の保守管理

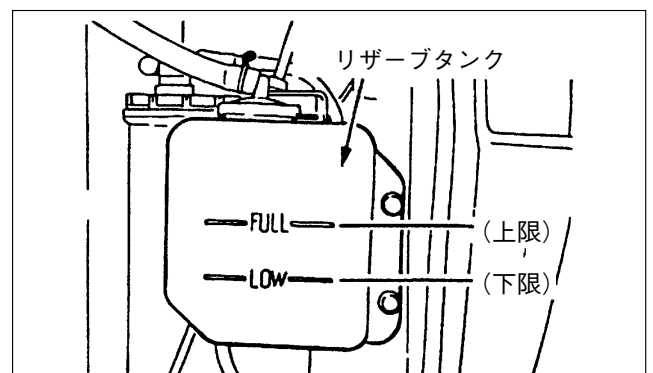
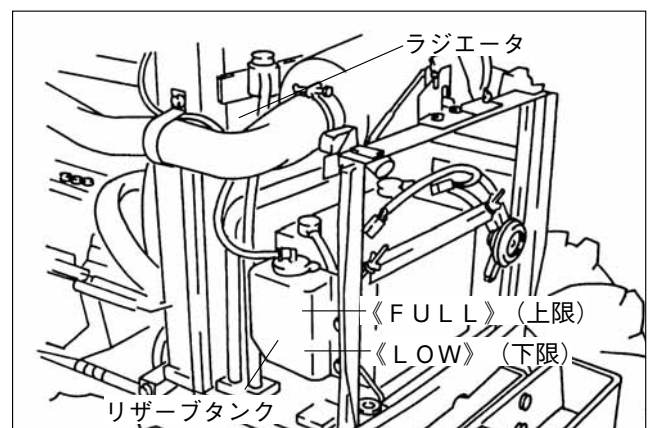
⚠警告 ヤケド防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。エンジンが冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると、エンジンの寿命に大きな影響を与えます。

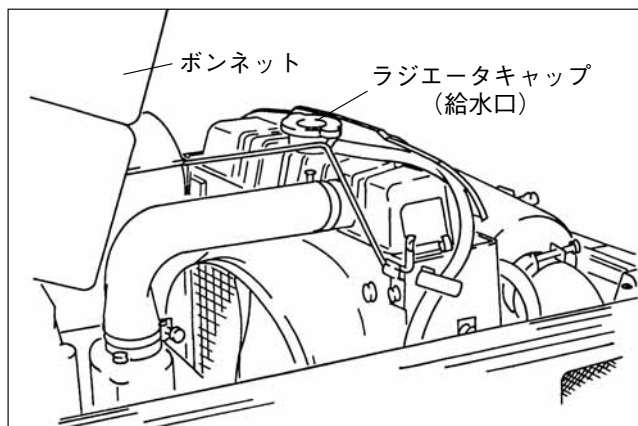
① 冷却水の点検

- (1) ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。運転前に点検を行い、冷却水が不足している時は補給します。
- (2) サイドカバー右を開いてリザーブタンク内の冷却水が《FULL》(上限)、《LOW》(下限)の間にあることを確認します。
- (3) 冷却水が不足している時はリザーブタンクより補給します。



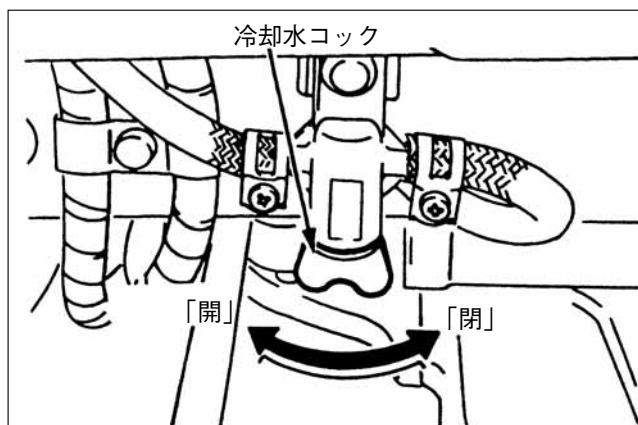
② 冷却水の交換

- (1) ボンネットを開きラジエータキャップを外します。



- (2) エンジン冷却水コックをゆるめ、冷却水を排水します。

リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。



- (3) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し、内部を洗浄します。

・洗浄剤を使用すると効果的です。

- (4) 排水が終わったら冷却水コックを閉めます。

ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を入れたのちラジエータキャップを閉めます。

- (5) リザーブタンクに《FULL》(上限)まで冷却水を入れます。

・一度エンジンをかけると冷却水が循環してラジエータ内の水量が減りますのでリザーブタンクに補給します。

・エンジンラジエータ内部の腐食を防止するため、冷却水に防錆剤を添加します。

・冷却水量……6.0ℓ

③ 不凍液の注入要領

- (1) 工場出荷の時は不凍液が注入され「外気温度 -25°C 」まで効果がありますが、納入後1年以上経過すると効力が低下しますので、冷却水を抜き「不凍液濃度基準」を参考に入替えます。

不凍液濃度基準表

外気温度	℃	-5	-10	-15	-20	-25	-30
不凍液濃度	%	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50

・不凍液は「ロングライフクーラント」を使用します。

- (2) 別容器(ポリバケツ)に不凍液を必要量(不凍液濃度基準表参照)入れます。

- (3) 清水を加えよく攪拌した後にラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

取扱いのポイント

●冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。

●冬季には冷却水が凍結し、エンジンやラジエータを破損することがあります。不凍液を混合してご使用ください。

9. ミッションオイルの点検と交換[MTR型]

警告 傷害事故防止のために

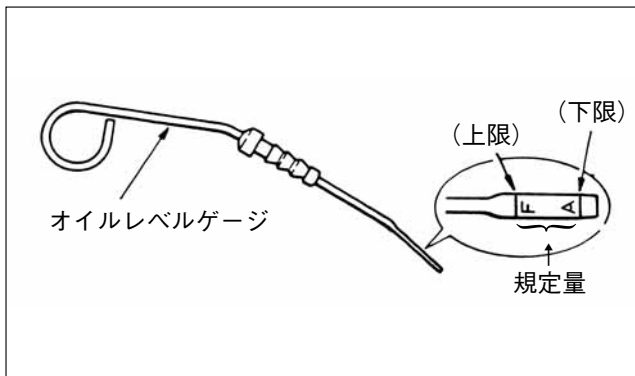
◆ミッションオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

① 点検

- (1) オイルレベルゲージを外し、オイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)から《A》(下限)の間(規定量)であれば適量です。
- (2) エンジンを始動しているときは、オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止して5分以上たってから行います。
- (3) エンジン始動前にオイルレベルを確認します。

② 補給

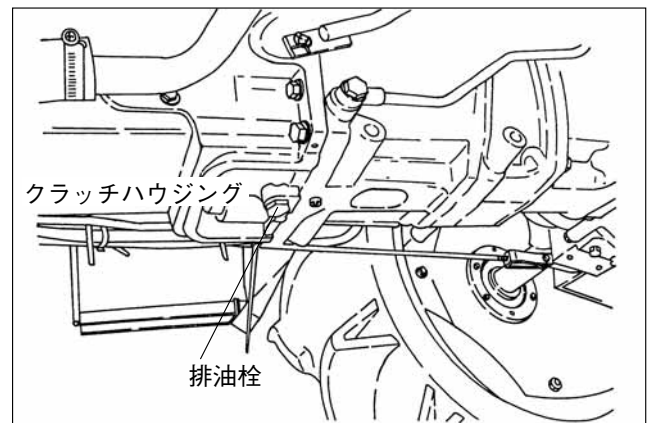
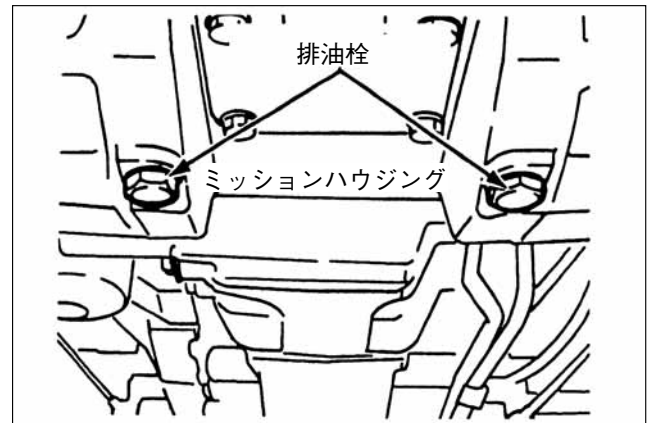
不足している場合はオイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)まで補給します。



③ オイルの交換

ミッションオイルの交換は、初回は100時間運転後に、第2回目からは200時間運転ごとに行います。

- (1) ミッションハウジング後方下部2箇所およびクラッチハウジング下部1箇所の排油栓を外しオイルを抜きます。



- (2) 排油栓を締め新しいギヤオイルをオイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)まで給油します。
 - ・ギヤオイル……純正油または、API, GL-4級以上, SAE・80W (湿式ブレーキ用)
 - ・オイル量……22ℓ

取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前に調べてください。

9-1. ミッションオイルの点検と交換 [MTM型]

⚠警告 傷害事故防止のために

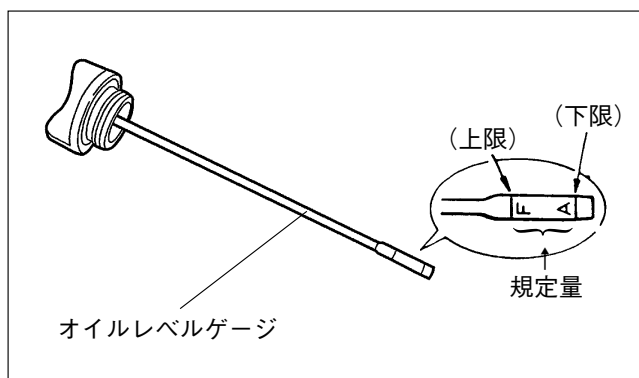
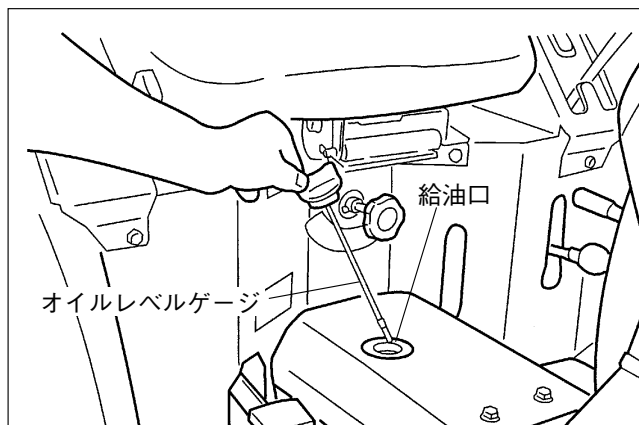
◆ミッションオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

① 点検

- (1) オイルレベルゲージを外し、オイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)から《A》(下限)の間(規定量)であれば適量です。
- (2) エンジンを始動しているときは、オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止して5分以上たってから行います。
- (3) エンジン始動前にオイルレベルを確認します。

② 補給

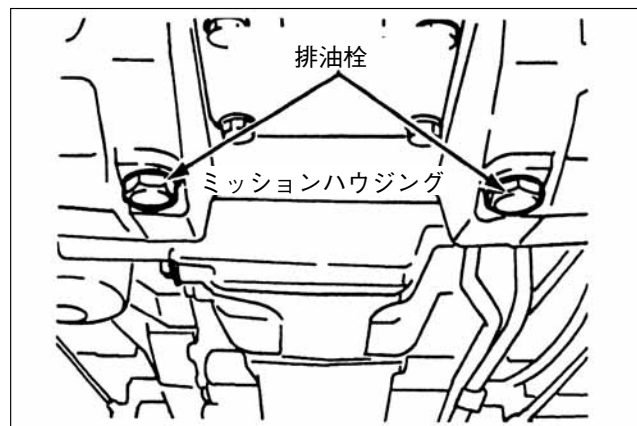
不足している場合はオイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)まで補給します。



③ オイルの交換

ミッションオイルの交換は、初回は100時間運転後に、第2回目からは200時間運転ごとに行います。

- (1) ミッションハウジング後方下部2個所の排油栓を外しオイルを抜きます。



- (2) 排油栓を締め新しいギヤオイルをオイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)まで給油します。

- ・ギヤオイル……純正油または、API, GL-4級以上, SAE・80W (湿式ブレーキ用)
- ・オイル量……24 ℓ

取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前に調べてください。

10. 油圧オイルフィルタの交換

油圧オイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですのでお買いあげのうえ交換します。(84ページ参照)

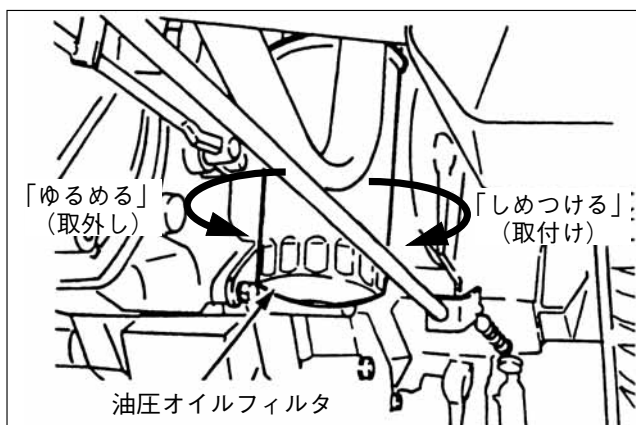
- ・初回……100時間運転後に交換します。
- ・第2回目より……300時間運転ごとに交換します。

① ステップ左下後方の油圧オイルフィルタを外すときに手でゆるまない場合には、専用工具（市販品）を使用して、外します。

取扱いのポイント

●油圧オイルフィルタのまわりに付着した土やよごれを取除いてから、作業を行なってください。土やよごれを取除かず作業を行なった場合、外した油圧オイルフィルタの取付部より土等が侵入し、油圧部を作動不能にすることがあります。

② 油圧オイルフィルタを交換した時は、オイルフィルタの容量分オイルが多く入るので、5分間運転してエンジンを停止し、5分以上たってからオイルレベルゲージで確認し不足している場合はオイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)まで補給します。



取扱いのポイント

●油圧オイルフィルタを取付ける時はパッキン面にオイルを塗り、油圧オイルフィルタを手で締め、パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

11. HSTオイルフィルタの交換[MTR型]

HSTオイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですのでお買いあげのうえ交換します。(78ページ参照)

- ・初回……100時間運転後に交換します。
- ・第2回目より……300時間運転ごとに交換します。

① シート右下のHSTオイルフィルタを外すときに手でゆるまない場合には、専用工具（市販品）を使用して、外します。

取扱いのポイント

●HSTオイルフィルタのまわりに付着した土やよごれを取除いてから、作業を行なってください。土やよごれを取除かず作業を行なった場合、外したHSTオイルフィルタの取付部より土等が侵入し、油圧部を作動不能にすることがあります。

② HSTオイルフィルタを交換した時は、オイルフィルタの容量分オイルが多く入るので、5分間運転してエンジンを停止し、5分以上たってからオイルレベルゲージで確認し不足している場合はオイルレベルゲージの刻み線《F》(上限)まで補給します。



取扱いのポイント

●HSTオイルフィルタを取付ける時はパッキン面にオイルを塗り、HSTオイルフィルタを手で締め、パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

●HSTオイルフィルタを指定交換時間で交換しなかった場合、トランスミッションを作動不能にすることがあります。

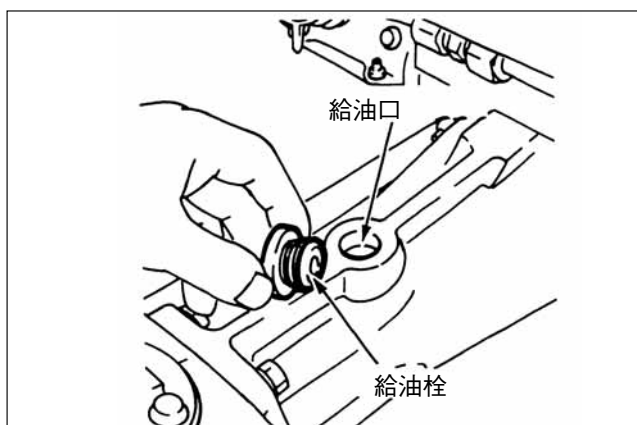
12. フロントアクスルオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆フロントアクスルオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

① 点検・補給

検油栓を外しオイルが出れば適量です。不足している場合は検油穴からオイルが出るまで給油口より補給します。



② オイルの交換

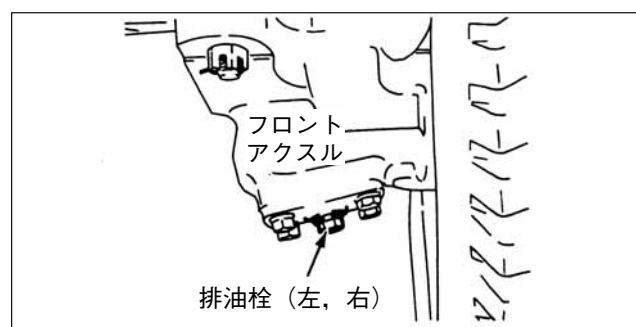
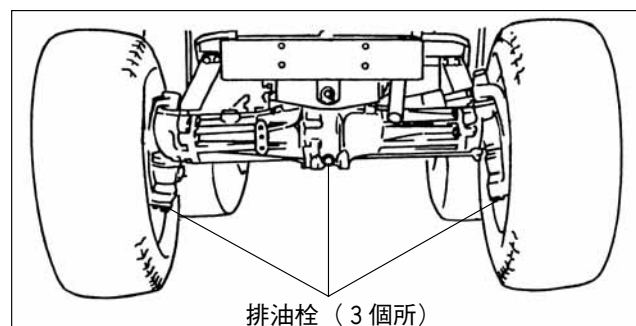
フロントアクスルオイルの交換は、初回は100時間運転後に、第2回目からは200時間運転ごとに行います。

- (1) 排油栓（3個所）を外し、オイルを抜きます。
- (2) 排油栓を締め、新しいギヤオイルを給油口（右）より規定量給油します。

・ギヤオイル……純正油またはAPI、GL-4級以上、SAE・80W

・オイル量……4.0ℓ

- (3) 左右の検油栓を取外し、オイルが出たら栓を締めます。



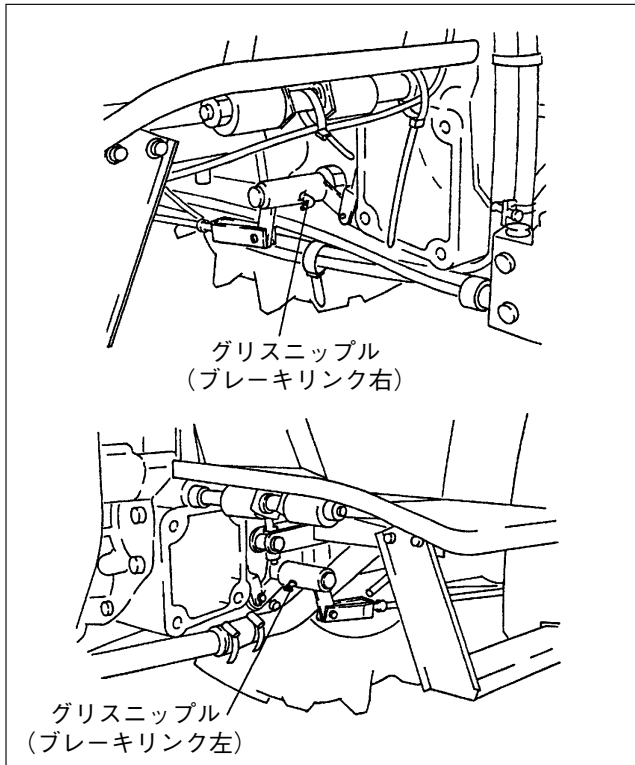
取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前に調べてください。

13. 各部の給脂

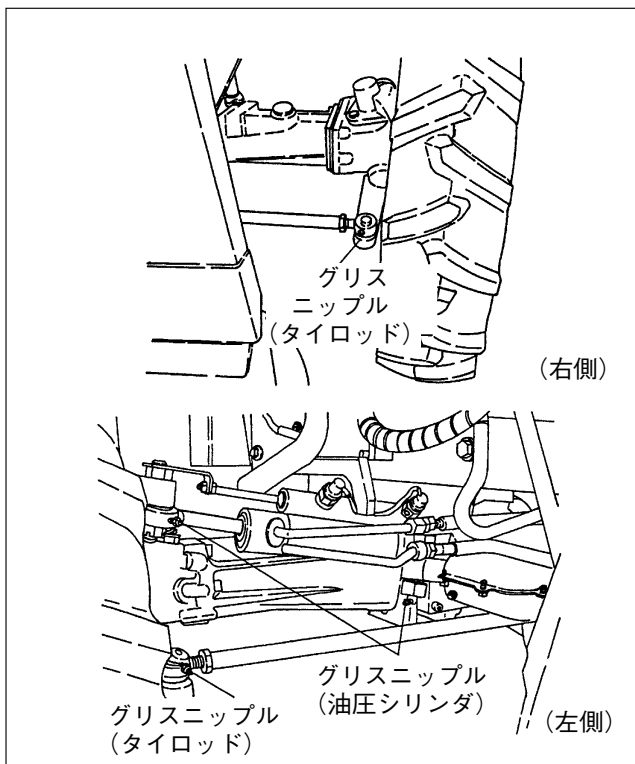
① ブレーキリンク

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。



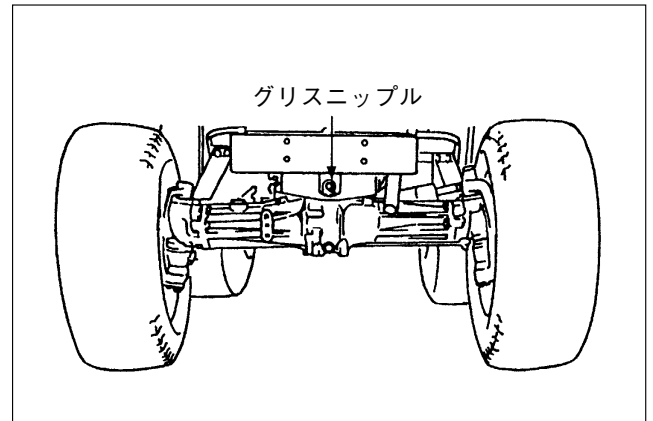
② ロッドエンド

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。
(4箇所)



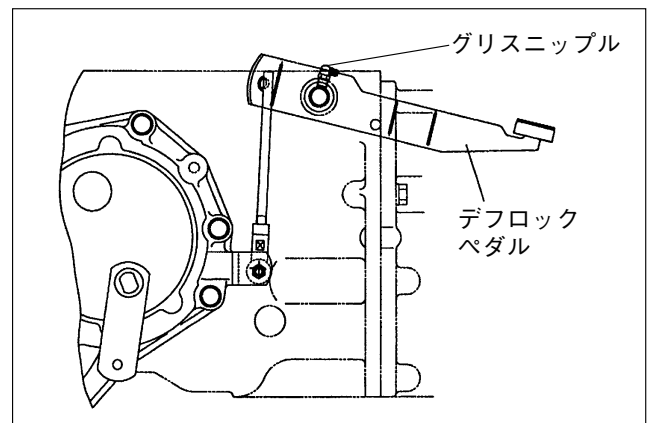
③ フロントアクスル支点軸

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。



④ デフロックペダル支点軸 [MTR型]

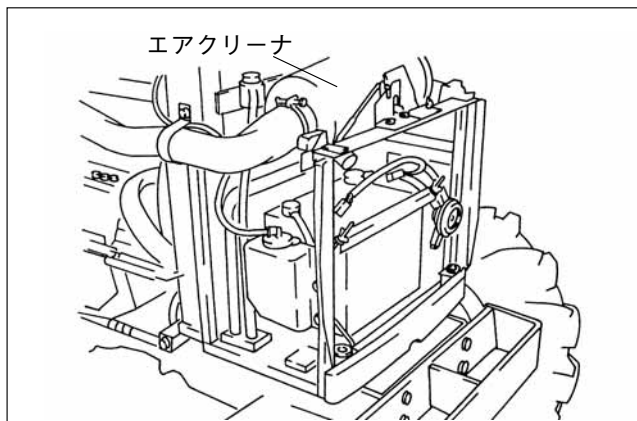
・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。



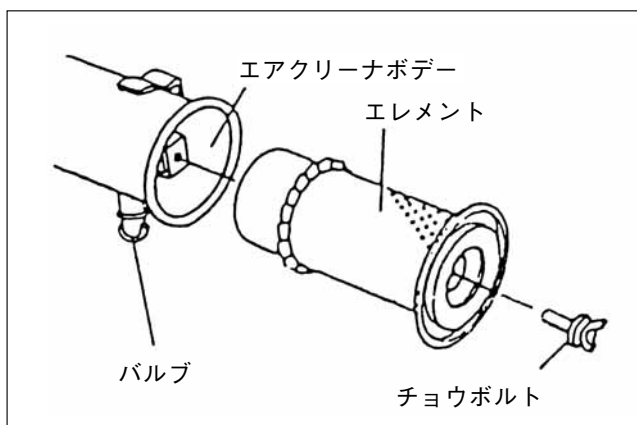
3. 各部の掃除のしかた

1. エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたまま使用すると、エンジン内部の摩耗、あるいは出力が低下します。



- ❶ チョウボルトを外し、エレメントを取出します。
- ❷ エレメント・エアクリーナボデーの内部・バルブの内部を掃除します。



取扱いのポイント

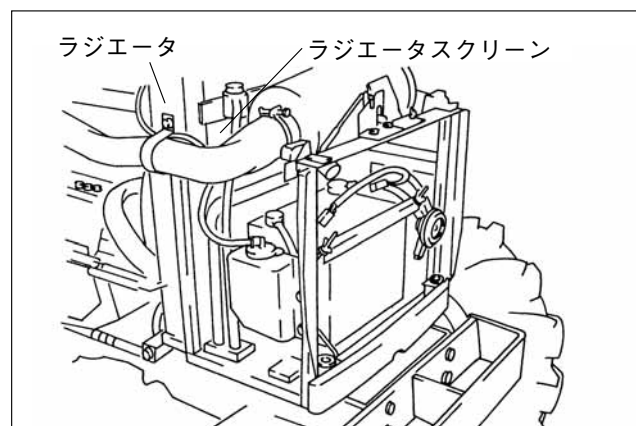
- コンプレッサで吹きつける場合は、空気圧「700kPa {7 kgf/cm²} 以下」で行なってください。

2. ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除

⚠警告 ヤケド防止のために

◆ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除をする時は、エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

- ❶ ラジエータスクリーンを上側に抜取り、手で「ゴミ・ワラ」等を取除きます。
- ❷ ラジエータの目詰まりを点検し、詰まっている場合は、まずラジエータ前面の手で取れる大きな「ゴミ・ワラ」等を取除き、エアをファン側より吹きつけ「ホコリ・ゴミ」等を取除きます。



4. 各部の点検と調整のしかた

警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き、エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

・各部は出荷の時に正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

1. ファンベルトの点検・調整

① 点検

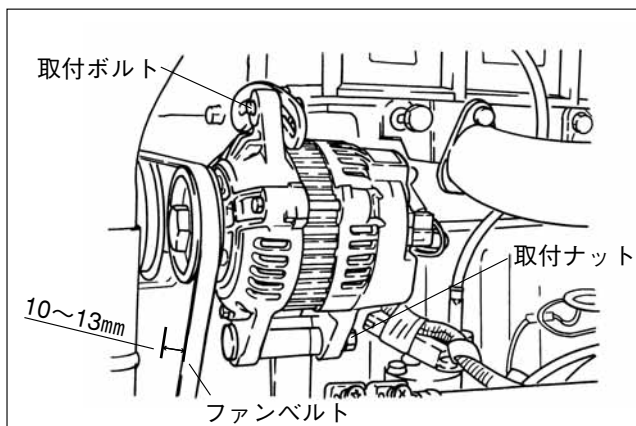
ファンベルトの長い部分の中央部（下図参照）を指で押し、たわみ量が「10～13mm」となっていますか。

② 調整

(1) オルタネータ取付ボルト，ナットをゆるめます。

- ・オルタネータを外側に倒しベルトを張ります。
- ・オルタネータを内側に倒すとベルトはゆるみます。

(2) 調整後は取付ボルトを確実に締付けます。



2. クラッチペダルの点検・調整

警告 傷害事故防止のために

◆調整後、クラッチペダルを踏込んで、クラッチが確実に切れることを確認してください。クラッチが切れないと、機械が停止せず、おもわぬ事故を引起こすことがあります。

・クラッチペダルの遊び調整

① 点検

クラッチペダルの遊び量が「20～30mm」となっていますか。

② 調整

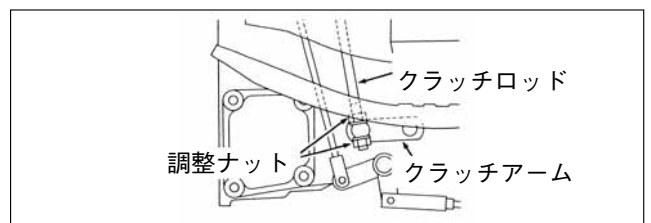
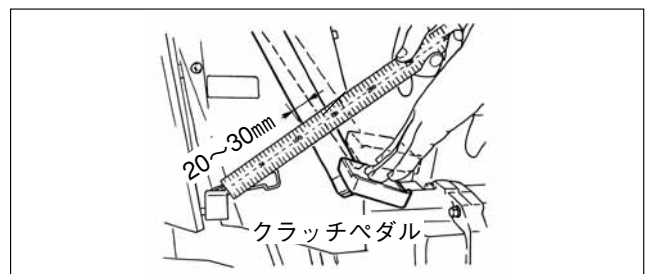
(1) 調整ナットで調整します。

ねじ込む→遊びが大きくなります。

ゆるめる→遊びが少なくなります。

(2) 調整ナットを締付けます。

締付トルク→44～54N・m {4.5～5.5kgf・m}



3. トーインの点検・調整

⚠警告 傷害事故防止のために

◆トーインの調整が悪いと走行が不安定になることがあります。

- ・トーインは車の走行安定性を左右する重要な役割を持っています。走行中にハンドルが取られやすくなった時はトーインが狂っている恐れがありますから点検調整します。
- ・トーインとは前輪を上から見て前部が後部より狭くなっていることを言います。

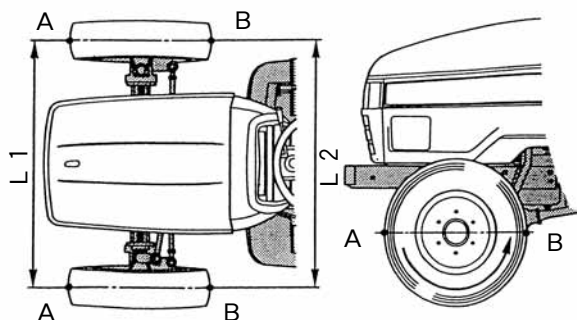
① 点検

- ・トーインがタイヤ中心で「0～5mm」になっていますか。

$$\text{トーイン} = L2 - L1 = 0 \sim 5\text{mm}$$

- ・トーインの点検は次の方法で行います。

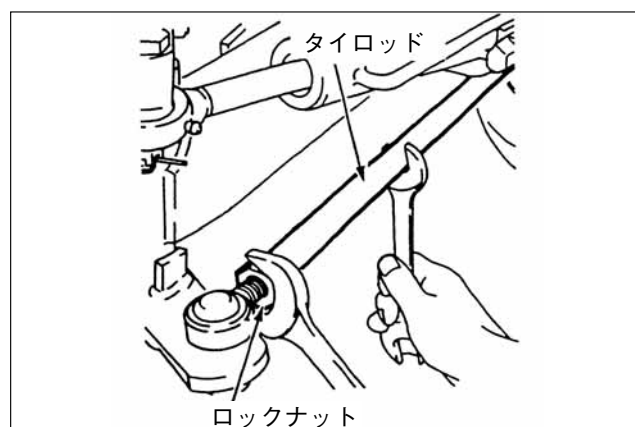
- (1) トラクタを水平な場所に置き、前輪を真っ直ぐにします。
- (2) 左右タイヤの中心線上と同一高さのタイヤの真ん中にチョークで印をつけます。(A点)
- (3) 左右タイヤのA点間の幅(L1)を測ります。
- (4) トラクタを前進させ、前輪タイヤを半回転させます。
- (5) A点が、半回転してB点となった時の左右タイヤのB点間の幅(L2)を測ります。
- (6) L2からL1を差し引いたものがトーインです。トーインが規定値であるか確認します。規定値でない場合は次の方法で調整してください。



※前輪タイヤを半回転させます。

② 調整

- (1) 両サイドのタイロッドエンドのロックナットをゆるめ、タイロッドが自由に動くようにします。
- (2) タイロッドを回して、長さを調整します。
- (3) 正規のトーインにします。
- (4) トーイン調整後、両サイドのロックナットを $59 \sim 88\text{N} \cdot \text{m}$ { $6.0 \sim 9.0\text{kgf} \cdot \text{m}$ } で締付けます。



取扱いのポイント

- 右側タイロッドエンドは左ネジです。左側タイロッドエンドは右ネジになっています。ロックナットをゆるめたり締付けたりする場合は次のことに注意してください。

- ① 右側タイロッドエンド
 ロック解除：ロックナットを右に回します。
 ロック：ロックナットを左に回します。
- ② 左側タイロッドエンド
 ロック解除：ロックナットを左に回します。
 ロック：ロックナットを右に回します。

【注記】

- ・タイロッド1回転で、トーインが約12mm変化します。

4. ブレーキペダルの点検・調整

警告 傷害事故防止のために

◆調整時左右のブレーキペダルの踏込み量を合わせてください。
ブレーキの効きが悪かったり、片効きなどがあると転落、転倒事故の原因となります。

・ブレーキペダルの遊び調整

① 点検

左右のブレーキペダルの遊び量が各々「35～45mm」になっていますか。

② 調整

(1) ロックナットをゆるめます。

(2) ロッドを回して調整します。

ねじ込む…遊びが少なくなります。

ねじ戻す…遊びが多くなります。

(3) ロックナットを締付けます。

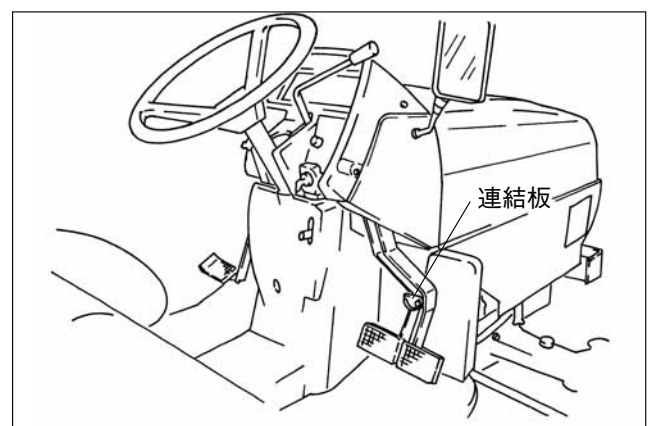
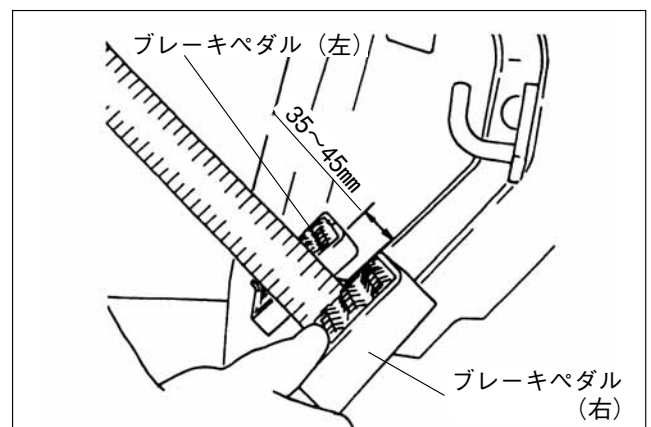
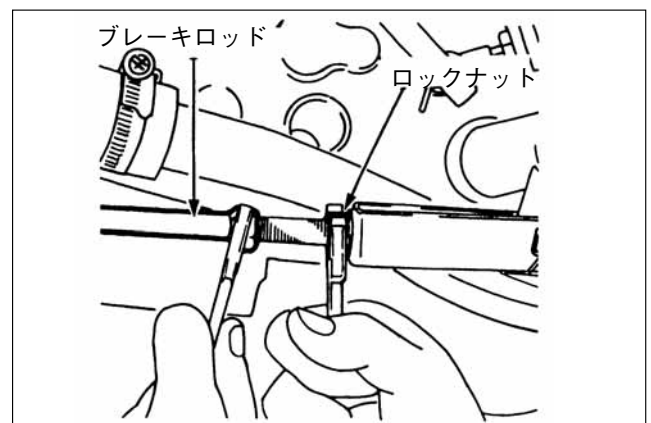
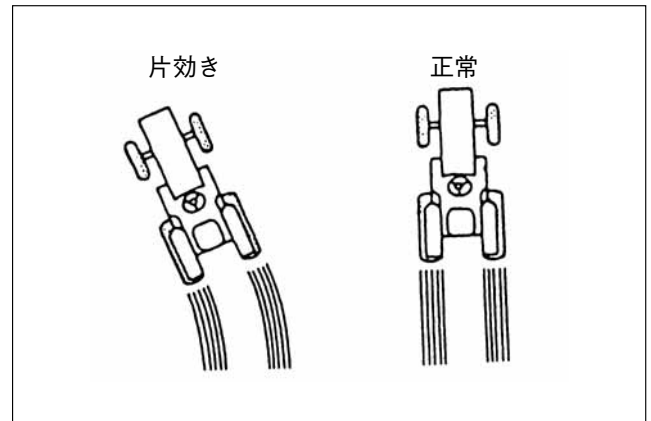
締付トルク…20～29N・m {2.0～3.0kgf・m}

③ 確認

左右ともに正規の寸法が出たら次の要領で確認します。

(1) 効き…片輪制動その場旋回をしてみてブレーキの効きを確かめます。(左右)

(2) 片効き…左右ブレーキペダルを連結板で連結し、普通走行で走り、両方のブレーキペダルを一緒に踏んで、タイヤスリップ跡により片効きの有為を確かめます。トラクタが真っ直ぐ止まれば正常ですが、曲がって止まる場合は再調整します。



5. タイヤの点検

⚠警告 死傷事故防止のために

- ◆タイヤの空気は入れすぎないでください。
空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と、
タイヤが破裂し、死傷事故につながるこ
とがあります。
- ◆タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に
達している場合は、タイヤが破裂するおそ
れがありますので、使用しないでください。
- ◆タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は
「お買いあげ先」に相談してください。

① 点検

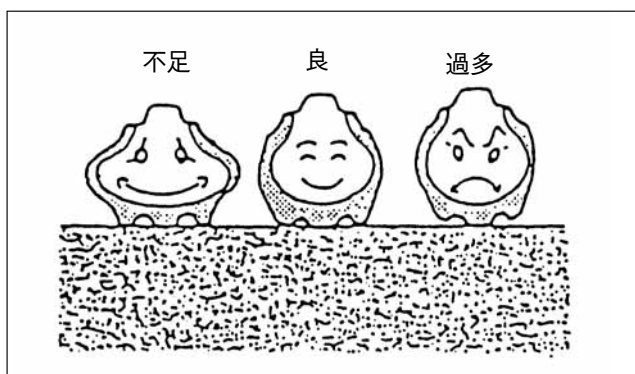
- (1) タイヤにキレツ等損傷がないか点検します。
パンク等損傷のひどい場合は、タイヤを交換し
ます。
- (2) タイヤの空気圧を作業前に点検します。

空気圧が	前輪150kPa ……全車 {1.5kgf/cm ² }
	後輪100kPa ……250L, 270, {1.0kgf/cm ² } 270L, 300型
	〃 120kPa ……250型 {1.2kgf/cm ² }

になるようにします。（〔 〕内数値は標準空気
圧です。）

② 調整

標準空気圧になるよう調整します。



取扱いのポイント

- フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を
250kPa {2.5kgf/cm²} にしてください。

6. ハンドルの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆ハンドルに著しいガタや遊びがないか作業
前に点検してください。著しいガタや遊び
があると思わぬ事故になることがあります。

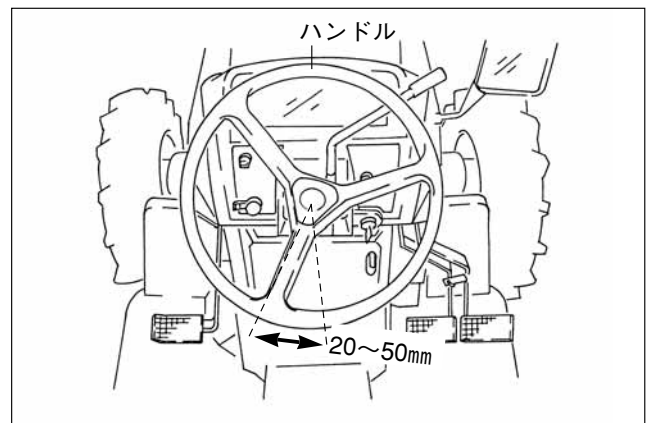
① 点検

ハンドルの遊び量が適正でないと、ハンドルが
重くなったり直進性が悪くなります。遊び量を点
検します。

エンジンを始動させハンドルを軽く左右に動か
して遊び量がハンドルの外側で20~50mmであれば
適正です。

② 遊び量が適正值でない場合

遊び量が適正でない場合はただちに「お買いあ
げ先」で点検を受けてください。



7. ホース類の点検

⚠警告 ヤケド、火災、傷害事故防止のために

- ◆燃料ホースの損傷（割れ、破れ、継ぎ部のゆるみ）、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれていないか確認し、もれている場合は、火災の原因となりますので交換してください。
- ◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると、熱湯が吹き出します。
- ◆パワーステアリングホースの継ぎ部のゆるみや、油もれがないか点検してください。油がもれるとパワーステアリングがきかなくなり事故を引起す原因になります。

① 点検

- (1) 燃料ホース、ラジエータホース、パワーステアリングホースなど老化や傷による燃料もれ水もれ油もれがないか、また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

取扱いのポイント

- 燃料ホース、パワーステアリングホースは定期交換部品ですので2年ごとに交換してください。
 - 燃料ホースを交換したときは、エア抜きをしてください。(52～53ページ参照)
- ② パワーステアリングホースを交換したら
- (1) パワーステアリングホースを交換した時は、左右一杯にハンドルを切って、油圧回路中のエア抜きをしてください。

8. 電気配線の点検と掃除

⚠警告 火災防止のために

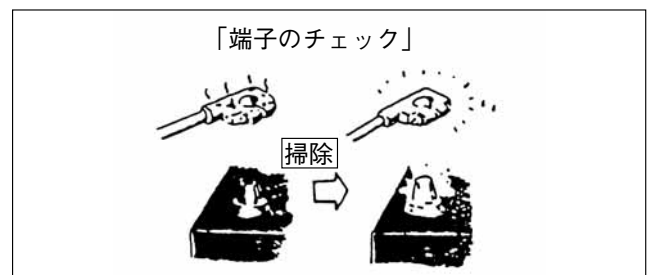
- ◆電気配線の点検時には、キーを《**STOP**切》にし、バッテリーコードのアース側⊖端子を外してください。
- ◆ワイヤハーネスおよびバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。
- ◆エンジン、バッテリー、電気配線まわりのワラクス等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

① 電気配線の点検

- (1) 配線の端子部の「ゆるみ」や「接続不良」または配線が「損傷」していると電気部品の性能を損なうだけでなく、「ショート（短絡）」等を行うことがあります。
- (2) 傷んだ配線は、交換、修理します。

② 電気配線の掃除

- (1) エンジン、バッテリー、電気配線部にたまっている「ワラヤゴミ」などは「火災」の原因になりますので取除きます。
- (2) バッテリー端子にバッテリー液がかかると、端子が「腐食」することがあります。バッテリー端子が腐食すると、「接触抵抗」が大きくなり、電流が流れにくくなりますので、「定期的」に汚れや腐食をサンドペーパーやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。



取扱いのポイント

- エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。
エンジン始動不良の原因となります。

9. バッテリーの点検と充電

⚠危険 火災、傷害事故防止のために

- ◆ブースケーブルを使用する時は取扱説明書の「ブースケーブルの使いかた…」に従い手順を守って行なってください。
- ブースケーブルは100A以上の仕様のもので使用する。
- ブースケーブルは接続前にエンジンを停止する。
- ◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。
- ◆バッテリーは、充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し、「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり、「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。
- ◆充電する時は機械からバッテリーを外してください。
- ◆バッテリーを「着脱」する時は、エンジンを停止し、キーを抜取ってください。
- ◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。
- ◆バッテリーを充電する時は、液口栓をすべて取外してください。
- ◆バッテリー液は、希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。
- ◆バッテリー液で失明やヤケドをすることがあります。
- ◆充電のとき「バッテリー液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り、衣服や皮膚に付着しないようにしてください。
- ◆バッテリー液が目、皮膚、被服、物についた時はすぐに多量の水で洗い、飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。

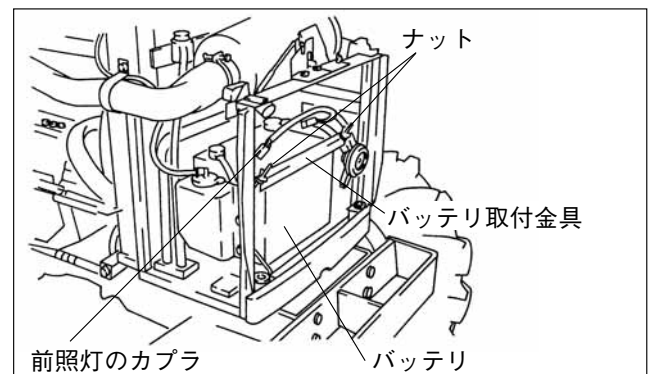
◆バッテリー液が皮膚に付着したり目に入ったときは、直ちに水洗いをし、医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし、弱アルカリ性石けんで硫酸分を洗い流してください。

① 点検

- (1) ボンネットを開き、チョウボルトを外し、フロントグリルの上側を少し前に倒します。
- (2) 前照灯のカプラを2箇所外します。
- (3) フロントグリルを上方に引上げて取外します。
- (4) ナット2個を緩めて、バッテリー取付金具を取外し、バッテリーの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリー……55D23R



② バッテリー取付金具の点検

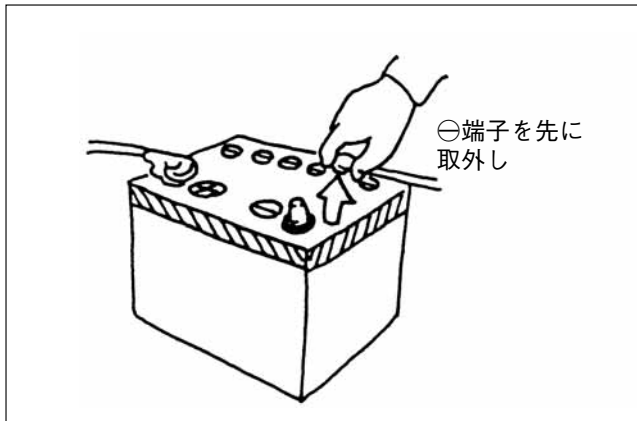
- (1) バッテリーの取付けがゆるいと上下左右に動き、電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。
- (2) 取付金具でしっかり固定します。
- (3) 取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

③ バッテリー着脱時の注意

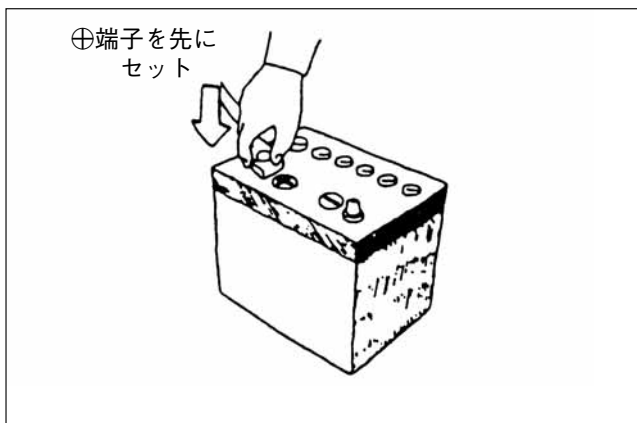
- (1) バッテリーを「着脱」したり充電器で「充電」するときは、エンジンを停止し、「キー」を抜取り、すべての制御スイッチを「切」(OFF)にします。

手入れのしかた

- (2) バッテリー端子を取外す時は「アース側⊖端子」を先に外します。

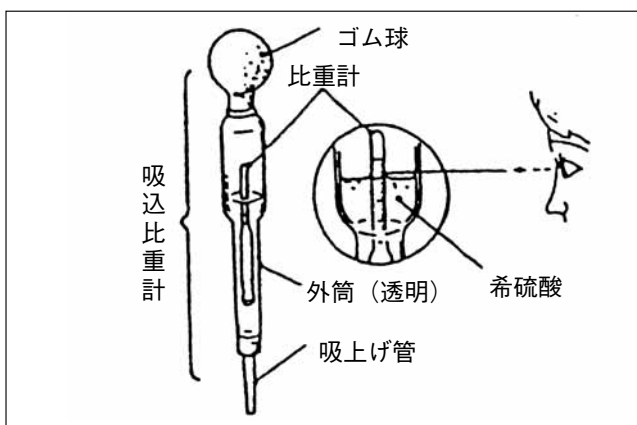


- (3) バッテリー端子をセットする時は「プラス側⊕端子」を先に取付けます。



④ 残存容量の確認

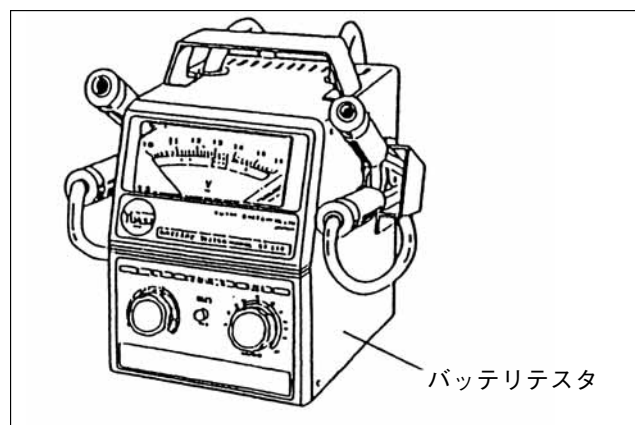
- (1) バッテリー液の「比重」を測定する方法と、「バッテリーテスタ」で測定する方法があります。
- (2) 残存容量が低下していれば、ただちに補充電をします。
- (3) バッテリー液の比重が「1.220 (20℃)」以下であれば補充電をします。



比重 (20℃)	放電電気量 (%)	残存容量 (%)
1.280	0	100
1.235	25	75
1.190	50	50
1.145	75	25
1.100	100	0

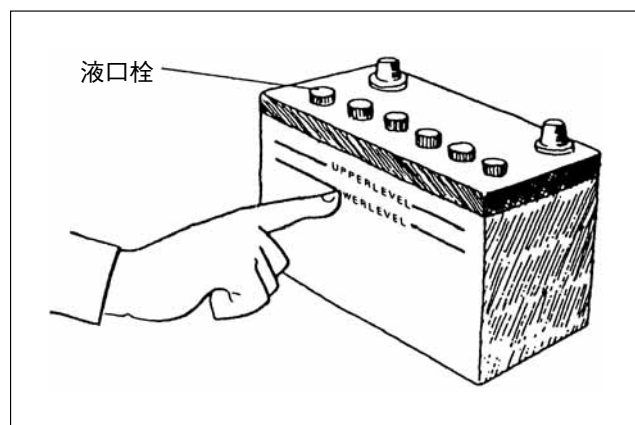
- (4) バッテリーテスタで測定し、メータの指示範囲が黄ゾーン以下であれば補充電をします。

緑ゾーン……………正常
 黄ゾーン……………やや放電
 赤ゾーン……………かなり放電



⑤ バッテリー液量の確認

- (1) 使用状態での充電電流によりバッテリー液が電気分解され、しだいに液面が低下します。バッテリー液が不足して極板が空气中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。
- (2) 減っていれば、バッテリー補充液を《UPPERLEVEL》まで注水補給します。

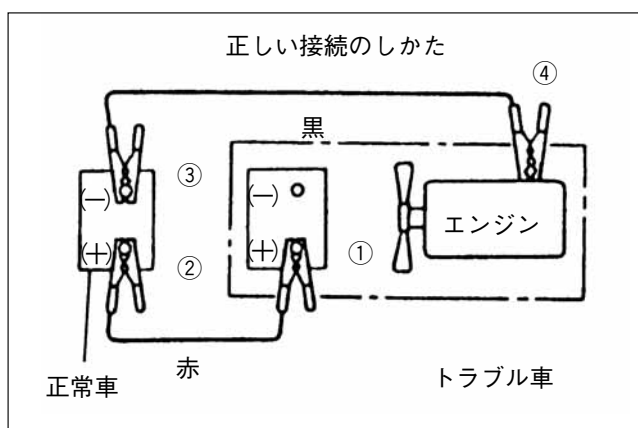


⑥ ブースターケーブルの使いかた

バッテリーが放電し、エンジンが始動できないとき、他車（12V仕様車）の良好なバッテリーを電源として始動するため、ブースターケーブルを使用します。ブースターケーブルは100A以上の仕様のものを使用します。この時は次の手順を守って行います。

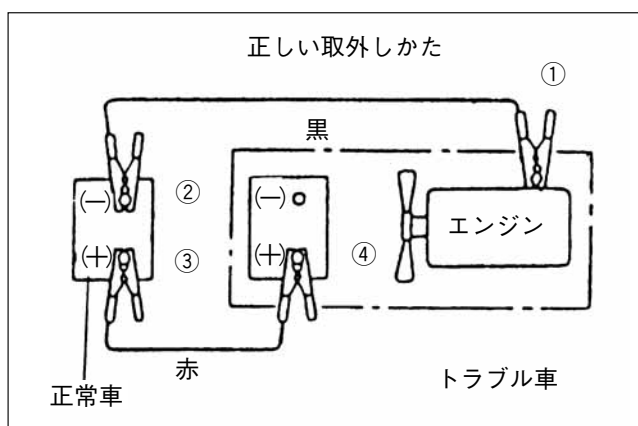
「ブースターケーブルの接続のしかた」

- (1) 正常車のエンジンを停止して、図の①～④の順序でブースターケーブルを接続します。
- (2) 放電バッテリー搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから、放電バッテリー搭載車のエンジンを始動します。



「ブースターケーブルの取外し方」

- (1) エンジン始動後のブースターケーブルの取外しは、接続の場合と逆の順序で行います。

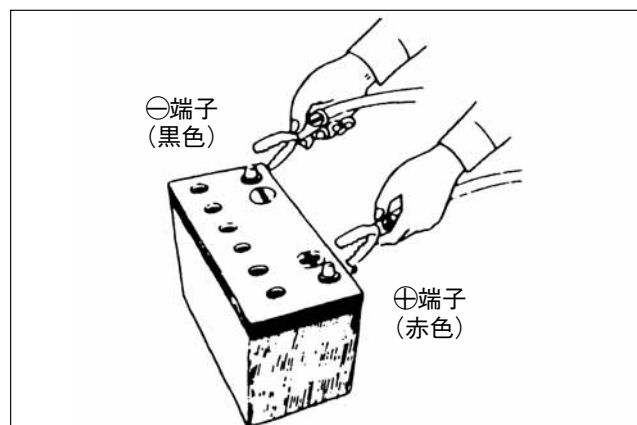


⑦ バッテリーの充電

- (1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し、「キー」を抜取ります。
- (2) 機械からバッテリーを取外します。
- (3) 充電する時は「液口栓」をすべて取外します。



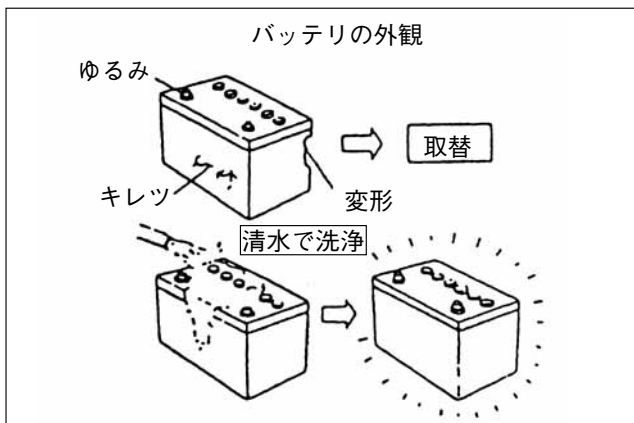
- (4) 急速充電はできるだけ避け、普通充電し液温が「45℃」を超えないようにします。
- (5) 「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。
- (6) 「火気」を近づけたり「スパーク」による電気火花が発生ないようにします。
- (7) 充電器のクリップを着脱するときは、充電器のスイッチを「切」にし、⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



- (8) 充電の時「バッテリー液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り、衣服や皮膚に付着しないようにします。

取扱いのポイント

- 各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。
- 取付けのときはバッテリー取付部の油等をふき取ってください。取付け後バッテリー端子部には、腐食防止のためグリスを塗布してください。
- バッテリー⊕端子はゴムブーツを、取付けてください。
- 厳寒時にトラクタを格納する時は、バッテリーを取外して暖かい所に保管してください。
- 亀裂や変形のあるバッテリーは新品と取替えてください。汚れていれば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。
- 化学繊維製布による拭きとりは、静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。

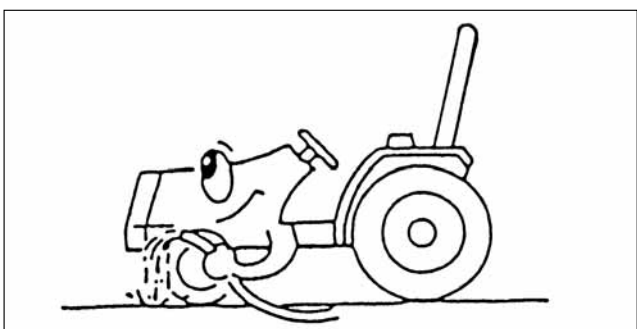


長期格納のしかた

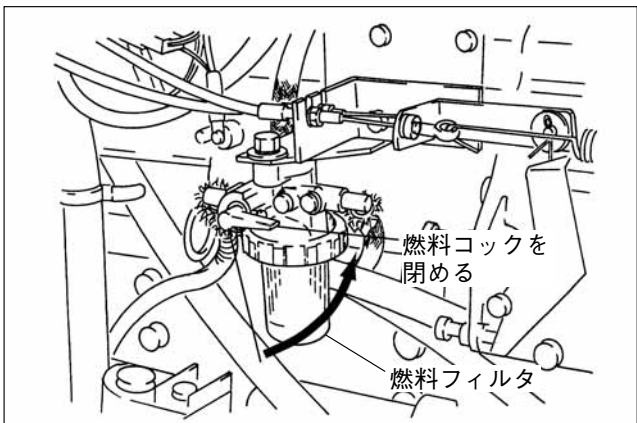
1. 機械の掃除・洗浄・格納

トラクタを保管する時は各部の汚れをよく掃除したうえで次の処置をします。

- ① 金属露出部にグリスやオイルを塗って錆止めをします。
- ② 油もれ個所、各部の油量を点検し約5分間エンジンを回してオイルを各部にゆきわたらせます。
- ③ 不凍液の濃度を調整します。



- ④ 燃料タンクに軽油を満タンにし、燃料フィルタのコックを閉めます。

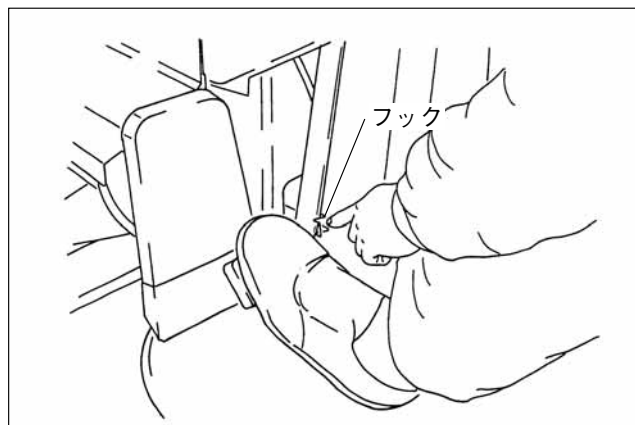


- ⑤ タイヤの老化を防止するために空気圧を高めて入れてタイヤの下に板等を敷いて直接地面に置かない。
- ⑥ 作業機（ロータリなど）を地面におろします。

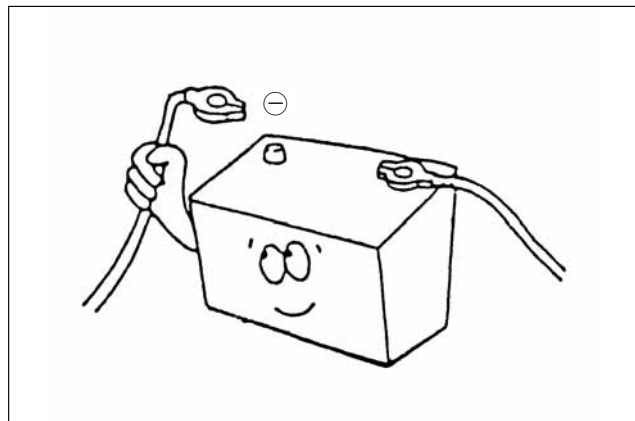
警告 火災防止のために

◆機械にシートカバーを掛ける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱い時にシートカバーを掛けると火災の原因になることがあります。

- ⑦ 保管場所は屋内とする。やむをえず屋外におく場合は風雨にさらさないようシートカバーを使用します。また停止直後の「熱い状態」ではシートカバーをかけない。
- ⑧ ウェイト類を取外します。
- ⑨ クラッチこ着防止のため、クラッチペダルを踏込み、フックをかけてクラッチ「切」の状態にします。

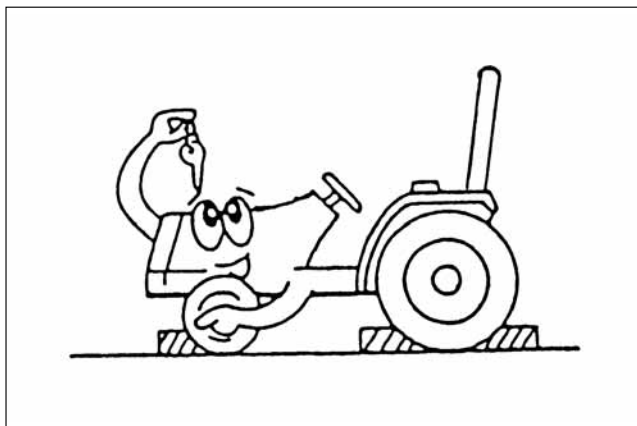


- ⑩ 保管中の不意な漏電、発火を防ぐためバッテリーをトラクタから取外し、風通しの良い屋内に保管します。またトラクタに取付けたまま保管する時はバッテリーの⊖端子（アース側）を外しておきます。



長期格納のしかた

- ① 保管中、不意にトラクタが動き出すのを防ぐため、タイヤに歯止めをし、キーを抜取っておきます。



取扱いのポイント

- 錆の発生を防止するため、塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。
- 高圧洗車機にて洗浄する場合には、メータパネルおよび電装品に直接水をかけないでください。
- エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。

2. 格納中の手入れ

- ① 1ヶ月に1度、防錆、バッテリー補充電のためエンジンを約10分間運転します。
- ② 金属露出部を点検し、防錆処置をします。
- ③ 油もれ、水もれの有無を点検し不具合のある場合は処置します。

取扱いのポイント

- エンジンを運転する前に冷却水の量、バッテリー端子の接続を確認し、燃料フィルタのコックを開きます。

3. 再使用にあたって

格納後、はじめて使用する時には各部の点検を入念に行なった後に運転します。

- ① エンジンを運転する前に冷却水の量、バッテリー端子の接続を確認し、燃料フィルタのコックを開きます。
- ② 運転前の点検を確実にを行います。

不調時の処置

- ・不調が発生したら、すぐにその原因を調べて処置をし、故障を大きくしないようにします。
- ・原因がわからない場合や、調整しても再発する時は「お買いあげ先」に相談し、点検を受けてください。
- ・その時は不調の状況とあわせて「型式」・「機械番号」をお知らせください。

警告 ヤケド、傷害事故の防止

- ◆掃除・点検・調整・整備は、機械を平坦な場所に置き、駐車ブレーキをかけ、作業機を降ろしエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆エンジンまわりを点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。

1. エンジン部

1. 始動しない、または始動困難

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①スタータスイッチを回しても、スタータが回らない	○クラッチペダルの踏込み不足	・ペダルをいっぱい踏込みます	13
	○主変速レバーが《始動位置N》になっていない [MTR型]	・主変速レバーを《始動位置N》側に操作しそのまま保持します [MTR型]	11
	○バッテリーの放電	・バッテリーを充電又は交換します	66~69
	○バッテリー端子の外れ、ゆるみ、腐食 ○ヒューズブルリンク①の溶断	・端子部を掃除して確実に締付け、グリスを塗布し防錆しておく ・配線をチェックしヒューズブルリンクを交換する	20~21
②スタータは回るが、エンジンがかからない	○燃料タンクに燃料がない。	・補給する	51
	○燃料フィルタのコックが開いていない	・開く	51
	○燃料フィルタ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	52
	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	52~53
	○ヒューズブルリンク②の溶断	・配線をチェックしヒューズブルリンクを交換する	20~21
○ヒューズAの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	20~21	

2. エンジン出力不足およびエンジン自然停止

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①エンジン回転が不規則	<ul style="list-style-type: none"> ○燃料系統にエア混入 ○燃料フィルタの水・ゴミ詰まり ○パイプ系の燃料もれ 	<ul style="list-style-type: none"> ・エア抜きを行う ・フィルタの掃除または交換をする ・クランプの締付け、パイプ交換をする 	<p>52~53</p> <p>52</p> <p>65</p>
②エンジンが過回転する	<ul style="list-style-type: none"> ○ガバナにゴミ等が詰まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス工場での修理 	—
③運転中エンジンが突然停止した	<ul style="list-style-type: none"> ○燃料不足 ○ヒューズブルリンク[Ⓐ]の溶断 ○ヒューズAの溶断 ○ノズル不良 ○オイル不足によるエンジン焼付き 	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料補給とエア抜きを行う ・配線をチェックしヒューズブルリンクを交換する ・配線をチェックしヒューズを交換する ・サービス工場に依頼し交換をする ・サービス工場に依頼する 	<p>51~53</p> <p>20~21</p> <p>20~21</p> <p>—</p> <p>—</p>
④エンジンが過熱する	<ul style="list-style-type: none"> ○ラジエータの目詰まり ○冷却水の不足 ○ファンベルトのゆるみ、破損 ○エンジンオイル量が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジエータスクリーンを掃除する ・冷却水を補給する ・ベルトの張り調整または交換をする ・規定量まで補給する 	<p>60</p> <p>53~54</p> <p>61</p> <p>50</p>
⑤エンジンの排気色が白い (除く始動直後)	<ul style="list-style-type: none"> ○エンジンオイル量が多すぎる ○エンジン本体の不具合 	<ul style="list-style-type: none"> ・点検し適正量にする ・サービス工場での修理 	<p>50</p> <p>—</p>
⑥エンジンの排気色が黒すぎる	<ul style="list-style-type: none"> ○エアクリーナが詰まっている ○燃料が悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ・エレメントの掃除をする ・正規の燃料に入替える 	<p>60</p> <p>51</p>
⑦エンジンの出力不良	<ul style="list-style-type: none"> ○エアクリーナの詰まり ○燃料不足, 燃料フィルタの詰まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・エレメントを掃除する ・燃料系統をチェックする 	<p>60</p> <p>51, 52</p>
⑧運転中オイルランプが点灯する	<ul style="list-style-type: none"> ○エンジンオイル量が少ない ○エンジンオイルの粘度が低い ○エンジンオイルフィルタの目詰まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・規定量まで補給する ・適正粘度のオイル交換する ・エンジンオイルフィルタを交換する 	<p>50</p> <p>〃</p> <p>51</p>
⑨運転中にチャージランプが点灯する	<ul style="list-style-type: none"> ○ファンベルトのゆるみまたは破損 	<ul style="list-style-type: none"> ・張り調整またはベルト交換をする 	<p>61</p>

2. 走行・運転操作部

1. 走らない、ブレーキがきかない

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①クラッチがすべる	○ペダルの調整不良 ○クラッチライニングの摩耗・焼付き	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場でクラッチを交換する	61 —
②クラッチが切れない	○ペダルの調整不良 ○クラッチライニングのこう着	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場で修理する	61 —
③ブレーキの効きが悪いまたは片効きである	○ブレーキペダルの遊び量が大きすぎる ○ブレーキライニング摩耗・焼付き ○左右の踏込み量が異なる	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場でブレーキディスクを交換する ・踏込み量を左右同じにする	63 — 63
④ブレーキペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷 ○各摺動部のグリス切れ	・スプリングを交換する ・グリスアップをする	— 61
⑤ダイヤクイックターンが作動しない	○ヒューズ⑧の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する 故障したときはダイヤクイックターンスイッチを《切》にしてください。	20～21

2. パワーステアリング

状 況	原 因 (点検個所)	処 置	参照ページ
① ハンドル が空転する	○油量不足 (ミッションオイル) ○配管の損傷, 油もれ ○ポンプの故障	・規定量まで補給する ・増締め, 又は交換する ・サービス工場で修理する	55 — —
② ハンドル が重い ハンドル が取られる	○タイヤ空気圧の不揃い ○ロッドエンドの遊び発生 ○使用オイルの粘性大 ○トーイン不良	・左右共に規定空気圧にする ・サービス工場で交換する ・オイル交換または暖機運転を十分 に行う ・修正をする	64 — 55 62
③ 前輪のふ らつき (ハンドル の遊びが多 い)	○各締付部のゆるみ発生 ○ロッドエンドの遊び発生 ○トーイン不良 ○油圧シリンダにエア混入	・増締めをする ・サービス工場で交換する ・修正をする ・油量を点検しエア抜きをする	— — 62 55, 65
④ 油圧回路 系の異常音	○油量不足 (ミッションオイル) ○暖機運転不足 ○油圧オイルフィルタの詰まり	・規定量まで補給する ・暖機運転を十分に行う ・油圧オイルフィルタの交換 ・パイプのつぶれ等は修理	55 — 57 —

3. 油圧部

1. 油圧関係

状 況	原 因 (点検個所)	処 置	参照ページ
①油圧回路 の異常音	○油量不足 (ミッションオイル)	・規定量まで補給する	55
	○暖機運転不足	・暖機運転を十分に行う	—
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・油圧オイルフィルタの交換をする	57
	○パイプ部をぶつけて変形させた	・パイプのつぶれ等は修理する	—
②リフトアー ムが上がら ない	○油量不足 (ミッションオイル)	・規定量まで補給する	55
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・交換する	57
	○ギヤポンプの故障	・サービス工場で修理する	—
③配管に油 もれがある	○各部ジョイントのゆるみ	・増締めを行う	—
	○パイプの亀裂	・サービス工場で交換する	—
④リフトアー ムが下がり ない	○作業機降下速度調節グリップが《固 定》になっている	・《速い》の方向に操作する	23

4. 電気・自動制御部

1. 電気関係

状 況	原 因 (点検個所)	処 置	参照ページ
① グローランプが点灯しない	○ ヒューズ F の溶断	・ 配線をチェックしヒューズを交換する	20～21
② 前照灯が点灯しない	○ ヒューズ D の溶断 ○ 電球の切れ	・ 配線をチェックしヒューズを交換する ・ 電球を交換する	20～21
③ ホーンが鳴らない	○ ヒューズ D の溶断	・ 配線をチェックしヒューズを交換する	20～21
④ 方向指示灯が点滅しない	○ ヒューズ B の溶断 ○ 電球切れ	・ 配線をチェックしヒューズを交換する ・ 電球を交換する	20～21
⑤ 傾斜自動が作動しない	○ ヒューズ C の溶断	・ 配線をチェックしヒューズを交換する	20～21

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は、配線のソケット外れ、接触不良およびアース不良の点検も合わせて行ってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

付 表

1. 主要諸元

型 式	三菱MTR250	三菱MTR270	三菱MTR300		
駆 動 方 式	4 輪駆動				
機 体 寸 法	全 長 (ロ ウ リ ン ク 先 端) mm	2,930			
	全 幅 mm	1,315	1,340	1,410	
	全 高 (ハ ン ド ル 上 端) mm	1,915 (1,425)	1,945 (1,445)	1,965 (1,470)	
	最 低 地 上 高 mm	290	305	330	
機 体 質 量 (重 量) kg	全 重 量	1,100	1,130	1,185	
	前 輪 / 後 輪	438 / 662	471 / 659	501 / 684	
エ ン ジ ン	型 式 名	K3M			
	種 類	水冷 4 サイクル 3 気筒ディーゼル			
	総 排 気 量 L {cc}	1,496 {1,496}			
	出 力 / 回 転 速 度 PS {kW} / rpm	25 {18.4} / 2,500	27 {20.0} / 2,500	30 {22.1} / 2,750	
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油			
	燃 料 タ ン ク 容 量 L	30			
	バ ッ テ リ V · Ah	12V · 48Ah (5)			
走	タ イ ヤ	前 輪	6 - 14	7 - 14	7 - 16
		後 輪	8.3 - 24	9.5 - 24	11.2 - 24
軸 距	軸 距 mm		1,700		
	輪 距	前 輪 mm	1,095		
後 輪 mm		1,075, 1,220 (2 段階)		1,110 ~ 1,410 (5 段階)	
行	ク ラ ッ チ 形 式		乾式単板		
	ブ レ ー キ 形 式		ディスク式 (湿式)		
部	か じ 取 方 式		パワーステアリング		
	変 速 方 式		HST		
走 行 速 度	変 速 段 数		前進無段・後進無段 (副変速 3 段)		
	前 進 km / h	0 ~ 12.3		0 ~ 13.0	0 ~ 14.8
後 進 km / h		0 ~ 6.2		0 ~ 6.5	0 ~ 7.4
最 小 旋 回 半 径 mm		2.25	2.35		
P T O	回 転 速 度 rpm		566, 813, 1279		622, 894, 1407
	軸 径 mm		35 (6 スプライン)		
作 業 機 昇 降 装 置		制 御 方 式		ポジションコントロール	
		装 着 方 式		3 点リンク JIS I 形	

※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

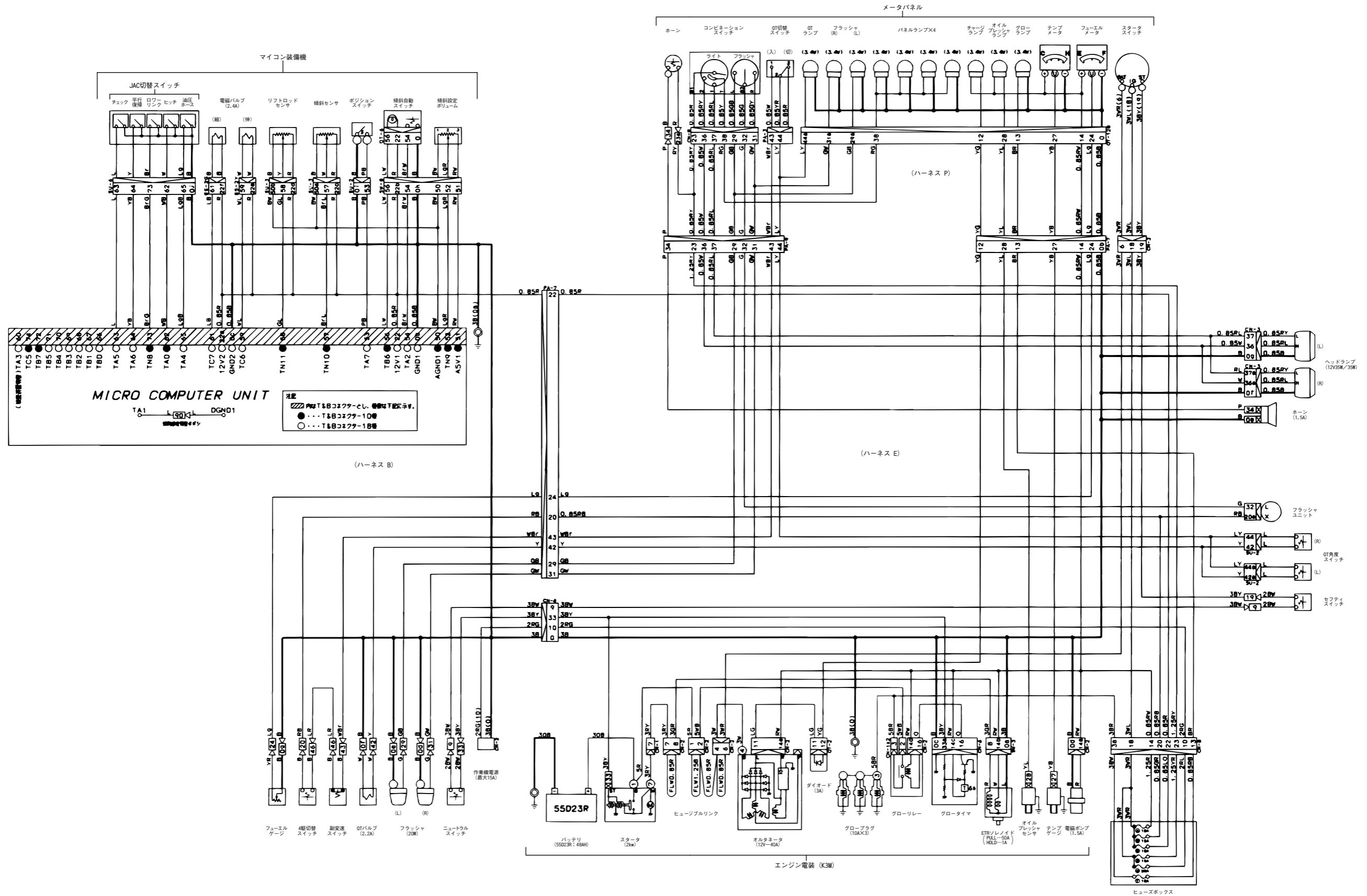
付 表

型	式	三菱MTM250	三菱MTM270	三菱MTM300	
駆 動 方 式		4 輪駆動			
機 体 寸 法	全長 (ロウリンク先端)	mm	2,930		
	全幅	mm	1,315	1,340	1,410
	全高 (ハンドル上端)	mm	1,915 (1,425)	1,945 (1,445)	1,965 (1,470)
	最低地上高	mm	290	305	330
機体質量 (重量) kg		全重量	1,090	1,120	1,175
		前輪/後輪	433/657	466/654	496/679
エ ン ジ ン	型 式 名	K3M			
	種 類	水冷4サイクル3気筒ディーゼル			
	総排気量 L {cc}	1,496 {1,496}			
	出力 / 回転速度 PS {kW} / rpm	25 {18.4} / 2,500	27 {20.0} / 2,500	30 {22.1} / 2,750	
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量 L	30			
	バッテリー V・Ah	12V・48Ah (5)			
走	タイヤ	前輪	6 - 14	7 - 14	7 - 16
		後輪	8.3 - 24	9.5 - 24	11.2 - 24
	軸 距	mm	1,700		
	輪 距	前輪	mm	1,095	
後輪		mm	1,075, 1,220 (2段階)	1,110~1,410 (5段階)	
行	クラッチ形式	乾式単板			
	ブレーキ形式	ディスク式 (湿式)			
	かじ取方式	パワーステアリング			
	変速方式	常時噛合い式 + 選択摺動式			
部	変速段数	前進9・後進3			
	走行速度	前進 km/h	0.73~13.49	0.77~14.24	0.81~14.64
		後進 km/h	1.11~9.62	1.17~10.16	1.23~10.56
	最小旋回半径	mm	2.25	2.35	
P T O	回 転 速 度 rpm	566, 813, 1,279		622, 894, 1,407	
	軸 径 mm	35 (6スプライン)			
作業機昇降装置		制 御 方 式	ポジションコントロール		
		装 着 方 式	3点リンクJIS I形		

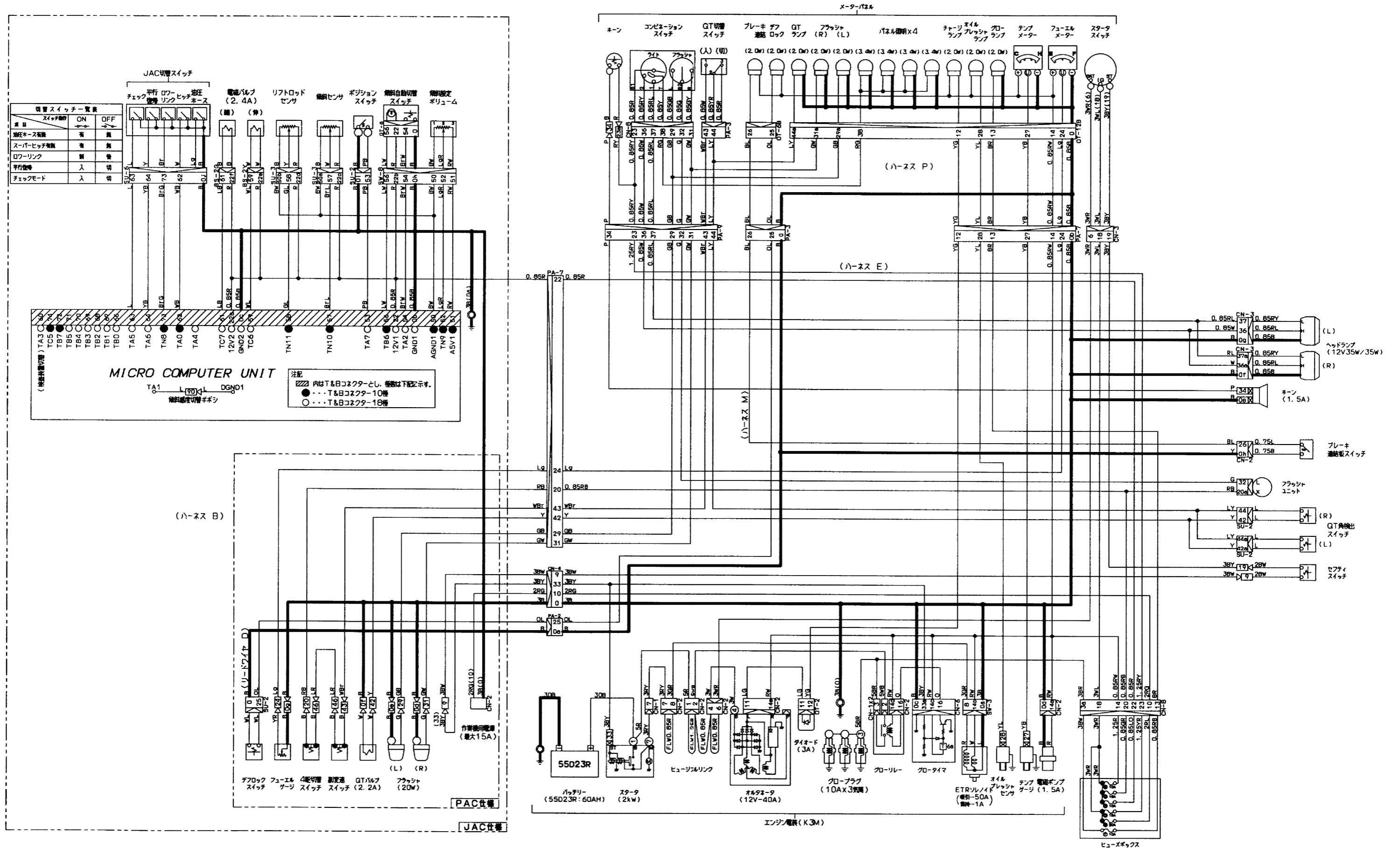
※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

2. 電気配線図

[MTR型]

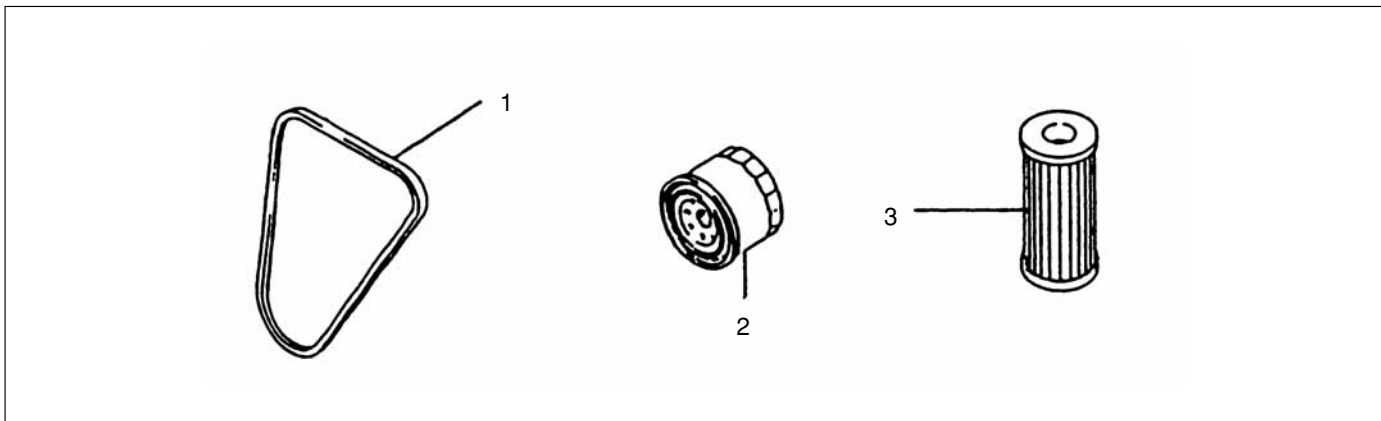


[MTM型]



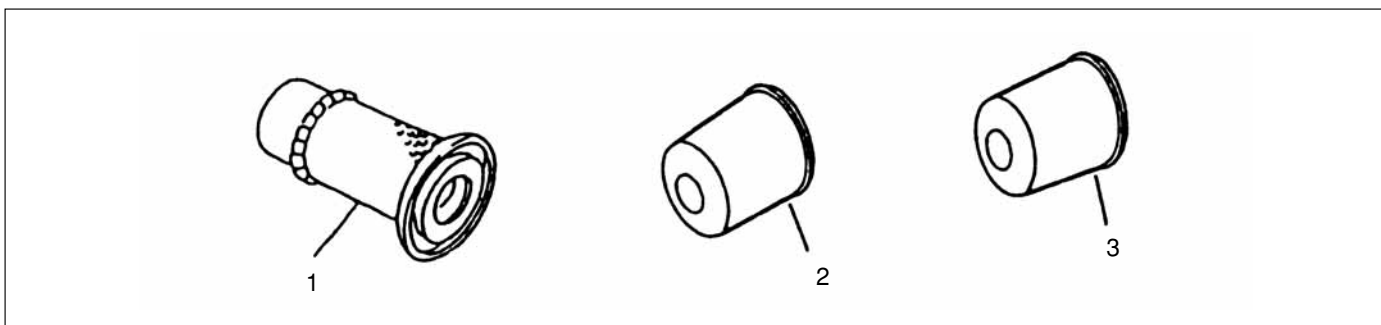
3. 主な消耗部品

1. エンジン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	MD027458	ファンベルト	1		
2	30A40-00100	エンジンオイルフィルタ	1		
3	MM404879	エレメント	1		

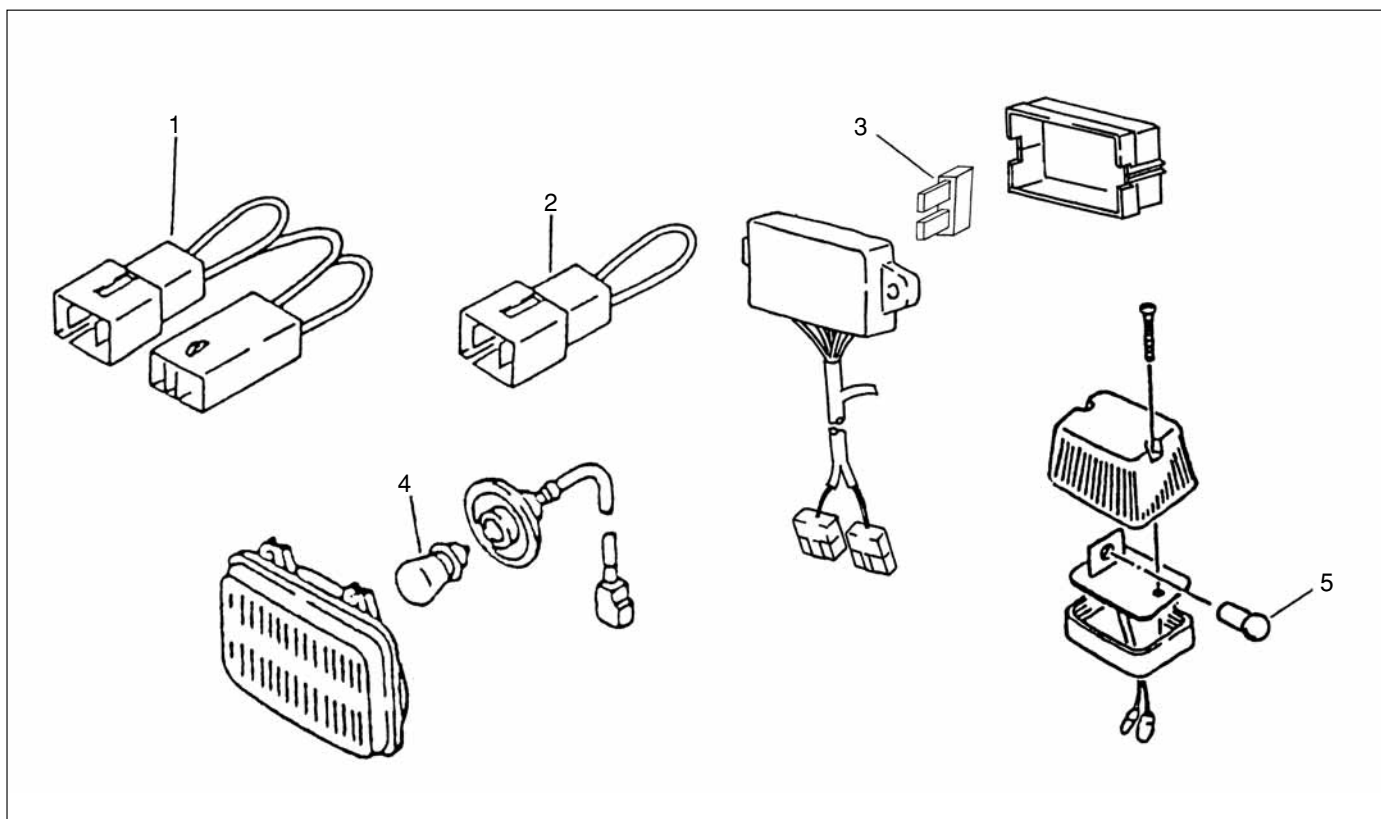
2. エアクリーナ・油圧ライン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	1031 0511 200	エレメント	1		
2	1964 2509 000	油圧オイルフィルタ	1		
3	1963 2558 000	HSTオイルフィルタ	1		HST用

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3. 電装関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	1025 3543 000	ヒューズブルリンク A	1		
2	3732 0838 000	ヒューズブルリンク B	1		
3	0980 1001 005	ヒューズ	3	10 A	
	0980 1001 505	ヒューズ	2	15 A	
	0980 1002 005	ヒューズ	1	20 A	
4	0980 8123 509	バルブ	2	12V-35W/35W	前照灯
5	0980 8122 001	バルブ	2	12V-20W	方向指示灯

4. アタッチメント一覧表

次のアタッチメントを基本作業機として準備しておりますのでご利用ください。

	コードNo.	名 称	型 式	250	250	270	270	300	主 な 仕 様
				型	L 型	型	L 型	型	
1	————	ドローバ	DHS-MTR	○	○	○	○	○	引出し式
2	3210120030	バンパウエイト	BW-1843MT	○	○	○	○	○	20kg 5個まで装着可
3	3210150161	バンパウエイト	BW-F1	○	○	○	○	○	20kg 6個まで装着可
4	3210150171	バンパウエイト	BW-F2	○	○	○	○	○	22kg 6個まで装着可
5	————	バンパウエイト	BW-30	○	○	○	○	○	30kg 6個まで装着可
6	————	トップリンク	TLK-AL1	○	○	○	○	○	
7	3210150211	シャーシウエイト	SW-F2	○	○	○	○	○	32kg
8	————	ルーフキット	F-GO2F	○	○	○	○	○	2柱折り畳み式
9	3214112401	LKホイール (LB)	RLB17	○					8.3-24用
10	3214112751	LKホイール (LA)	RLA20	○					8.3-24用
11	3214112421	LKホイール (LB)	RLB17S/924F2		○	○			9.5-24用
12	3214112771	LKホイール (LA)	RLA200-924F2		○	○			9.5-24用
13	3214112431	LKホイール (LB)	RLB17S-1124F2				○	○	11.2-24用
14	3214112781	LKホイール (LA)	RLA200-1124F2				○	○	11.2-24用
15	————	ダイヤホイール	ND-248	○					8.3-24用
16	————	ダイヤホイール	ND-249		○	○			9.5-24用
17	————	ダイヤホイール	ND-2411				○	○	11.2-24用
18	3255910306	クイックレベラ	JKL-1440F1	○	○	○	○	○	レベラ幅2.2m
19	3255910181	クイックレベラ	JKL-1440DXF1	○	○	○	○	○	レベラ幅2.2m, デラックス型
20	3255910276	クイックレベラ	JKL-1640F2	○	○	○	○	○	レベラ幅2.4m
21	3255910216	クイックレベラ	JKL-1640DXF2	○	○	○	○	○	レベラ幅2.4m, デラックス型
22	3250511641	うね立器ブラケット	TB-GSF23N	○	○	○	○	○	固定式 (ℓ:130)
23	3250511141	反転うね立器ブラケット	TBL-GSF23N	○	○	○	○	○	反転式 (ℓ:130)
24	3250511240	うね立器45型	RR-45F23N	○	○	○	○	○	底幅135mm
25	3250511250	うね立器6型	RR-60F23N	○	○	○	○	○	底幅180mm
26	3252111010	反転式片培土器 (右)	FKR12-FN	○	○	○	○	○	横反転式 (右用) 底幅120mm
27	3252111020	反転式片培土器 (左)	FKL12-FN	○	○	○	○	○	横反転式 (左用) 底幅120mm
28	3252111030	反転式片培土器 (右)	FKR19-FN	○	○	○	○	○	横反転式 (右用) 底幅190mm
29	3252111040	反転式片培土器 (左)	FKL19-FN	○	○	○	○	○	横反転式 (左用) 底幅190mm
30	————	ロードマスタ	HLD-MTR	○	○	○	○	○	制限荷重350kg, 手動レバー式

5. 潤滑油について

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイルについて

メーカ	商 品 名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル (SAE・10W-30)
全 農	クミアイディーゼルマルチオイル (10W-30)
日 石 三 菱	ダイヤモンドHDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカーのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CD級オイルをお使いください。

2. ミッション、フロントアクスルオイルについて

APIサービス分類 GL-4級以上のオイルで湿式ブレーキ適性のあるもの。

銘柄 (メーカー)	オ イ ル 商 品 名
三菱農機純正油	マルチGBオイル (SAE・80W)
	マルチSTOUオイル (SAE・10W-30)
日 石 三 菱	ダイヤモンドファームギヤオイルB (SAE・80W)
	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル (SAE・10W-30)
	アントイルB (SAE・80W)
全 農 昭和シェル石油	クミアイトラクタオイル (SAE・80W)
	ギヤオイルHTS-56スーパー (SAE・80W)

※商品名は変更することがあります。

3. 三菱農機 **純正油** マルチオイル

- ・マルチ^{ストー}STOUオイルは、1種類でエンジンオイル、ギヤオイルとして、一年中ご使用いただける、オールシーズンタイプです。
- ・マルチGBオイルは、ギヤおよび湿式ブレーキの特性を考慮して開発された、ギヤ（G）と湿式ブレーキ（B）専用オイルです。
- ・マルチSHPギヤオイルは、ギヤ専用オイルです。



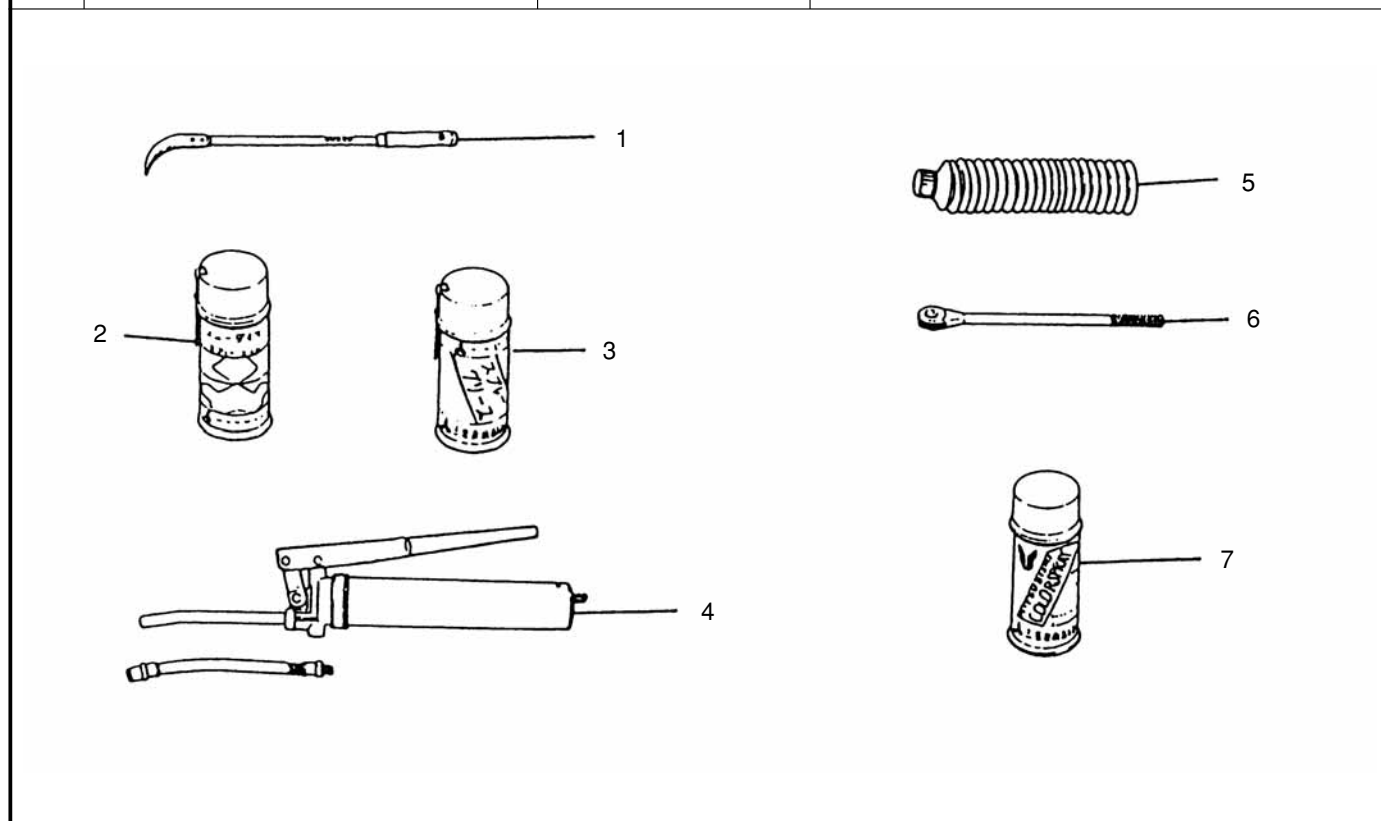
性状		品名	マルチSTOUオイル	マルチGBオイル	マルチSHPギヤオイル
密度	15℃ g/cm ³		0.881	0.893	0.900
引火点	℃		210	230	230
流動点	℃		-37.5	-35.0	-22.5
動粘度cSt	@ 40℃		62.0	78.4	188.5
	@ 100℃		10.8	9.8	17.5
粘度指数			168	104	100
A P I サービス分類			SD/CD/GL-4	GL-4	GL-5
S A E 粘度番号			10W-30	80W	90
荷姿			ドラム・20ℓ缶	20ℓ缶	ドラム・20ℓ缶

- ・お買い求めは、弊社「特約販売店」で取扱っていますのでご相談ください。

6. トラクタ関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商 品 名	商 品 番 号	
1	万能鎌 (ノコ刃)	S309DX	土, ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー (防錆・潤滑)	K1-420DX	金属部品の防錆, 潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850-666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	ラチェットレンチ (17)	HT3100	爪の脱着, 増締
7	カラスプレー (赤)	0975 0000 490	補修用塗料
	〃 (白)	0975 0000 160	
	〃 (黒)	0975 0000 470	



・ご用命のときは、「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

7. 用語解説

取扱説明書に使用している専門用語の意味は次の通りです。(アイウエオ順)

アタッチメント……トラクタ購入後に取付ける部品。

アワメータ……作業時間の集計を表示する装置。

安全フレーム……運転者を保護する目的のフレーム。

インジケータランプ……メータパネル内の光る表示灯。

エアベントスクリュ……ホース内（燃料ライン）の空気を抜くスクリュ。

H S T……クラッチを踏まずに無段階で変速できる装置。

オルタネータ……発電機

グロ……予熱

3点リンク……トップリンク、ロワリンク、リフトロッドの3点で作業機を支持する構造。

J A C……耕深を自動的にコントロールできるとともに、耕うん面を水平に保持することができる装置。

スーパーヒッチ……トラクタにのったままでロータリの着脱や作業機の装着が容易にできる取付装置。

セレクタ……スイッチの切替えて自動制御を切換える装置。

ダイヤクイックターン……旋回時に前側のタイヤが高速で回転し、小回りできる構造。

チェックチェン……中央を回転させることによりロッドの長さを変えて、ロワリンクのふれを調整できる部品。

トーイン……前輪を上からみて前方が後方よりせまくなっている状態。

トップリンク……作業機の上部とトラクタを連結する部品。

ドローバ……トラクタ後部に取付けることによって、トレーラ等をけん引することができる部品。

トレッド（輪距）……左右のタイヤ中心間の距離。

P A C……耕深を自動的にコントロールする装置。

ヒューズブルリンク……電気装置に過電流が流れた時に電気をしゃだんする部品。

P T O……作業機の動力軸。

フロントアクスル……前輪部を駆動させる部分。

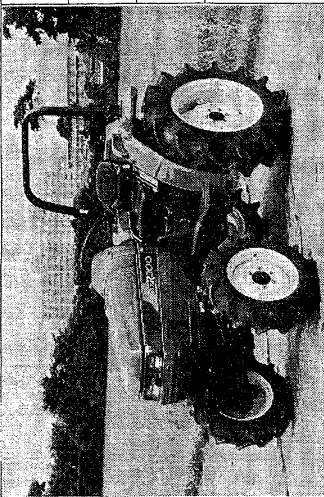
フロントローダ……トラクタ前部に取付ける作業機で、ローダ作業を行うもの。

リフトアーム……トラクタが作業機を上げる為のアーム。

リフトロッド……リフトアームとロワリンクを連結する部品。

ロワリンク……作業機の下部とトラクタを連結する部品。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表



型式名：三菱 2F300

合格番号：96046

種類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：三菱農機株式会社
住所：鳥取県八束郡東出雲町大字増屋町
667番地1



4. 主要材料
- 主フレーム：STKR 400, STKW 12C, SS 400, SPHC, SM 490 B, SPCC
 - 装着ブラケット：SPHC, SM 490 B
 - 組立・装着ボルト：S45C, SCM 435

III 検査成績

1. 強度試験
- 1) 水平負荷試験は、フレームの後部左側、側部右側に対して実施。
- 基準質量：1200 kg
 - 所要吸取エネルギー：後部負荷 1.93 kJ (197 kgf・m)
側部負荷 2.78 kJ (284 kgf・m)
 - 圧壊力：17.65 kN (1800 kgf)
- 2) 試験後のフレームの永久変位
- 後部(前方へ)：右側 14.5 cm 左側 14.0 cm
 - 側部(左側方へ)：10.0 cm
 - 上部(下方へ)：右側 1.0 cm 左側 1.5 cm
- 3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：8.5 cm

2. 騒音

- 90 dBA (三菱 MTR300) 90 dBA (三菱 MTR250)

※ 7.5km/hに近い速度で、けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

IV 付記

強度試験はコードIIにより実施した。

I 装着可能トラクター

1. 型式名
- 三菱 MTR300 三菱 MTR270 三菱 MTR250

2. 主要諸元 (最大及び最小トラクター)
- | | | |
|--------------|----------------------------------|------------------|
| ■型式 | 三菱 MTR300 | 三菱 MTR250 |
| ■種類 | 4輪駆動 | 4輪駆動 |
| ■質量 (フレーム付き) | kg : 1180 | 1066 |
| ■軸距 | mm : 1700 | 1700 |
| ■機関出力 / 回転数 | kW (PS) / rpm : 22.1 (30) / 2750 | 18.4 (25) / 2500 |

II 構造の概要

1. 構造及び装着法
- 供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり、防振ゴム・取付金具を介して油圧シリンダケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
- なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2. 主な装備
- シートベルト (2点式)
3. 主要寸法 ※
- 座席基準点から屋根部材 (下面) までの高さ : 85.5 cm
 - フートプレートから屋根部材 (下面) までの高さ : 127.5 cm
 - 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅 : 84.0 cm
 - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅 : - cm
 - 戸口の幅 (上部) : - cm
 - (中部) : - cm
 - (下部) : - cm
 - (フートプレートから) : - cm
 - 戸口の高さ : 48.0 cm
 - 最低ステップの高さ : 197.0 cm
 - フレーム装着時のトラクターの全高 (屋根部材上面まで) : 120.0 cm
 - フレームの全幅 : 31.0 cm
 - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離 : - cm

※ 1. 三菱 MTR300 (タイヤサイズ：前輪 11.2-24) に装着時。
2. トラクターシートの銘柄形式：難波プレス工業、GOシート

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買いあげ先へお問合わせください。

- ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…?

型 式

機械番号(製造番号)

- ご使用状況は…?

(何速で、どんな作業のとき)

- どのくらい使用されましたか?

(約 _____ アール使用后)

- トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



どんなに小さなことでも、
お気軽にお問合わせ
ください。

(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL ()

三菱農機株式会社

本社	島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667-1 〒699-0195 ☎ (0852)52-2111(代)
営業本部	東京都新宿区富久町15番地1号 三菱重工新宿ビル 〒162-0067 ☎ (03)5360-7330(代)
札幌支店	千歳市上長都1046 〒066-0077 ☎ (0123)22-1213
仙台支店	宮城県多賀城市宮内2-3-1 〒985-0844 ☎ (022)364-1181
秋田営業所	秋田市寺内神屋敷295-28 〒011-0901 ☎ (0188)46-6530
東京支店	埼玉県北葛飾郡鷺宮町桜田2-133-4 〒340-0203 ☎ (0480)58-9511
新潟営業所	新潟県西蒲原郡黒崎町大字山田字中道上 〒950-1101 ☎ (025)267-6112
千葉営業所	千葉県八街市吉倉字菜飯506-21 〒289-1133 ☎ (043)445-6144
名古屋支店	愛知県海部郡美和町大字二ツ寺字東高須賀1 〒490-1207 ☎ (052)445-4300
三重営業所	三重県安芸郡安濃町大字内多字蓮善田2504-1 〒514-2303 ☎ (0592)68-1255
西日本支店	岡山県邑久郡邑久町豆田大字東大上161番1 〒701-4254 ☎ (08692)4-0808
広島営業所	東広島市西条町大字御園字字湯之元6400-5 〒739-0024 ☎ (0824)22-6767
島根支店	島根県八束郡東出雲町大字下意東1508 〒699-0102 ☎ (0852)52-2110
九州支店	佐賀県鳥栖市藤木町字若桜7-1 〒841-0048 ☎ (0942)85-2821
熊本営業所	熊本県熊本市下硯川町2202-1 〒861-5522 ☎ (096)322-1142

販売会社

(販売会社は広域販売会社のみを記載)

北海道 三菱農機販売株式会社	北海道千歳市上長都1046 〒066-0077 ☎ (0123)22-1234
東日本 三菱農機販売株式会社	宮城県多賀城市宮内2-3-1 〒985-0844 ☎ (022)364-1188
関東甲信越 三菱農機販売株式会社	埼玉県北葛飾郡鷺宮町桜田2-133-4 〒340-0203 ☎ (0480)58-9521
北陸 三菱農機販売株式会社	福井県福井市問屋町2-38 〒918-8231 ☎ (0776)22-1965
東海 三菱農機販売株式会社	愛知県海部郡美和町大字二ツ寺字東高須賀1 〒490-1207 ☎ (052)445-4861
西日本 三菱農機販売株式会社	岡山県邑久郡邑久町豆田161-1 〒701-4254 ☎ (08692)4-0820
山陰 三菱農機販売株式会社	島根県八束郡東出雲町大字下意東1508 〒699-0102 ☎ (0852)52-2110
九州 三菱農機販売株式会社	佐賀県鳥栖市藤木町字若桜7-1 〒841-0048 ☎ (0942)84-1888